

# かわせみ

*カワセミ* kawasemi *カワセミ*  
*カワセミ*

1997. 夏号



19号

冬鳥一斉調査に82名参加68種確認

サンコウチョウ抱卵の記録：15時間40分

八王子カワセミ会は  
浅川周辺の野鳥を観察する市民グループです



## CONTENTS

### 浅川周辺の野鳥・風景

#### 調

#### 査

平成9年冬鳥一斉カウント結果	・・・6
平成8,9年度(1996,7)繁殖調査結果	・・・12
ハクセキレイの集団ねぐら(1996年7月~1997年6月)	・17
ヒメアマツバメの動向(1997年1月~6月)	・・・18
平成9年 カルガモ繁殖状況調査結果	・・・19
平成9年 オオルリ他夏鳥調査結果	・・・21
高尾山カウント結果(1996年)	・・・24
東京都鳥類繁殖分布調査結果	・・・27
鳥の生息環境モニタリング調査結果	・・・30
城山川上流・河川改修地区の野鳥	・・・32
サンコウチョウの抱卵記録	・・・34
カワセミの巣穴の観察	・・・45

鳥信 (主として1997年1月~6月までのもの)	・・・48
--------------------------	-------

#### 通

#### 信

安曇野だより No.6(大関豊)	・・・58
庭にくる野鳥(今井達郎)	・・・59
九州探鳥会の記録(阿江範彦)	・・・60
探鳥日誌(鹿児島県加治木町須崎)(大関豊)	・・・62
軽井沢探鳥会(青木繁昌)	・・・64
戸隠探鳥会に参加して(白川史子)	・・・66
〃 (倉本修)	・・・68
浅川の空き缶拾い&探鳥会(門口一雄)	・・・72
野鳥の声入門に出席して(夏目満子)	・・・74
臨時室内例会概要「野鳥の声入門」(門口一雄)	・・・75
自然復元用水路・新井用水ふれあい水辺(粕谷和夫)	・・・86
対馬探鳥記(馬場 裕)	・・・87
エバークレース探鳥旅行(藤本ヤスコ)	・・・91

八王子カワセミ会の主な調査範囲



# 浅川周辺の野鳥

浅川周辺

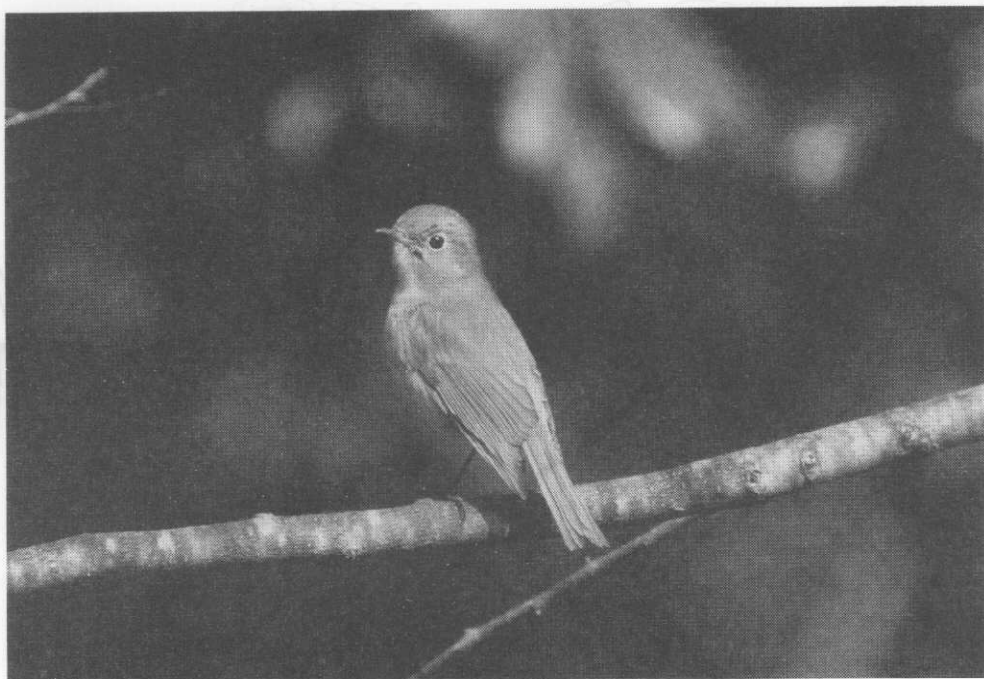
8	...	果樹イビウイ...	...
21	...	果樹...	...
71	...	(月8#7001~月7#8001)...	...
81	...	(月8~月1#7001)...	...
91	...	果樹...	...
12	...	果樹...	...
42	...	(#8001) 果樹...	...
72	...	果樹...	...
80	...	果樹...	...
92	...	果樹...	...
46	...	果樹...	...
54	...	果樹...	...



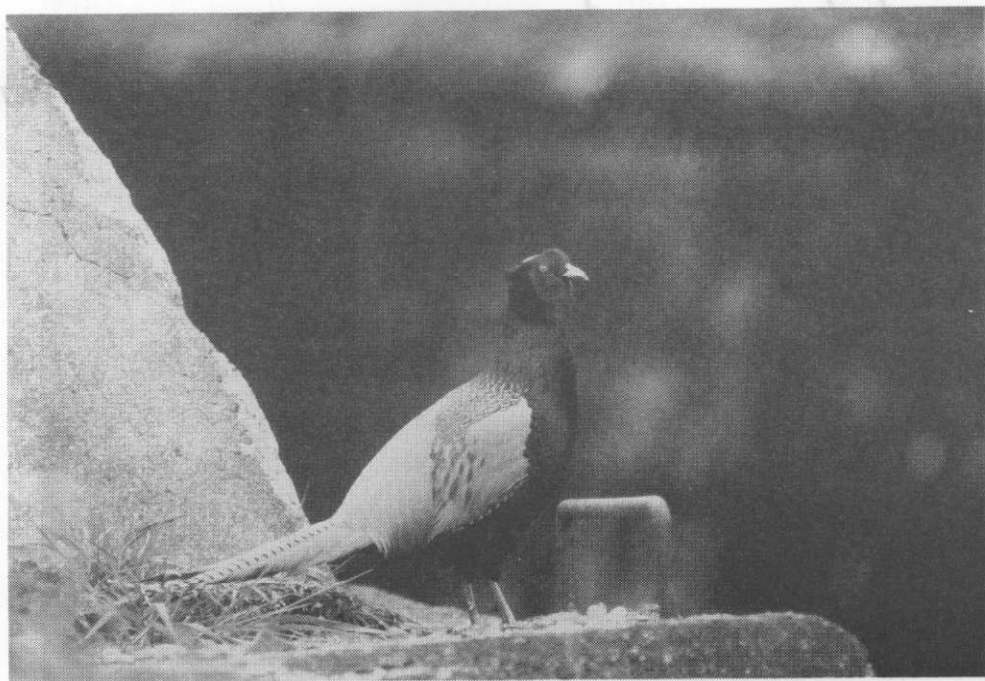
84... (のまの7月8~月1#7001...)



チョウゲンボウ (ひな) / 1997.5 / 八王子市内ビル屋上

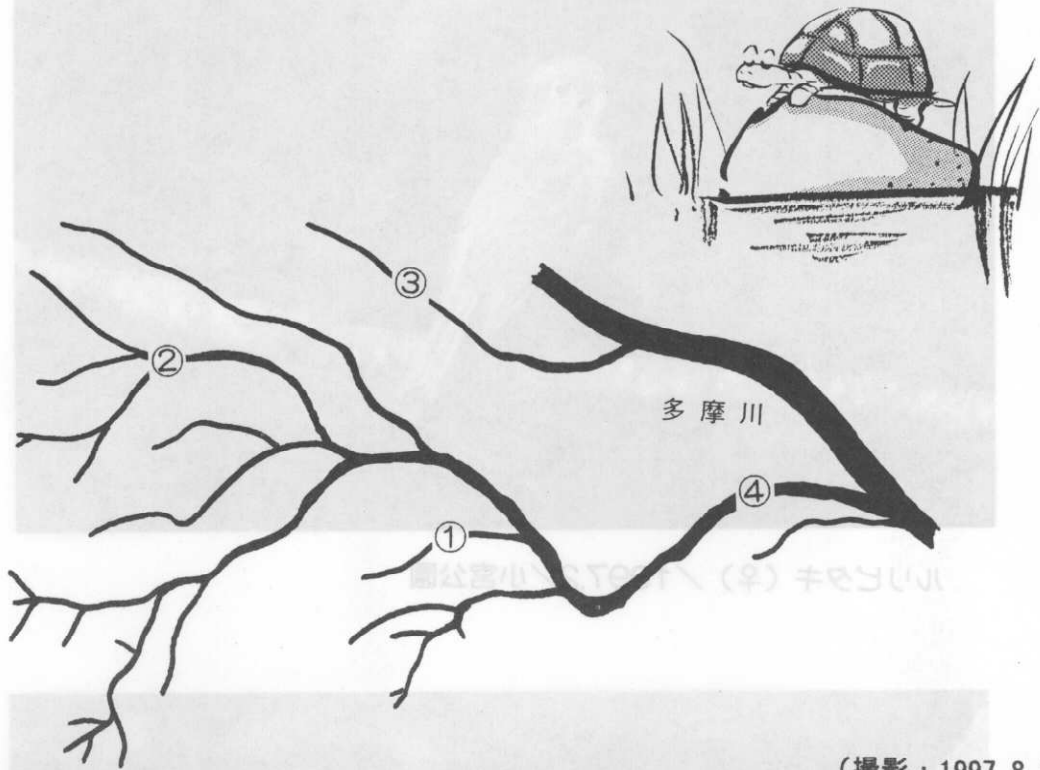


ルリビタキ (♀) / 1997.2 / 小宮公園

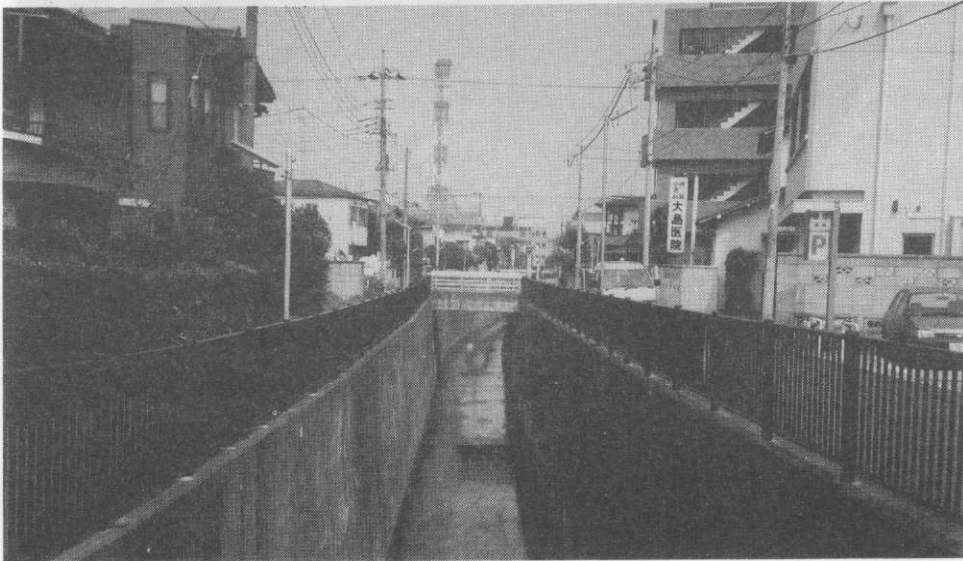


キジ (♂) / 1997.4 / 南浅川 (撮影前項共：川上 恚)

# 浅川周辺の風景



(撮影：1997. 8. 3)



① 山田川中流（とちの木橋）



② 北浅川上流（陵北大橋）



③ 谷地川中流（城山下橋）



④ 浅川下流（高幡橋）

## 平成9年度 冬鳥一斉カウント結果

阿江 範彦

本年も昨年同様、1月に冬鳥の一斉カウントを実施しました。この調査は、1984年から実施している調査で、本年で14年目となります。

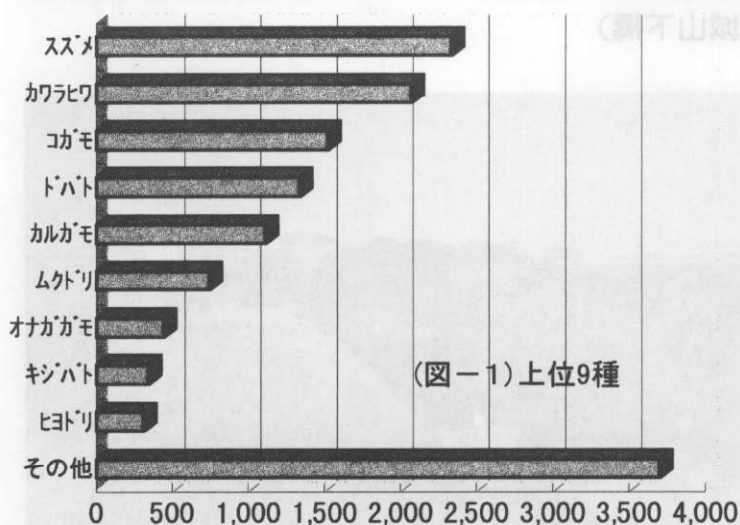
調査範囲も、今回から程久保川 2.9km と谷地川 7.3km が加わり、調査総延長は 59.7 km となりました。

結果は、68種、13,908羽の野鳥を82名の会員の協力のもとに数え上げました。特筆すべき野鳥として、オオタカが谷地川で2羽、浅川本流の下流

年次	浅川本・支流		程久保・谷地川		調査人数
	総数	種類	総数	種類	
1991	11,356	60	—	—	31
1992	12,825	59	—	—	41
1993	13,557	60	—	—	46
1994	12,787	60	—	—	40
1995	11,917	61	—	—	41
1996	11,615	62	—	—	67
1997	12,226	66	1,682	42	82

部で1羽。ハイロチュウヒが谷地川で1羽。マヒワが浅川本流で18羽、川口川で2羽、谷地川で3羽の合計23羽。ベニマシコが谷地川で1羽。ウソが川口川で1羽。ガビチョウが北浅川でそれぞれ確認されています。

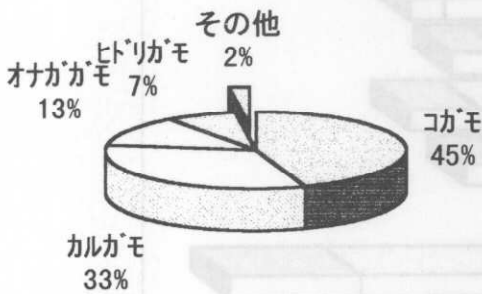
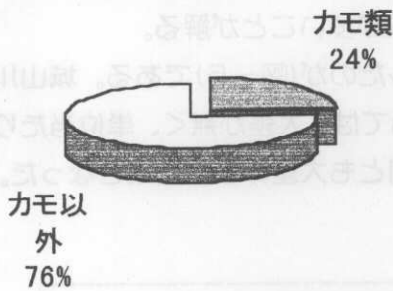
(表-1) 1991年からの総括表



昨年までと同じ調査範囲で比較してみても、今年は、例年になく野鳥の種類が多かった(表-1)。また、出現数の多い上位9種は(図-1)のとおりでした。



(図-2) 総出現数に占めるカモの割合



(図-3) カモの種類ごとの比率

(1) カモ類の割合

全羽数 13,908 羽の内、カモ類は 6 種出現し 3,403 羽で 24% を占めた (図-2)。

種類別には、多い順にコガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモと続き、その他、2% の内訳は、キンクロハジロ (3 羽) とミコアイサ (1 羽) の 2 種であった。

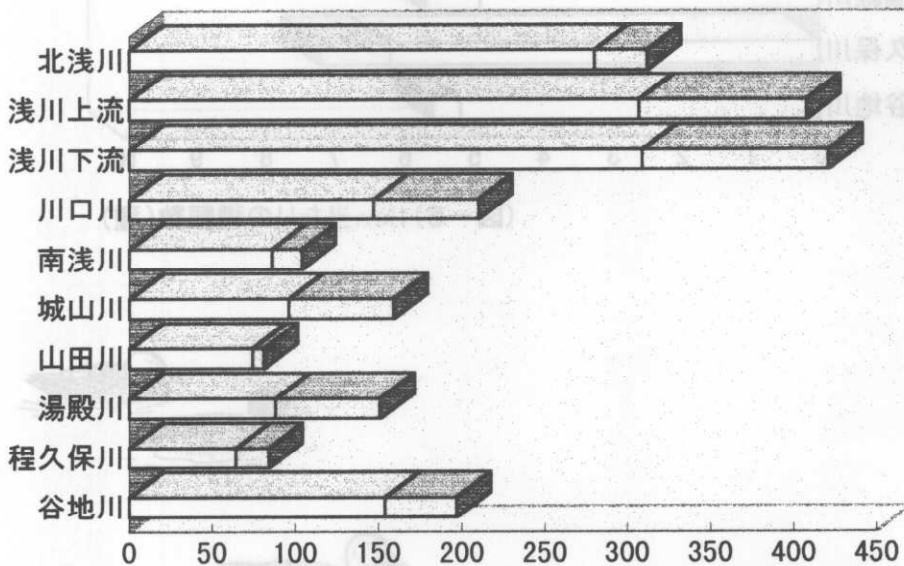
コガモとカルガモでカモ全体の 3/4 を占めた (図-3)

(2) 1 km 当たりの数

区域ごとの 1 km 当たりの総出現数は、(図-4) のとおりである。

グラフの右はカモ類の数、左はカモ以外の数を表す (図-5 共)。

野鳥の数は、浅川本流と北浅川に多



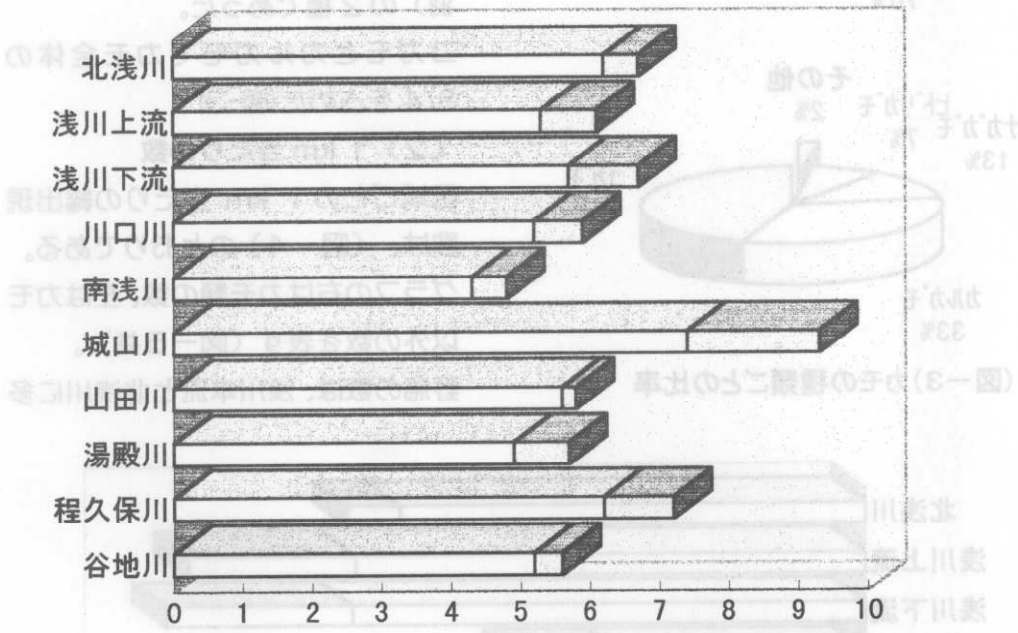
(図-4) 1km 当たりの総羽数 (羽)

く、山田川、南浅川、程久保川に少ない結果となった。また、今回から調査対象となった、谷地川は、川口川と同等の結果であった。

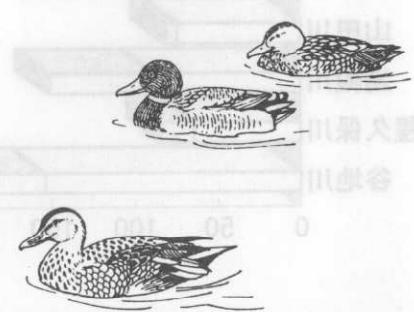
カモ類の数について見ると、浅川本流に多く、山田川、南浅川、程久保川に少ない結果となった。これは、野鳥全体の数の傾向と同じである。北浅川は、カモ類以外の野鳥が多いがカモ類は少ない結果となった。また、北浅川から浅川下流迄で見ると下流に行くほどカモ類の数が多いことが解る。

区間ごとの1 km 当たりの種類数を表したのが(図-5)である。城山川が、野鳥の種類が多い。それ以外の区域については、大差が無く、単位当たりの総出現数の少ない山田川、程久保川、南浅川とも大差のない結果となった。

1) セトマにミヨ (図5) ロセ/ハロ



(図-5) 1km当たりの種類数(種)



### (3) 年次変化

これまでの、調査区域である浅川本・支流の範囲について、主な野鳥の年次変化を見ると(表-2)のとおりである。

表から、カルガモ、セグロセキレイの減少。ドバトの増加が見られる。

また、昨年と比べるとカワラヒワが約1,000羽増え、スズメが約1,000羽の減となった。これにより1991年から1996まで第二位だったコガモに替わり本年は、カワラヒワが第二位となった。

カワセミは、11羽減の22羽、谷地川と程久保川を加えると29羽が確認された。

(表-2) 出現数の多い野鳥及び主な水辺の野鳥の年次変化

	1991年	1992	1993	1994	1995	1996	1997
スズメ	1,987	2,543	2,736	2,414	2,120	2,846	1,968
カワラヒワ	819	835	1,593	956	1,100	905	1,907
コガモ	1,326	1,797	1,944	1,605	1,510	1,193	1,381
ドバト	544	616	663	1,203	1,060	830	1,238
カルガモ	1,087	1,097	1,054	943	892	996	897
ムクドリ	609	958	664	586	762	532	622
カワ	108	76	230	236	120	110	83
コサギ	54	66	93	168	167	125	110
ハセキレイ	182	200	165	197	219	202	183
セグロセキレイ	236	275	237	213	226	183	173
カセミ	13	24	14	16	19	33	22

注) (表-3) の凡例

①	北浅川	大沢橋～陵北大橋	⑪	南浅川	案内橋～敷島橋
②		陵北大橋～松枝橋	⑫		敷島橋～合流部
③	浅川	松枝橋～鶴巻橋	⑬	城山川	月夜峰新橋～合流部
④		鶴巻橋～大和田橋	⑭	山田川	山田橋～合流部
⑤		大和田橋～長沼橋	⑮	湯殿川	白旗川～時田橋
⑥		長沼橋～一番橋	⑯		時田橋～合流部
⑦		一番橋～ふれあい橋	⑰	程久保川	小宮橋～合流部
⑧		ふれあい橋～合流部	⑱	谷地川	月見橋～左入橋
⑨		川口川	⑲		左入橋～合流部
⑩	川口川	明治橋～合流部			

(表-3)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	合計		
5 カクアブリ		4					1												5		
40 カク			4	19	11	7	8	19		5	4				1	5		1	84		
52 コイキ							15	21			4	9					1	2	52		
57 タイキ		1	2	5	4	5	3	1	1			4			1			3	33		
59 コキ	7	21	6	16	3	10	14	9	2	2		5	4	2	5	4	4	4	142		
62 アキ					8	1	2	2										2	15		
69 クロキ					1	1													2		
87 ヲモ		5	4	1	1	2	2	8		3	13		2						41		
88 カルモ	25	85	24	93	21	38	94	15	78	93	36	34	50	32	59	120	35	100	78	1,110	
89 ヲモ	20	58	40	218	181	107	201	118	64	106		31	102		65	70	15	99	29	1,524	
93 ヒトリカモ				28	42	111	64						2			2				249	
95 オカカモ			8	84	37	54	54	2	31	55		23	13		47	17	7	10		442	
97 バビモ					17	5	2				3					4				31	
104 キンクロハシロ							5													5	
115 ミアチ						1														1	
120 トビ		1		2	2									1					1	7	
123 オカカ							1											1	1	3	
126 バイカ							1													1	
137 バイロチュウヒ																			1	1	
145 チョウゲンボウ			1				1													2	
151 キン		3																		3	
177 伊勢トドリ	2	6	1	4	10	12	15	16												66	
196 ハンキ					7	16	23													46	
214 クシキ			1																	1	
218 イノキ		1	4	2	2	6	16	10		1					1	2				45	
230 タシキ					2	3	2													7	
245 エリカモメ	1	2	3	173	40	21	23	6				12	2			1				284	
246 セウロカモメ			1	3	3	2	4	1				1			1	1				17	
296 キンバト	24	21	11	21	21	16	16	25	22	27	16	5	9	15	7	17	12	16	40	341	
326 カワセミ	2	5	1		3	2	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1		5	2	29	
331 アオガラ		1							1	1	1			1					1	5	
339 コガラ	2	1		2	2	5	1	1		2				1	4					21	
344 ヒバリ						1													1	2	
354 キセキレイ	5	3	2	1	3	3	2	3	5	10	9	2	7	2	3	4		4	1	69	
355 ハクセキレイ	7	2	5	9	14	10	22	16	9	9	5	9	11	13	14	28	9	14	7	213	
356 セウロセキレイ	18	23	6	13	7	13	17	12	8	16	3	8	6	4	8	11	12	12	9	206	
360 ビンズイ							1		1											2	
363 タヒバリ	1	1	3	3	17	9	7	12	1	8		2	3		1	7	1		1	77	
367 ヒヨドリ	30	15	14	16	23	14	17	11	10	13	28	8	5	21	5	20	18	17	25	310	
369 モス	3	1	1	8	4	2	5	3	4	4	2	3			1	3		1	5	60	
376 ミナサズイ	1																			1	
387 ジョウビタキ	5	2	3	8	5	2	5	1	5	3	4	4	1	2		6	1	7	1	65	
400 アオハラ									1					1						3	
405 ツクミ	10	21	11	18	37	12	17	28	8	11	8	11	11	9	5	10			15	32	274
410 ウグイス	1	4	1	1	1		1	2	4	1						1		4	2	23	
425 セッカ								3												3	
435 エナカ																				10	
440 ヤマコ	1		2									4			10				2	19	
441 シシユウカラ	17	63	6	4	14	14	10	10	12	14	14			9	1	10	7	60	5	270	
444 ミジロ	3	1	4		2	2	1	2	1				5	45		4	1	3		74	
449 ホオジロ	56	66	9	10	22	13	33	20	9	4	16	1		5		1	5	18	19	307	
455 カシラカ	52	40	1	5	4	3	30		1		7			10		5				158	
461 アオジ	16	19	4	14	20	17	22	24	17	6	10		2	15	1	10	1	15	4	217	
471 カガラヒ	106	430	200	146	143	79	135	172	48	241	2	75	78		12	40	35	87	41	2,070	
472 マヒ				9		9			2		2								3	23	
481 ベニマンコ																			1	1	
483 クジ										3										3	
486 シメ	5	20	3	5	2		1	6	3			1		1	2	2		9	8	68	
488 スズメ	59	210	51	225	248	178	145	207	92	140	70	46	52	55	70	120	40	66	260	2,334	
493 ムクドリ	22	20	22	103	53	82	60	67	18	48	25	16	30	23		33	20	58	44	744	
496 カラス	2								2		2									6	
498 オナカ					2			7	4	8		1		8					7	37	
503 ハンボウガラス	7	12	10	12	7	5	18	10	8	10	2	7	5	11	3	13	9	6	16	171	
504 ハンボトガラス		15	2	3	35	1	3	3	6	5	18	2	5	3	5	6			7	22	141
900 アヒル							1	1											1	3	
901 ドバト	18	101	80	268	41	110	164	89	7	104	60	85	21	62	12	10	8	70	25	1,335	
912 マカモ																2				2	
960 ガビチョウ	2																			2	
合計	530	1,284	551	1,552	1,123	1,018	1,289	943	490	954	370	411	428	364	330	589	243	733	706	13,908	
種類数	32	36	38	37	44	42	46	38	36	31	26	28	25	26	24	34	21	39	27	68	
参加者数	6	4	3	3	2	6	7	4	7	5	6	2	4	5	1	8	2	5	2	82	

(表-4) 本年の調査区域と調査担当者

	調査区域	延長	参加者
1	北浅川 大沢橋～陵北大橋	3.3	今井達郎 前田善明 関根伸一 柚木育子 白川史子 渡辺仁
2	陵北大橋～松枝橋	2.7	河村洋子 河村道寛 峰尾章伍 由井孝明
3	浅川本流 松枝橋～鶴巻橋	2.1	清水茂 福井司郎 大関豊
4	鶴巻橋～大和田橋	3.1	田中英吉 田中清子 本島てる美
5	大和田橋～長沼橋	2.7	湯原直彦 倉本修
6	長沼橋～一番橋	3.5	山崎悠一 山崎久美子 丸山二三夫 嶋崎太郎 渡嘉敷敏子 直江和子
7	一番橋～ふれあい橋	2.1	馬場裕 馬場百合亜 藤本ヤス子 菊池美智子
8	ふれあい橋～合流部	2.3	阿江範彦 小塩菊子 藤本ヤス子 菊池美智子
9	川口川 川口橋～明治橋	3.1	古山隆 杉森熊二 杉森ユリ 川戸恵一 栗原勝 栗原正江 鈴木章七
10	明治橋～合流部	3.8	三好恒雄 小沢礼子 小沢節子 井上典子 永見博子
11	南浅川 案内橋～敷島橋	3.3	川上圭 夏目昌明 夏目満子 志村進 横山由美子 久保田ヤス子
12	敷島橋～合流部	4.2	榛沢務 山浦秀雄
13	城山川 月夜峰新橋～合流部	2.7	木村晴美 小池一男 中村保一 千葉慎子
14	山田川 山田橋～合流部	4.5	門口一雄 門口裕子 青木一男 平井国二 平井智恵子
15	湯殿川 白旗橋～時田橋	2.3	三富恒男
16	時田橋～合流部	3.8	粕谷和夫 高橋節子 佐藤哲朗 佐藤亮 栗原友子 加藤六郎 木村信幸 小笠原敏子
17	程久保川 小宮橋～合流部	2.9	谷井正剛 青木紫昌
18	谷地川 月見橋～左入橋	3.2	井手龍世 新田茂
19	左入橋～合流部	4.1	大川征治 大川香 神谷古牧 中村啓二 中村美弥子
合 計		59.7 (Km)	

## 平成8,9年(1996,7)繁殖調査結果

日本野鳥の会東京支部が実施している繁殖調査に本会も毎月の定期カウント調査地を主な調査対象地として参加しています。96年と97年の結果の内、「繁殖段階4(繁殖確実と思われるもの)及び5(繁殖を確認したもの)」と判断されたものは次の通りです。

なお、繁殖段階4及び5と判断した根拠は次の通りです(取りまとめ:粕谷和夫)。

### 段階4:繁殖確実と思われる

- ①家族群を観察した
- ②巣材運び等の造巣行動を観察した
- ③巣が有ると思われる所に成鳥がしばしば現れるのを観察した
- ④求愛行為、求愛ディスプレイ、交尾等を観察した
- ⑤威嚇や警戒行動等、近くに巣が有ると思われる行動を観察した
- ⑥繁殖期に営巣出来る環境で、その鳥の囀りを何回も聞いた

### 段階5:繁殖を確認した

- ①ヒナや卵の有る巣を確認した
- ②抱卵・育雛中の巣を確認した
- ③使用されている巣や巣の有る所へ成鳥が出入りしているのを確認した
- ④巣立ち直後や巣から落ちたと思われる雛を確認した
- ⑤巣立ちした巣を確認した
- ⑥擬傷行動、その他確実な繁殖した事実を確認した

また、次表にないもので主なもの(96、97年)は次の通りですが、具体的な場所は割愛します(いずれも営巣したもの)。今後、ガビチョウの繁殖動向が気になるところです。

- 120・トビ:メッシュNo.33、39
- 123・材効:メッシュNo.33、34、39、40、41、45
- 145・チョウゲンボウ:メッシュNo.40、45
- 314・アオバズク:メッシュNo.45
- 315・フクロウ:メッシュNo.45
- 319・ヒメアマツバメ:メッシュNo.40
- 331・アカガラ:メッシュNo.33、40、45
- 349・ゴシキアマガハメ:メッシュNo.45
- 434・オノガハチョウ:メッシュNo.26



1996年浅川流域野鳥繁殖調査結果(繁殖段階4及び5と判断したもの)

調査地	醍醐 川下 流	小仏 城山	小下 沢	高尾 山大 垂水	北浅 川深 *陵	北浅 川陵 *松	浅川 松* 中	川口 川明 *川	川口 丘陵	八王 子城 跡	高尾 山琵琶 湖	高尾 山蛇 流	城山 川上 流	谷地 川
メッシュ番号	26	27	27	28	33	33	33	33	33	34	34	34	34	38
調査者	尾又	小池	阿江	川上	今井	河村	福島	鈴木	粕谷	粕谷	木村晴	粕谷	川上	粕谷
52	コイキ													
59	コギ													
88	カガモ				4①	4①		4①						4①
120	トビ								5①					
123	オオカ								5③⑤					
145	チョウゲンボウ													
149	コシユクイ				4①				4⑥	4⑥				
151	キジ				4⑥									
167	バン													
176	コトドリ													
218	イソギ													
296	キジハト				5②	4②								
318	ヒマツツハメ													
328	カサシ					4④								
331	アオガラス													
338	ウラ	4⑥												
344	ヒバリ													4⑥
347	ツハメ				5①	4①		4①				5①	4②	5①
350	イワツハメ											5①		5①
354	キセキレイ		4②		4②	4②					4⑥		4③	
355	ハウセキレイ													
356	セウロセキレイ				5①	4①		4①						4①
387	ヒトリ	4①			5①			4①			4①			4①
389	モズ			4②⑤		4①			5③					
378	ミソサザイ	4⑥										5⑥		
399	クロツクミ	4⑥								4⑥		4⑥		
409	ヤマサメ									4⑥		4⑥		
410	ウグイス	4⑥						4⑥		4⑥		4⑥		
416	オオシキリ													
422	センダイムシクイ									4⑥		4⑥		
426	セッカ													
427	キセタキ									4⑥	4⑥	4⑥		
430	オオカ		5⑥							4⑥		4⑥		
435	エナガ				4②				5⑤					
439	ヒカ	4①								4⑥		4⑥		
440	ヤマガラス	4⑥							4⑥	4⑥	5①	4⑥		
441	シシユウカラ	4⑥	4①		4②	5④	4①	4①	4⑥	4⑥	5①	4⑥		4①
444	ボシロ	4③		4①				4①	4⑥			4⑥		
449	赤シロ	4⑥				4①			4③			4⑥		
471	カノヒ					4④	4①	4①						
488	ズメ			4②	5③	5③		4①			5①	5①	4②	4①
493	ムクドリ				4②	5④		4①③					4②	4①
498	オナガ							4①						
503	ハシソガラス			5②	5①	5②		4②			5①			
504	ハシトガラス				5④						5①			
B	トハト							4③						

1996年浅川流域野鳥繁殖調査結果(繁殖段階4及び5と判断したもの)

調査地	小宮公園	多摩川滝山下	浅川鶴*大	浅川*大長	湯殿川白*時	湯殿川下流	片倉城跡公園	長沼公園	大栗川	浅川滝*一	浅川*多	多摩川浅川合	大田川
メッシュ番号	39	39	40	40	40	40	40	40	41	45	45	45	48
調査者	田中	三好	橋沢	湯原	三富	加藤	小池	馬場	木村信	山崎	門口	阿江	木村信
52	ゴイサギ			5②③						4①			
58	ゴサギ			5②③									
88	カカモ		4①	4①	5①	4①	5④			5④	5①		
120	ヒ												
123	材効												
145	チヨウケンホウ			4⑤									
149	ゴジュウイ	4①						4①⑤⑥			4⑥		
151	キン	4①		4⑥	4⑥						4⑥		
167	ハン		4③										
176	ゴトリ			4②						4④	4④		
218	イシキ			4④①							4①		
298	キンハト	4②		4②	4④		4④	4②③⑥			4②④		5③
319	ヒメマツハメ												5③
326	オサメ												
331	アカラ							4③⑤⑥					
339	コカラ	5②					4③	4③⑥					
344	ヒバリ			4⑥								4⑥	
347	ツハメ			5②③	5①	5①	5①		5③	5②③	5④		5③
350	イツハメ		4①	4②	5①	5①				5②③	5①		5③
354	キキレイ					5④		4①					
355	ハセキレイ			4⑥		5④	5④			4①			
356	セウロセキレイ			4①		5④							
367	ヒトリ	4②					5④	5④	4②		4①		
369	ス		4②		4④②								
376	ミサザイ												
399	クワクミ												
409	ヤマサメ												
410	ウケイス							4③⑤⑥					
418	オオシキリ		4④	4⑥	4⑥								
422	センタイムシクイ												
425	セッカ		4⑥		4⑥③								
427	キヒタキ												
430	オオルリ							4③⑥					
435	エナガ							4④⑥					
439	ヒガラ												
440	ヤマガラ	4⑥					4①						
441	シジュウカラ	4⑤	4⑥		4①		5④	5①	5④		5①	5④	5③
444	シロ								4①②				
449	オシロ	4⑥	4⑥		4⑥				4②④⑥				
471	カラヒバ				4①								
488	スズメ			4②	4①③	4④	5④	5④	5④	4①	5③	5④	5③
493	ムクドリ	4②	4②		5③	4④	5④	4②	4①②	5③	5③	5④	5③
498	オナガ				4④								
503	ハシホソガラス		4②③④	4②	4①			4②	5②		4②	4②	
504	ハシブトガラス				4①				4①②				
B	トハト					4④		4①			4②	4②	



1997年浅川流域野鳥繁殖調査結果(繁殖段階4及び5と判断したもの)

調査地	醍醐川下流	小仏城山	小下沢	高尾山大垂水	北浅川深*陵	北浅川陵*松	浅川松*中	川口明*川	川口丘陵	八王子城跡	高尾山琵琶滝	高尾山蛇滝	城山上流	谷地川
メッシュ番号	26	27	27	28	33	33	33	33	33	34	34	34	34	39
調査者	尾又	小池	阿江	川上	今井	河村	福島	鈴木	粕谷	粕谷	木村晴	粕谷	川上	粕谷
51 カウアリ														
52 コイサキ														
59 コサキ														
88 カカモ					4①	4①								4①
120 トビ									5①					
123 村鳩					5②				5③⑤					5⑤
145 チョウゲンボウ														
149 コノコイ					4①				4⑥	4⑥				
151 キジ					4⑥									
167 ハン					4①									
177 幼鳥トトリ														
218 イソギ														
296 キジノト					5②	4⑥					5①		4④	
315 フクロ									4①					
319 ヒヤマツハメ														
326 ガビ						4③								4②
331 アサギ									5①					
339 コガラ	4⑥	4①												
344 ヒバリ														4⑥
347 ツハメ					5①	4①						5①	4②	5①
350 イソツハメ												5①		5①
354 キセキレイ	4①	4②			4②						4②	5①		
355 ヌケキレイ														
356 ヒメキレイ					4②	4①								4①
367 ヒヨドリ		4①			5①						4①			4①
369 モス						4⑥								
399 クロクミ	4⑥									4⑥		4⑥		
409 ヤブサメ	4⑥									4⑥		4⑥		
410 ヲソバ	4⑥			4⑤						4⑥		4⑥		
416 村玉キリ														
422 ヒメドリ	4⑥									4⑥		4⑥		
425 ヒヨ														
427 キビサキ										4⑥		4⑥		
430 村鳩		4③		4⑥						4⑥		5⑤		
434 サユウチヨ	5②				5①									
435 エガ					4②				5⑤		4①			
439 ヒガラ	4⑥									4⑥		4⑥		
440 ヤマガラ	4①	4③							4⑥	4⑥	4①	4⑥		
441 シュウカ	4⑥	4①		5③	5④	4①			4⑥	4⑥	4①	4⑥	4⑥	4①
444 シロ	4⑥	4①	4①						4⑥			4⑥		
449 オシロ	4⑥	4⑥				4⑥			4③			4⑥		
471 カワビ						5④								
488 スズメ				4②	5③	5③						5①	4②	4①
493 ヒメドリ					4②	5④							4②	4①
498 オカ														
503 ヒメツグ				4③	5①	5②④					4⑤			
504 ヒメツグ											5①			
オビチヨ						4②								
トノト														

調査地	小宮公園	多摩川 滝山下	浅川 鶴*大	浅川 大*長	湯殿 川白*時	湯殿 川下 流	片倉 城跡 公園	長沼 公園	大栗 川	浅川 滝*一	浅川 一*多	多摩 川浅 川合	大田 川
メッシュ番号	39	39	40	40	40	40	40	40	41	45	45	45	46
調査者	田中	三好	榛沢	湯原	三宮	加藤	小池	馬場	木村信	山崎	門口	阿江	木村信
5	カイツアリ											4④⑥	
52	ゴイサキ			4②③									
59	コサキ			4①②③									
88	カサギモ		4①	5①	5①	4①	5④						
120	トビ												
123	オオカ												
145	チョウゲンボウ												
149	ゴソコイ	4⑥						4①③⑤⑥					
151	キツ	4①		4⑥	4⑥								
167	ハシ												
177	イナズナ		4④		4①								
218	イナズナ		4④		4④⑤⑥								
296	キツノト	4②			4②	4④		4④	4③⑥			4②	
315	フクロ												
319	ヒメマツハメ												5③
326	カサミ		4④		4④							4④	
331	アサギ	4①						5③④					
339	カサギ	5③						5④	4⑤⑥				
344	ヒナリ				4⑥							4②③⑥	
347	ツハメ				5②③	5①	5①	5①		5①			5③
350	イナズナ				4②③	5①	5①						5③
354	キツキ						5④		4①②				
355	カサギ				4①		5④	5④				4①	
356	カサギ				4①		5④						
367	ヒナリ	4①	4②⑤		4①			5④	5④				
369	ヒナ											4②	
399	クワガタ												
409	カサギ												
410	カサギ							4②③⑤⑥					
416	カサギ		4③⑥	4⑥									
422	カサギ												
425	カサギ		5③		4⑥								
427	カサギ												
430	カサギ							4③⑥					
434	カサギ												
435	カサギ							5④					
439	カサギ												
440	カサギ						5④	5④					
441	カサギ	4⑥	4①		4①	5①	5①	5④					5③
444	カサギ						4①	5④					
449	カサギ		4⑥		4⑥		4⑥	5④					4①
471	カサギ				4⑥								
488	カサギ	4①		4②	5①②	4④	5④	5④	5④	4③			5③
493	カサギ	4①	4②		4①	4④	5④	4②		5③		4②	4②
498	カサギ				4①								
503	カサギ	4①	5③⑤		4①			4②	5④			4②	
504	カサギ	4⑤			4①			4①②⑥					
	カサギ					4④		4①					

# ハクセキレイの集団ねぐら(1996年7月～1997年6月)

## (1) 八王子市横山町三角広場 (田中英吉調査)

1990年以来、毎月1回、日の出前の集団ねぐら(ヤマモモ及びクスノキ)からの朝の飛び出し数のカウント調査を継続して行っています。今期(96年7月～97年6月)の結果は次の通りです。

(単位:羽)

時間 年月日	3:31 4:00	4:01 4:30	4:31 5:00	5:01 5:30	5:31 6:00	6:01 6:30	6:30 7:00	合計
96'7.24		2	12					14
8.29			64	4				68
9.21				174				174
10.9				33	12			45
11.19					183	10		193
12.17						163	4	167
97'1.19						237	5	242
2.27				471	7			478
3.31			43	170				213
4.29		58	38					96
5.20	16	49						65
6.27	12	14						26

## (2) 八王子市北野町西東京三菱北野ショップ (丸山二三夫調査)

こちらは日の入り直後の夕方、ねぐら(クスノキ3本)入り数をカウントしています。ねぐら入り調査は、朝のねぐらからの飛び出し数調査と異なり、夕はねぐらへの出入りが何度か繰り返されるため、カウントに正確さを欠き、概数となります。今回から粕谷に代わり丸山二三夫が調査を担当しました。5月末にねぐらのクスノキが剪定され、丸坊主にされてしまいましたが、6月1日の調査では、完全に他に移動してないようです。

1997年2月1日 17時23分～17時35分 約 75羽

3月2日 夕 約 30羽

3月30日 18時10分～18時25分 約130羽

6月1日 夕 約 12羽

## ヒメアマツバメの動向 (1997年1月~6月)

従来メインであった東浅川の京王線高架下コロニー(下記の「1.」)は94年末に分散した。今期の動向は次の通りです。このデータは観察者によって観察日に確認されたことだけを取りまとめたものです。「2. 東浅川小学校」及び「7. の浅川・浅川大橋下」には定着してないようです。「4. 京王線高尾山口駅東側高架下」も放棄された模様です。

今期帰巣が確認出来た所は「3.」、「5.」及び「8.」の3カ所です。現在のメインは「5.」の私立八王子高校体育館で、今期も40羽以上が確認できました。

1. 東浅川京王線高架下(川上恵調査担当)・・・94年末迄6年間継続した所調査しなかった
2. 東浅川小学校(川上恵調査担当)調査しなかった
3. 京王線高尾駅西側ホーム高架下(川上恵調査担当)
  - 2月14日・夕 使用中と思われる巣1個確認(古い糞が落ちていた)したが帰巣は1羽も確認出来なかった(16:30~17:40)
  - 5月27日・夕 使用中と思われる巣1個確認、2羽帰巣確認(18:00~18:40)、18時時点で親鳥2羽が巣への出入りをしていなかったこと、ヒメアマツバメの巣の真下に卵殻が落ちていたことから巣の中は見えないが雛がいたと思われる。周りでイワツバメ約30羽が営巣し、内7巣に雛が認められた。
4. 京王線高尾山口駅東側高架下(川上恵調査担当)・・・95年に発見された所
  - 2月15日・夕 使用中と思われる巣無し、帰巣確認出来ず(16:50~17:40)・古巣は2残っているものの、糞は全くなく、使っていない模様。
  - 5月29日・夕 使用中と思われる巣無し、帰巣確認出来ず(17:50~18:30)・古巣は2残っているものの、一部破損有り、使っていない模様。放棄か?
5. 八王子学園八王子高校体育館・高床の下[ピロティ](川上恵調査担当)
  - 2月16日・夕 使用中と思われる巣約33個確認、43羽帰巣確認(16:45~17:40)
  - 5月23日・夕 使用中と思われる巣約40個確認、40~43羽帰巣確認(17:00~18:30)、周りにイワツバメの巣約30あり、親が頻繁に出入りし数カ所の巣から雛が顔を出していた。
6. 浅川・中央高速道橋下(福井司郎調査担当)調査しなかった
7. 浅川・浅川大橋下(田中英吉調査担当)
  - 4月9日・朝 古巣1あるものの出入りは確認できず(7:00~7:15)
  - 5月31日・朝 古巣1あるものの出入りは確認できず(6:00~6:30)
8. 南大沢駅北(木村信幸調査担当)
  - 5月31日・朝 使用中の巣5~6個確認・未使用も含めると8個あった巣から飛び出した数10羽+ $\alpha$ (4:30~7:00)。付近にイワツバメノ巣71、内、8巣がヒメアマツバメに取られている。残りのイワツバメノの巣の内、実際に利用しているものは4巣。イワツバメは南大沢駅のホーム付近に移りつつある(ここでは全8巣中8巣繁殖中)。

## 平成9年 カルガモ繁殖状況調査結果

浅川の本支流はカルガモの繁殖地であり、その数を1988年以来毎年カウントしている。カウント調査は昨年迄と同様、浅川の本支流を15に区分した他、谷地川、大栗川、程久保川を継続し、会員が分担して5月から7月の間に1～3回の現地観察によって行った。

結果は第1表及び第2表の通りで、浅川水系では親子連れファミリー数は41組、子202羽で昨年以降回復の兆しが見える。本支流の内訳は第3表の通りで、谷地川、大栗川及び程久保川の結果は第1表の通りで、大栗川、程久保川が比較的多い様に見受けられる。

この他では、八王子市役所庁舎（粕谷）、東京工科大学の池（門口）、コニカ日野工場の池（木村信幸）等で繁殖が確認された。  
(取りまとめ：粕谷和夫)

(第2表) 浅川水系におけるカルガモの繁殖状況年次変化 単位：組、羽

年次	親子連れ				単独成鳥	総計
	組数	親数	子数	平均子数		
1988	52	52	276	5.3	402	730
89	45	49	228	5.1	379	656
90	84	88	451	5.4	594	1133
91	57	61	318	5.6	537	916
92	44	58	272	5.0	452	782
93	48	49	254	5.3	633	936
94	48	49	275	5.7	623	947
95	28	28	146	5.2	522	696
96	36	38	194	5.4	613	845
97	41	49	202	4.9	520	771

(第3表) 浅川水系の本支流カルガモの親子連れ組数年次変化 単位：組

年次	北浅川	浅川本流	川口川	南浅川	城山川	山田川	湯殿川	合計
1988	2	30	13	2	0	1	4	52
89	0	18	7	6	9	1	4	45
90	2	36	15	11	9	1	10	84
91	2	22	10	5	5	1	12	57
92	3	24	5	4	6	1	11	54
93	4	19	5	5	7	1	7	48
94	5	18	9	6	4	1	5	48
95	4	10	1	4	3	0	6	28
96	5	9	5	8	3	0	6	36
97	2	13	3	6	10	0	7	41

(第1表) 平成9年カルガモ繁殖期カウント結果

(単位:組、羽)

	担当者 (代表者)	親子連れ			単独 成鳥 数	カルガモ 数総計	
		組 数	親 数	子 数			
北 浅 川	①大沢橋～陵北大橋	今井達郎	1	1	2	26	29
	②陵北大橋～松枝橋	河村道寛	1	1	6	24	31
	計		2	2	8	50	60
浅 川 本 流	③松枝橋～鶴巻橋	清水茂	2	2	9	17	28
	④鶴巻橋～大和田橋	榛沢務	5	5	35	67	107
	⑤大和田橋～長沼橋	丸山二三夫	1	1	8	25	34
	⑥長沼橋～一番橋	山崎悠一	2	2	16	32	50
	⑦一番橋～多摩川合流	門口一雄	3	3	17	41	61
	計		13	13	85	182	280
川 口 川	⑧川口橋～明治橋	鈴木章七	2	2	13	45	60
	⑨明治橋～浅川合流	三好恒雄	1	1	7	38	46
	計		3	3	20	83	106
南 浅 川	⑩案内橋～敷島橋	川上憲	2	2	9	22	33
	⑪敷島橋～浅川合流	小池一男	4	4	13	67	84
	計		6	6	22	89	117
⑫城山川 (月夜峰新橋～浅川合流)		小沢礼子	10	18	33	20	71
⑬山田川 (山田橋～浅川合流)		門口一雄	0	0	0	5	5
湯 殿 川	⑭白旗橋～時田橋	三富恒男	4	4	24	61	89
	⑮時田橋～浅川合流	加藤岸男	3	3	10	30	43
	計		7	7	34	91	132
浅川水系の計			41	49	202	520	771
⑯程久保川 (小宮橋～浅川合流)		谷井正剛	8	8	27	22	57
⑰谷地川 (新左入橋～多摩川合流)		大川征治	2	2	14	40	56
⑱谷地川 (月見橋～新左入橋)		井手龍世	0	0	0	32	32
⑲大栗川 (遣水～横倉橋)		木村信幸	5	5	37	50	92
総 計			56	64	280	664	1008

担当者(代表者)以外の調査参加者: ②:河村洋子、④:田中英吉、⑥:山崎久美子、⑧:川戸  
憲一、井手龍世、杉森夫妻、⑬:木村晴美、小沢節子、⑰:新田茂

## 平成9年 オオルリ他夏鳥調査結果

八王子市の鳥・オオルリの生息地である丘陵地や山間部の自然環境の動向を見守るため、1992年以来生息数調査を毎年行っている。97年はオオルリの他にツツドリ、ホトトギス、クロツグミ、キビタキ、センダイムシクイ等の夏鳥の数もカウントした。

### 1. 調査場所

第2表に示す通り八王子市内の丘陵地、山間部の沢筋、谷筋の19区域で行った。踏査総延長は昨年同様103.5kmであった。

### 2. 調査時期

平成9(1997)年4月下旬～6月下旬にそれぞれの区域で2～3回行った。

### 3. 調査参加会員数

第2表の通り、延べ69名の会員が調査を行った。

### 4. 結果

結果は第2表の通りであり、19区域(沢筋、谷筋)の内、18区域で合計48羽の♂を確認した。

5年間の動向は第1表の通りで、今年は例年より多かった。

(第1表) 八王子市内、オオルリ出現数年変化

	1992	1993	1994	1995	1996	1997
オオルリ合計数(羽)	25	30	28	38	45	48

オオルリのカウントと同時に実施した夏鳥他全野鳥の調査結果は第3表の通りであり、本年は67種(55年は59種、56年は62種)が出現した。カウントした野鳥ではヤブサメが最も多く102羽、次いでクロツグミ73羽、センダイムシクイ62羽であった。キビタキはオオルリよりやや少なかったが、ほぼ同数が記録された。ツツドリ、ホトトギスはほぼ全地域で記録された。また、ガビチョウがほぼ全地域で記録されており、この地

域に定着した感がある。ソウシチョウも高尾山琵琶滝コースで記録された。ブッソウは5月17日の月例探鳥会で高尾山1号路から参加者全員が尾根上の木の枝に止まる1羽を認めたものである。高尾山でのブッソウは久しぶりで特筆される。その他ではサシバが1カ所、ハチクマが1カ所、サンコウチョウが5カ所で記録された。

(取りまとめ：粕谷和夫)

(第2表) オオルリの調査場所別出現数(1997年)

19区域の内分け	調査 延長	材刈 ♂数	調査責任 者	延参 加数
①上川(今熊山北沢、同南沢、金剛の滝)	5.0	2羽	河村道寛	2名
②加住南丘陵(谷地川源流部)	6.0	2	大川征治	6
③川口丘陵(天合峰、釜の沢、滝の沢)	3.5	3	川戸恵一	10
④美山(山入川奥、美山小学校奥、お屋敷川)	5.0	1	湯原直彦	2
⑤小津(小津バス停奥小津川源流部)	6.0	2	三好恒雄	3
⑥醍醐上流(醍醐川上流部、ににく沢)	4.5	4	馬場裕	2
⑦醍醐下流(醍醐川下流部、盆堀林道)	6.5	3	尾又英雄	3
⑧和田峠下(くぬぎ沢、和田峠谷)	3.0	1	古山隆	1
⑨明王峠下(明王溪谷、関場峠北側)	5.5	4	門口一雄	2
⑩力石周辺(力石沢、南土代沢、駒木野沢他)	5.0	3	山崎悠一	3
⑪松竹周辺(板当・滝の沢林道、八王子城跡北)	12.0	3	今井達郎	7
⑫元八王子(御主殿の滝奥、八王子城跡奥)	4.0	3	粕谷和夫	6
⑬裏高尾(小下沢林道関場峠迄)	5.0	3	阿江範彦	1
⑭小仏城山下(日陰沢城山頂上迄、行の沢)	4.5	2	小池一男	2
⑮高尾山1(6号路、3号路、琵琶滝下山コース)	5.0	3	木村晴美	7
⑯高尾山2(小仏川下流、蛇滝コース、4・5・1号路)	7.0	6	粕谷和夫	2・探
⑰大垂水峠下(案内川上流から一丁平方面)	3.0	2	川上恵	4
⑱表高尾(中沢川、入沢川、榎窪川)	10.0	1	柚木鎮夫	4
⑲初沢川(初沢川)	3.0	0	田中英吉	2
計	103.5	48		69

注) 調査延長は実際に踏査した路を2万5千分の1地形図に落とし、CURVIMETERを使って図測した概数値kmである。⑯延参加数欄の探は八王子カワセミ会探鳥会を意味する。



第3表 オオルリ出現期における夏鳥他全野鳥の出現状況 (●印は出現、数字は羽数 1997年4月～6月)

①～⑳は第2表の①～⑳に対応	① 上川	② 加住南丘陵	③ 川口丘陵	④ 美山	⑤ 小津	⑥ 醍醐上流	⑦ 醍醐下流	⑧ 和田峠下	⑨ 明王峠下	⑩ 力石岡辺	⑪ 松竹岡辺	⑫ 元八王子	⑬ 裏高尾	⑭ 小仏城山下	⑮ 高尾山麓	⑯ 高尾山蛇溝	⑰ 大垂水峠下	⑱ 表高尾	㉑ 初沢川	出現箇所数	出現個体数	
52 コイサギ																					1	
58 コサギ											●										1	
68 加ガモ		●		●	●		●		●	●					●	●	●	●			11	
119 ハシタ				1																	1	
120 ヒメ		●	●		●		●		●	●	●	●					●				10	
123 材木			●		●						●			●					●		5	
125 ツミ		●																			1	
129 ノスリ										●											1	
130 ツバメ		1																			1	
146 ヨウゾウノホウ																	●				1	
149 コノユイ	●	●	●	●	●	●				●		●			●	●	●				12	
150 トマトリ	●		●						●						●	●					4	
151 キジ	●						●		●	●	●										9	
296 キジノト	●	●	●	●	●		●	●	●		●			●	●	●	●	●	●		17	
298 アオバト	●	●							●	●	●	●	●		●	●	●	●			7	
303 フトリ					1	2	1	1	1	2	1	1		2	1	2	1	1			13	17
304 針トキ		1	1	1	1	1	1			2	1	1		1	1	3	1				13	18
319 ヒメアマノハ										●					●						2	
320 アマノハ															●						1	
326 ガビ					●														●		2	
328 フシホウ																1					1	1
331 アカウ		●	●		●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●			15	
336 アカウ			●		●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●			2	
339 アカウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		18	
347 ツバメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13	
350 イワカ					●					●					●	●					4	
354 七転	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18	
355 ハケ七転		●								●					●	●					2	
356 ヒメ七転	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	
367 ヒメトリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19	
369 ヒメ		●								●											2	
376 シシ			1			4	2	2	6	3	1		5		1	2					10	27
385 ヨリ								●							●	●					2	
385 マジロ															●	●					1	
396 トウ						●															1	
399 クワガ	1		3	8	3	8	9	2	5	7	2	4	2	6	4	4	2	3			17	73
400 アカウ			●												●			●			3	
402 シロ		●								●											2	
405 ツミ		●								●											2	
409 ヨウ	1	5	7	5	8	6	10	3	4	7	5	9	5	5	3	12	3	4			18	102
410 クワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19	
422 ヒメ	1			1	3	6	6	2	5	11	11	2	3	2	3	3	2	1			16	62
424 キ					●					●											3	
427 七	2	7		2	2	5	2	1	1	1	1	1		2	3	4		2		15	36	
430 材	2	2	3	1	2	4	3	1	4	3	3	3	3	2	3	6	2	1			18	48
434 ヨウ			2		1		2				2								1		5	8
435 イカ	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●				●		1			12	
438 アカ										●											3	
439 ヒガ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			13	
440 ヒガ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			17	
441 ヨウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18	
444 マジ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19	
449 材	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18	
461 アオ	●	●													●						4	
462 クワ						●															1	
471 カ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
485 イカ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
486 シ		●	●	●	●	●				●											2	
488 ス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
493 外	●	●	●	●						●					●						8	
496 ガ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18	
498 オ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5	
503 ハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11	
504 ハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
ト															●						3	
ガ	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
ソ															●						1	
出現種数	31	39	28	32	33	26	31	26	31	35	39	30	15	23	37	43	28	33	15	67		

# 高尾山カウント結果(1996年)

1. 鉢巻コース(6号路、3号路、鉢巻ト山コ-ル)

調査者: 木村晴美K, 杉森ユリS, 永見博子N, 久保田マサナク, 相谷和夫A, 出中央吉I, 二好恒雄M, 杉田陽子A

月*日	1*19	2:17	3:16	4:26	5:17	6:19	7*12	8:09	9:13	10*11	11*15	12*13
天気	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇	曇雨	晴	曇
開始時刻	9:20	9:30	9:30	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
終了時刻	15:40	14:00	16:15	16:05	15:40	16:00	15:20	15:30	15:45	16:00	15:50	16:10
調査者	KSNZ	KN	KNZKT	KNSZ	KNSZAM	KNZ	KNZSM	KNZSAM	KNZSAM	KNZ	KNSZ	KNZSAM
52 コイサキ			1									1
88 カルガモ			1	3		1						
120 トビ	1	1		1					1			
123 材木					1		1					
129 ノリ			1						1			
149 コシユカイ				1								
296 キジハト	10	5	4	10	2		5	3	2	3	3	3
298 アハト												
303 ツツトリ						1						
319 ヒメアマツバメ					2							
326 カセ											1	
331 アカウラ	1	1	1	1	1	1		2	1			1
336 アカウラ					1			1				1
339 コガラ	1	2	7	1	1	1		3	10	3	3	20
347 ツバメ			1			4			2			
350 イツバメ			3	3	2		10					
354 キセキレイ	1			4	1	1	1	2	2	2	1	1
355 ハセキレイ												1
356 ヒメオセキレイ	1									1		
367 コトトリ	60	20	20	20	10	10	10	20	10	20	10	10
368 エズ	1	1	1							1		
376 ミソサザイ	1	4	4		1	1		1				
386 ノリビタキ	2	3	1								1	1
387 ショウビタキ	1											2
399 クロツグミ				1	2	3		1		1		
405 ツグミ	2	2									1	
409 ヤブサメ				1		1	2			1		
410 ウグイス	3	2	1	3	2		1	1			1	2
422 ヒメドリ				1	1	2						
424 キイロタビ			1					1				1
427 ヒメタビ				1	1	1	2					
430 材木				1	2	3	2	1				
435 エカガ	20		10	5		3		10	20		20	60
438 コガラ	1			1								
439 ヒガラ			10	2	1	2		5	2	3	3	1
440 ヤマガラ	8	5	30	10	5	3	10	4	7	2	5	20
441 シシユウカラ	30	20	20	10	10	10	10	20	10	20	10	20
442 コシユウカラ										4	3	5
443 キバシ	1											
444 シジロ	60	20	3	10	1	5	20	10	10	20	20	10
449 赤シロ	1	2	5		1		1	3	2	1		2
461 アホジ	6	5	1	1							1	1
471 カラス	6							5				1
483 ウ												3
485 イカル	1		2	2	1	2	1	1		1		
488 スズメ	20	4	10	10		5	10			2		2
496 カス	1	1	3			1		2	10	1	3	10
503 ハホノカラス	3	4		2	2	1	3	2	2		2	3
504 ハノトカラス	20	3	10	10	10	10	2	8	5	7	5	5
B トハト			10					2	3		5	
カヒチョウ							1			1	1	
種類計	27	19	26	26	23	23	18	24	17	19	20	26
羽数計	263	105	161	115	61	72	92	110	98	94	99	187

## 2. 蛇滝コース (小仏川下流、蛇滝コース、4・5・1号路)

調査者：相台和夫

月*日(1996)	1*8	2*9	3*9	4*8	5*4	6:01	7:06	8:04	9:16	10:11	11:16	12*9
天気	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴
開始時刻	6:50	7:20	8:20	8:35	7:30	6:30	6:30	6:30	6:55	6:50	7:15	7:00
終了時刻	11:30	12:30	13:50	13:40	13:00	13:10	12:40	12:00	11:40	11:45	13:30	12:15
調査者	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K
52 コイサキ			2				1	2				1
59 コサキ	1	1				2						
88 カカモ	13	3	13	2	6	4	2	1	4	1	10	4
89 コカモ	1			2								
120 ヒ			1				3					
123 材カ					1			2			1	
129 ノスリ		1	1									
130 サシハ										14		
149 コシユカイ			2	1		1	1	1			2	
150 ヤマトリ												1
296 キンバト	4	15	4	1	2	1	3	3	1	2		1
297 キンバト											2	
304 トトキス						2						
319 ヒメアマツハメ												2
326 カヒサ	1					1	1					1
331 アカウラ				2	3	3	1	2		5	1	
336 アカウラ	1		1									
339 コウラ	8	6	5	4	4	7	4	6	2	12	1	5
347 ツハメ					6	10	4	12				
350 イウツハメ							10					
354 キセキレイ	3	4	1	10	7	13	12	2	2	3	7	2
355 ハセキレイ	2											
358 ヒメロセキレイ	3			1							2	2
367 ヒヨトリ	80	80	25	25	30	50	45	7	18	140	30	21
369 モズ										6	3	1
375 カカラス											1	
376 ミソサザイ	5	5	5	2	1	2	2				3	5
379 カヤクグリ												4
386 黒ヒタキ		2	1	1								7
387 ショウビト		7	1								3	2
399 コツクミ						3	5					
402 シロハラ	1	1	1								3	1
405 ツクミ	20	10	4	5							1	5
409 ヤブサメ					11	10	10					
410 ウグイス	2	1	1	5	7	14	8	6	1		2	5
422 センダイムシクイ					1	4	1					
427 靴ヒタキ					4	13	6					
430 オオホリ					2	3	2					
435 エナガ	45	30	10			2	10	10		30	60	60
438 コガラ	30	1		10		5						10
439 ヒガラ	30	10	15	15	4	15			3			20
440 ヤマガラ	35	30	20	25	7	35	15	20	25	35	20	30
441 ジュウカク	20	35	35	30	30	40	40	35	22	40	40	40
442 コシユウカク									2	5	1	2
444 メジロ	55	40	15	15	10	22	60	50	35	27	25	25
449 林メジロ		10	6	4	5	5	3	4		2	7	20
455 カラタカ				20								
461 オソビ	10	15	2	2	2						6	6
471 カラヒワ	4	2	4	5	13	2	1					2
485 イカル	50	10	25	50	40	5	10					
488 スズメ	20	35	35	10	30	30	40	20	10	10	30	50
493 ムクドリ		15	7	1	5	10					2	
496 カス	3	2	3		1	5		2	4	6	2	6
498 オナガ		10	15							10		
503 ヒメソウカラス	2	5	2	1	2	5	5	9	5	1	6	1
504 ヒソトカラス	40	25	20	20	15	25	20	12	12	15	9	20
B トバト	1	30	10	8	3	2	2	2		5	2	2
カビチョウ						1		4			1	1
種類計	29	30	32	28	28	34	30	22	15	20	30	34
羽数計	490	441	292	277	252	352	327	212	146	369	282	365

### 3. 大垂水コース(案内川上流から一丁平方面)

調査者：川上志K, 清水茂S, 横山由美子Y, 久保出ヤス子ク, 夏目天壽N, 二富恒男M, 日川史子シ, 千葉積子I

月*日(1996)	1*22	2*23	3*21	4*27	5*15	6*25	7*26	8*26	9*21	10*29	11*16	12*16
天気	曇	晴	曇	晴	晴	曇	快晴	晴	曇	快晴	晴	晴
開始時刻	9:00	9:15	8:30	7:45	7:45	7:30	9:00	8:30	9:00	10:00	9:30	9:40
終了時刻	12:00	12:30	11:00	11:30	11:30	10:30	12:00	11:40	11:20	12:20	11:40	12:15
調査者	K	K	K	KSY/M	KSM/シ	K	K	K	K	K	K	KT
88 カカ'モ				4	2				2	2		
120 ヒ'				1	1	1		1			1	
129 ノスリ				1								1
149 コシユカイ				1	1	1	2		1			
296 キジ'ハト	6	4	6	3	6	2	2	8	5	4	6	5
298 アオ'ハト						1						
303 ツツ'リ				1	1	1						
304 ホト'キス						2	2					
326 カセ'ビ		1								1		
331 アカ'ウラ	1	1	1	2	1	1			1	1	1	1
339 コガ'ウラ			2	10	4	2		2	2	2	2	
354 キセ'キレイ	2	4	3	12	5	4	3	2	2	2	2	3
355 ハケ'キレイ	1											
367 ヒヨ'トリ	20	16	8	10	10	12	16	16	10	8	6	16
369 モズ'	1	3	1	2	1	1				1	1	
386 ナヒ'キキ	1	1										1
387 ショ'ウヒ'キキ	2	4								2	2	5
399 コツ'クミ				2	3	2	2					
405 ツク'ミ	2	3	1									1
409 ヤ'サメ				3	1							
410 ウグ'イス	1	2	3	7	5	7	5	1			2	1
422 セン'イムシクイ				1	2							
430 材'刺					2	1	1					
434 シノ'ウチヨウ					1	1						
435 イ'カ'										4		
440 ヤ'ガ'ウラ	6		1	10	4	1	1	2	2	2	2	
441 シ'ジュウカ'ガ'	4	5	10	7	10	4	2	6	7	10	7	3
444 メ'ジ'ロ	7	7	2	20	15	3	8	4	10	8	5	2
449 ホ'シ'ロ	4	20	5	10	7	1	5	2		15	13	10
455 ガ'ラ'タ'カ		7										
461 ア'オ'シ'	2	4	4	1							2	3
462 コ'シ'	2									1		
471 カ'ガ'セ'ワ		5		5	7	8	8	2				
481 ヘ'ニ'マ'シ'ロ												6
483 ウ'ソ												5
485 イ'カ'ル				10	2	2	1	1				
488 ス'メ'	30	50	30	15	30	20	20	25	25	40	40	30
493 ム'ク'トリ			3									
496 カ'ス'		2	1	6	1				3	2	2	2
498 ナ'カ'				3								
503 ハ'シ'カ'ラ'ス	4	5	2	7	5		2	4	7	6	6	4
504 ハ'シ'ト'カ'ラ'ス	15	4	5	2	2	2	5	3	2	4	4	2
カ'ヒ'チョウ					2		4				7	
種類計	19	20	18	27	27	23	18	15	14	19	19	19
羽数計	111	147	88	156	131	80	88	78	79	115	111	100

## 東京都鳥類繁殖分布調査結果

東京都環境保全局は20年ぶりに野鳥の繁殖状況調査を行うことになり、その実施を日本野鳥の会研究センターに委託した。この研究センターは本年日野市に引っ越してきたWINGの中にあり、担当の成末雅恵様から浅川流域分の調査を八王子カワセミ会に引き受けてくれないかとの依頼があった。カワセミ会としては本年の年度計画決定後の急な話であったが、内容が約1km四方のメッシュ調査であり、繁殖調査は既に日本野鳥の会東京支部の調査に参加し経験があるので、調査該当メッシュの近くに住所が有るベテラン会員が分担して引き受けることとした。

結果は次表の通りであり、調査メッシュの中に一定の踏査ルートを決め、1メッシュ30分をめぐりにラインセンサスを1週間以上の間隔を置いて2回行い、そこに出現した野鳥の行動を観察して「⑤繁殖確実、④多分繁殖、③繁殖可能性有り、②不明、①繁殖していない」の5段階に繁殖ランクを評価した。次表のランクの後についているNYだとかSだとかPだとかの記号は雛がいる巣だとかさえずりだとかを表すもので、詳細を知りたい方は粕谷和夫又は成末雅恵(Tel. 0425-93-6872)に問い合わせして下さい。

なお、1メッシュ、1回につき1000円の謝礼が出たので、調査参加者の総意として合計4万円を八王子カワセミ会に寄付した(取りまとめ:粕谷和夫)。

小仏城山山頂→高尾山を担当した中村美弥子さんから次のような感想文が届きました。

繁殖調査の資料、内容を見せていただいて、けっこう責任重大だなと冷や汗をかいた次第(^\_^;)。

御指名いただき、光栄(?)だけど、つとまるかどうか不安...

とにかく御指名いただいた以上はがんばろう、と本日早速行ってきました。

少し家をでる時間が遅くなってしまい、城山山頂から高尾山頂を8:00~

9:00にかけて観察しました。やってみた感想としましては、1時間で2Kmを鳥を観察しながら歩くのは、けっこう大変だな、という感じでした。

繁殖行動を観察しないとイケないとは思いつつ、結局はほとんど囀りの数を記録することに終始してしまいました鳥の姿はほとんど見ている余裕がなく、繁殖行動としては、わずかにキビタキとメジロが餌をくわえて移動するのを見たくらいです。声に頼った記録となり、どうしてもキビタキなどの目立つ囀りは記録できても、地味なカラ類などの個体数は正確に記録できなかった気がします。

...と、いろいろ反省点をふまえて、次回はもう少し気を付けて記録を行いたいと思います。

いいこともありました。予定していなかった城山行きで、今までどうも私には縁がなかったサンコウチョウを今日観察できました。小仏峠まで着く途中で2羽の囀りを聞き、うち1羽は姿も見れました。私は肉眼で飛ぶ姿を少し見ただけですが、主人はスコープで見れたそうです。美しい囀りはゆっくりたっぷり聞けました(^\_^)。主人は今までに何度か見ているのですが、私は去年小仏峠で初めて囀りを聞き、今年初めて姿をちらっと拝んだ次第。次はぜひじっくり姿を堪能したいものです。(この調子だと来年かな??) 1997年6月8日

東京都鳥類繁殖分布調査 (1997年)

繁殖ランク (⑤繁殖確実、④多分繁殖、③繁殖可能性有り、②不明、①繁殖していない)

2万5千地形図	立川	武蔵府中	八王子		八王子		八王子		八王子	
メッシュ番号	178	179	186	187	194	195	198	199	208	209
東京支部メッシュ	T44	T45	T40	T40	T41	T41	T40	T40	T34	T35
主要地点	大阪上	東豊田	西平山	長沼町	工科大学	鑑水	天神町	台町	館町	寺田町
調査月/日・月/日	5/30・6/14		6/1・6/15		5/28・6/14・7/7		5/27・6/15		5/24・6/15	
調査者	金子凱彦		丸山二三夫		門口一雄		粕谷和夫		桑原文夫	
40 鶯			③P							
52 ヨイ科			⑤NY		②		①XB			
59 コ科			⑤NY							
62 ア科					②					
88 加ガモ		②	③P	⑤FL	⑤FL	①XB		③P	②	③P
123 材カ										
145 チョウボウ			④F							
149 コウカイ				④F		④S				
151 キ			②						②	
296 キハト	④S	④T	③P	④F	④S	④S	④S	④S	④T	④T
302 カモ		②						③P		
303 アドリ										
304 ホトリス										
314 アハスタ										
326 カミ				②				③P		
331 アカ								③P		
336 アカ				②						
339 コウ		③P			④S	④S		③P	②	②
344 ハリ			②		④S					
347 ハメ	⑤NY	⑤NY	⑤ON	⑤ON	⑤FL	③P	⑤NY	④B	④F	④F
350 アハメ				⑤ON	②		⑤NY			
354 キレイ								③P		
355 カレイ			④F	④F	②	②	③P		②	
356 キロレイ			④F	④F						
367 ヒドリ	④F	④F	④Y	④Y	④S	④S	④F	④F		
369 イ										
399 クワミ										
409 アシ							③P			
410 ウケ			②	②	③P	④S				
422 セウイシ										
424 セウキ										
425 セカ					③P					
427 キコ										
430 材カ										
435 コガ				②						
439 コウ										
440 ヤマ				②	③P					
441 シュウカ	④S	④F	②	③P	④F	④F	④F	④F		
444 シロ	③P	③P	②	③P	④F	④S	④S	④S		
449 シロ			②	②	④S	③S				
471 カラ			③P	③P	②	②	④S	④S		
485 加					②					
488 スメ	④S	④S	④F	④F	④S	④S	⑤NY	⑤NY		
493 ヒドリ	④Y	④Y	④Y	④Y	④S	③P	④F	⑤NY		
496 カ										
498 カガ	②	③P						③P		
503 カガ	④F	③P	③P	③P	③P	③P	③P	④T		
504 カガ	③P	④F	③P	③P	③P	⑤FL	⑤UN	④T		
B トハト	③P	③P	③P	③P			③P	③P		
ガビ					②					

2万5千地形図 メッシュ番号	八王子 210	八王子 211	拝島 214	拝島 215	拝島 226	八王子 227	与瀬 233	与瀬 237	与瀬 234	与瀬 238
東京支部メッシュ 主要地点	T 3 4	T 3 4	T 3 3	T 3 3	T 3 3	T 3 4	T 2 7	T 2 7	T 2 8	T 2 8
調査月/日・月/日	5/26・6/9		5/28・6/13		6/1・22	5/25/6/15	5/24・6/28		6/14・7/10	
調査者	川上憲		新田茂		前田善明		小池一男		中村啓示・美弥子	
40 ガカ										
52 ゴイ科										
59 コ科				①XB		②				
62 ア科										
88 カカモ	②		④F	②	④F	④F				
123 材カ						2				
145 チョウコノホウ										
149 コシユイ										
151 キン				④S	④S					
296 キンハト	④S	④S	④S	④S					④S	④S
302 カゴ							②	②		
303 ヲドリ			②	②			②	②	④S	④S
304 ホトリス					②		②	②		④S
314 アハズク					②					
326 ガカミ				②		②				
331 アカラ					④B		③P	③P		
336 アカラ										
339 カラ			④S	④S	④B	④B	⑤F	③P	④S	③P
344 ヒアリ										
347 ツハメ	⑤ON	④S	⑤NY	⑤NY	⑤ON	⑤ON	②	②		
350 イツハメ						②				
354 キキレイ			③P		④B	④B	④B	②		
355 ハキレイ	③P		③P	③P						
356 セウロキレイ			③P	③P	②	②				
367 ヒトリ	③P	③P	③P	③P	④F	④F	⑤F	③P	③P	③P
369 モス				③P	②	④N				
399 ケツカミ					②	②	③P	④T	④S	④S
409 ヤブヤメ							②	②	④S	④S
410 ヲクイ		④S		③P	③P	③P	③P	③P	④S	④S
422 セウイキ						②	②	②		
424 キイタキ										④S
425 セカ										
427 キコ					②	②	③P	②	④S	④S
430 材カ					②	②	④N	③P		
435 エガ					④F				③P	
439 ヒガラ									④S	④S
440 ヤマカラ			④F	④F	②		④Y	③P	④S	④S
441 シンヨウカ		④S			④Y	④Y	④Y	④Y	④S	④S
444 シンロ			④S	④S	④B	②			④S	④S
449 ホシロ			④S	④S	④Y	④Y	③P	③P	④S	④S
471 ナラカ	②		④S	④S	②	②	③P	③P		③P
485 イカ					②	②			④S	④S
488 スズメ	④Y	④S	⑤NY	⑤NY	⑤ON	⑤ON				
493 ヒトリ	⑤NY	④S	⑤NY	④Y	⑤ON	⑤ON				
496 カス					④B	④B	②	②	③P	
498 オカ		③P	③P	③P	④S	④S				
503 ヒョウガラス	②	③P	③P	③P	⑤FL	②				
504 レクタガラス	②	③P	③P	③P	②	②	③P	③P	③P	③P
ドハト	④S	④T			③P	③P				
カビチカ				②	②	②	②	②		

「シラ後記号」は東京都鳥類繁殖分布調査の「表1 繁殖可能性の区分」による

# 鳥の生息環境モニタリング調査結果

(日本野鳥の会・湖沼と河川をしらべる)

私達バードウォッチャーは、鳥達と鳥達がすむ自然をみつめ続けてきました。そして、鳥達や自然の危機にいち早く気がつき、守るために立ち上がってきました。この時に最も強い力となるのが、自然がどのように変わってきたのか、それにつれて鳥達の数がどのように変わったのかを実際に見せることができる具体的なデータです。これは、私達が感じた危機を広く人に伝えるためにも、欠くことのできないものです。

この調査は、未来に引き継いでいきたいと思う大切な自然を見守りながら、保護のための基礎となるデータを集めてゆくものです。ぜひ皆さんも自然の見張り役(モニター)となつて下さい(日本野鳥の会・本調査の「調査ガイド」より)。

八王子カワセミ会では上記のような日本野鳥の会の呼びかけに応じ、浅川4カ所で3回、この調査を行った。実施日、場所、調査参加者は第1表の通り、調査内容及び結果の内、水質関係は第2表、その他の自然環境関係は第3表の通りであった。

第1表 浅川環境モニタリング調査の実施経緯(1997年)

実施日	実施場所(各橋の上流側、下流側各500m)	調査参加者
1月2日	陵北大橋、鶴巻橋、新浅川橋、ふれあい橋	阿江範彦、今井達郎、粕谷和夫
1月15日	陵北大橋、鶴巻橋、新浅川橋、ふれあい橋	阿江、粕谷、田中英吉、千葉、柚木育子
2月15日	陵北大橋、鶴巻橋、新浅川橋、ふれあい橋	粕谷、川上恵、千葉慎子

第2表 調査地区の水質等調査結果

場所	面積	水温	水の色	臭い	家庭排水	透視度	pH	亜硝酸	硝酸
陵北大橋	0.75	10℃	透明	無し	有り	25cm以上	7.0	+ ppm	50ppm
鶴巻橋	1.75	8℃	淡い灰色	無し	有り	25cm以上	7.5	+ ppm	25~50ppm
新浅川橋	2	8℃	透明	弱い	有り	25cm以上	7.5	+ ppm	50~100pp
ふれあい橋	1.75	10℃	透明	無し	有り	25cm以上	7.5	+ ppm	25~50ppm

注) ①面積はhaで、川幅×1kmで算出した概数 ②pH、亜硝酸、硝酸はバックテストによる(亜硝酸の値が+は高すぎるのではないかと日本野鳥の会から指摘を受けたが、そのまま載せた)

第3表 調査地区の自然環境等調査結果

	抽水植物被度	水底	岸辺	水際線	中州	水深	鳥への給餌
陵北大橋	0~25%	礫	遠浅	植物	有り0.4ha	1m以下	無し
鶴巻橋	0~25%	礫	遠浅	石	有り0.7ha	1m以下	無し
新浅川橋	0~25%	礫	遠浅	石	有り1.0ha	1m以下	有り
ふれあい橋	0~25%	礫	遠浅	石	有り1.0ha	1m以下	有り

注) 給餌有りのところに集まっていた鳥はドバト、ユリカモメ、オナガガモである

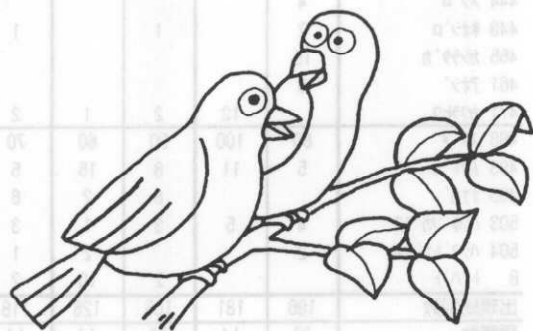
調査地区でカウントした水鳥、水辺の鳥の数は第4表の通りでゴイサギ、クロトキ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、クイナ、バン、クサシギ等ほ出なかつたが、カイツブリ、ミコアイサ、ハマシギ、タシギ、セグロカモメ等が観察された。また、1月2日には新浅川橋付近でチョウゲンボウ2羽を観察した(取りまどめ:粕谷和夫)。



# 第4表 1997年・浅川環境モニタリング調査

(浅川の4調査対象橋の上下流500mの範囲に出現した水鳥の種と数)

調査場所 調査月・日	陵北大橋付近			鶴巻橋付近			新浅川橋付近			ふれあい橋付近		
	1・2	1・15	2・15	1・2	1・15	2・15	1・2	1・15	2・15	1・2	1・15	2・15
5 カイツブリ	2		1									
40 カカ					1	1	5	2	5			5
57 タビチキ						0	1	2		1	1	1
59 コサキ	1		1	3	3	3	4	5	5	3	2	5
62 アサギ							7	7	7			
87 マガモ	4	2	4		2	4		2				
88 カカモ	4	18	16	10	16	16	34	35	35	42	17	42
89 コサモ	10	15	15	58	42	58	155	152	155	84	124	155
93 ヒトリカゲモ				4	1	4	32	5	32	30	6	30
95 オナガモ				3	21	21	22	30	30	37	8	37
97 ハビロカモ				1			4		4		4	
115 ミコアイサ											3	
177 イカルドリ					2	2	6	2	6	3	3	6
198 ハマシギ										6	9	
218 イソシギ				1		1	3		3	1	2	3
230 タシギ							1					
245 エリカモ				13			26	4		2		
246 セウロカモ				1	1	1	1	1	1	2		
326 カサシ	1		1	1								
354 キヤクイ	2	1	2	2			2	1			1	
355 ハウキヤクイ		7		6	10	10	9	8	10	4	7	10
356 セウロキヤクイ	3	4	4	8	6	8	8	5	8	6	3	8
363 タヒバリ		2		2	1	2	1	2	2	1	4	4
アヒル		1	1									
種類計	8	8	9	14	12	14	18	18	14	14	15	12
羽数計	27	48	45	113	106	131	321	269	309	231	194	315



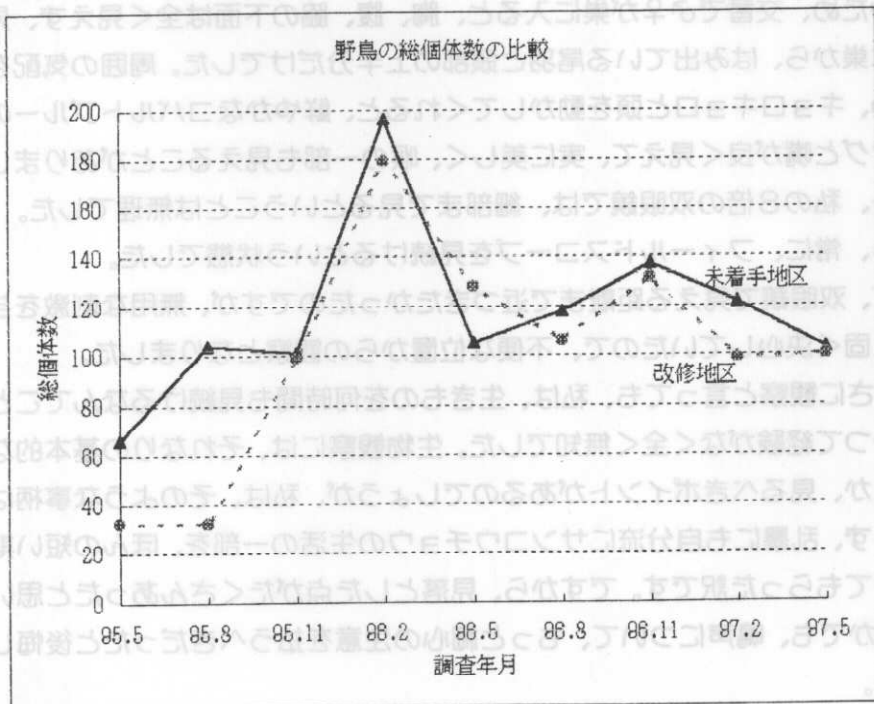
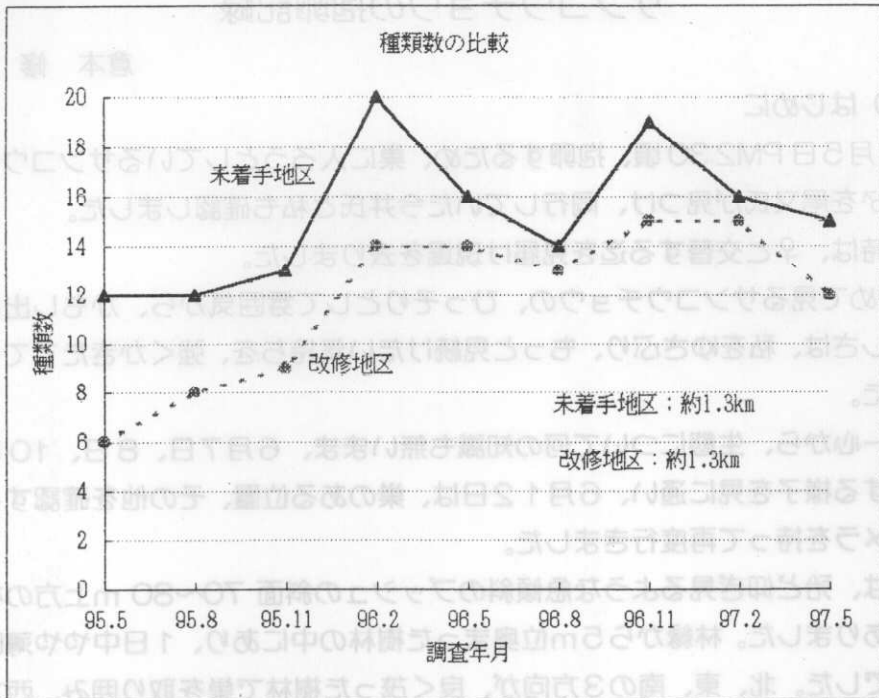
## 城山川上流・河川改修地区の野鳥

城山川は、今迄に元八王子2丁目の中央高速道橋迄コンクリート化されてしまっている。現在、中央高速道橋の上流側も改修計画が具体化し、着工寸前となっている。この場所で中央高速道橋を境に上流側の未着手地区（城山大橋迄）と下流側の改修地区（上横川橋迄）に分けて野鳥の現況分布調査を行った。調査は1995年5月から年3回の割合で行い、川沿いをゆっくりとした早さで歩き、川を中心に両幅約50mに出現した野鳥を種類別にカウントするものである。96年2月以降の結果は次表の通りで、また、95年5月以降の種類数と総個体数の比較は次図のとおりである（調査担当：川上素）。

### 城山川、河川改修未着手地区と改修地区における野鳥調査結果

未着手地区：城山大橋～中央高速道橋、改修地区：中央高速道橋～上横川橋

調査距離は両地区とも 約1.3km	96.2.21		96.5.14		96.8.21		96.11.22		97.2.18		97.5.24	
	未着手 地 区	改修地 区	未着手 地 区	改修地 区	未着手 地 区	改修地 区	未着手 地 区	改修地 区	未着手 地 区	改修地 区	未着手 地 区	改修地 区
059 コキ				1			1	2				
087 マガモ				1								
088 カカモ	24	8	4	14	5	15	24	21	10	6	2	8
089 コガモ	5	10							8	2		
145 フウゲンソウ									1			
149 コジュケイ			1									
151 キジ			1									
217 キジバネ						1						
296 キノハト	10	6	8	6	7	5	4	3	4	10	7	6
304 赤トビ											1	
326 カモ												
331 アマガサ											1	
339 コウラ	1										1	
347 ツルメ			4	6	2	2					8	4
354 赤トビ	5	1	3		2	1	3	3	1			1
355 ハクセキレイ	2	3					2	6	1	1	3	8
356 セウロセキレイ	2	4		1		3		1		1		
360 ヒノシイ		2										
367 ヒヨドリ	15	8	9	8	10	3	8	7	6		12	10
369 モズ							1	1				
387 ジョウビタビ	1	1					1					
405 ツグミ	7	10					3		2	2		
410 ウグイス	4		1	1								
440 ヤマガラ												
441 ジュウカサ	2		2		2	4	2	2	10		6	
444 シロ	4						2					
449 赤シロ	2		1		1		5			2		
455 カササギ	15								3			
461 アオシ	6								2	4		
471 カササギ		12	2	1	2	4	2	5	24	4	2	2
488 スズメ	80	100	50	60	70	60	60	60	40	50	30	40
493 ムクドリ	5	11	8	15	5	2	4	10	4	5	20	9
498 田ガ			6	2	6		5			3	4	
503 ハクセキレイ	4	5	3	1	3	3	4	2	2	4	2	2
504 ハクセキレイ	2			2	1		2	6		3	4	4
B トビ			2	10	2	3	4	3	4	2		6
出現総羽数	196	181	105	126	118	106	137	132	122	99	103	100
種類数	20	14	16	14	14	13	19	15	16	15	15	12



## サンコウチョウの抱卵記録

倉本 修

### (1) はじめに

6月5日PM2:30頃、抱卵するため、巣に入ろうとしているサンコウチョウのみを尾又氏が見つけ、同行していた今井氏と私も確認しました。

その時は、♀と交替する迄を見届け現場を去りました。

初めて見るサンコウチョウの、ひっそりとして雰囲気から、かもし出される美しさは、私をゆさぶり、もっと見続けたい気持ちを、強くかきたててくれました。

その一心から、生態について何の知識も無いまま、6月7日、8日、10日と、抱卵の様子を見に通い、6月12日は、巣のある位置、その他を確認するためカメラを持って再度行きました。

巣は、殆ど仰ぎ見るような急傾斜のブッシュの斜面70~80m上方の杉の枝にありました。林縁から5m位奥まった樹林の中にあり、1日中やや薄暗い場所でした。北、東、南の3方向が、良く茂った樹林で巣を取り囲み、西方向だけ、杉がまだ若く開けた空間になっていました。

私は、その西側の下の位置から東の方向を仰ぎ見るという格好でした。抱卵のため、交替で♂♀が巣に入ると、胸、腹、脇の下面は全く見えず、見えるのは巣から、はみ出ている尾羽と頭部の上半分だけでした。周囲の気配を探るため、キョロキョロと頭を動かしてくれると、鮮やかなコバルトブルーの目のリングと嘴が良く見えて、実に美しく、喉の一部も見ることがありました。しかし、私の8倍の双眼鏡では、細部まで見るということは無理でした。ですから、常に、フィールドスコープを見続けるという状態でした。

せめて、双眼鏡で見える距離まで近づきたかったのですが、無用な刺激を与えまいと固く決心していたので、不便な位置からの観察となりました。

大げさに観察と言っても、私は、生きものを何時間も見続けるなんてことは、今だかつて経験がなく全く無知でした。生物観察には、それなりの基本的なルールとか、見るべきポイントがあるのですが、私は、そのような事柄は何も知らず、乱暴にも自分流にサンコウチョウの生活の一部を、ほんの短い期間見させてもらった訳です。ですから、見落とした点がたくさんあったと思います。なかでも、鳴声について、もっと細心の注意を払うべきだったと後悔しています。

最初の日には、何も分からず、鳴声は、すべてみからのものだとばかり思って

いました。2日目になって、やっと、いや、それは少し違うのではないかと疑問を持ち、♀の嘴の動き、喉の膨らむ様子に注意するようになりました。♂♀が交替しながら抱卵するという、共同作業は、両者の間に、何らかの合図が無ければおかしいと思いました。でも、鳴き交わしているという決定的な確認は、できずじまいとなりました。又、6月7日の巣が何度も空になるという状態……これも、私には意味が分かりません。

疑問ばかりが残る不満足な結果となりましたが、それらすべてを差し引いても、この3日間は、私にとってとても貴重な経験となりました。

夏鳥とは、繁殖のため、東南アジア方面から日本に渡って来て、雛を育て、秋にはまた南へ渡ってゆくという、簡単な解説文の裏に、彼らの、これ程緊張に充ちた日々の生活があり、全精力を傾けてそれにあたっている姿と、今回の無残な結末を、垣間見させてもらったことは、私の鳥達を見る目を、確実に前に進めてくれました。

## (2) 観察の記録

6月7日(土) 晴れ 無風 16°C 観察開始 AM8:40 観察終了 15:15

《♂の行動》	《♀の行動》	《MEMO》
抱卵中	8:40	
[出] 42		・ 巣を出た直後、鳴声2回
	43	[入] 頭は北向き
		(21分間抱卵)
頭は南向き [入]	9:04	[出]
(33分間抱卵)		・ 8:55 鳴声2回
		・ 交替早い
[出] 37	[入] 頭は南向き	・ 9:55~56 鳴声3回 (巣の方向から)
		・ 9:58 鳴声1回
	10:08	[出]
[16分間空巢]		カス、ヒトドリ、ジユウカラの鳴声聞こえる
		・ 10:20 鳴声1回
	24	[入] 頭は北向き
		(31分間抱卵)
		カス巣に近くで盛んに鳴いている
		カスの鳴声激しい (10:30)

《♂の行動》	《♀の行動》	《MEMO》
	55 [出]	コノ巣さる巣・10:44~55 鳴声 11回
【10分間空巢】		
	11:05 [入]	頭は南向き ・11:04~05 鳴声 3回 (遠い)
		(17分間抱卵) ・11:11 鳴声 3回
		・11:16~21 鳴声 9回
	22 [出]	
【7分間空巢】		
頭は南向き[入]	29	本日さる面をてて南東、ゆきの観察、おち巣裏
(12分間抱卵)		
	41 [入]	頭は南向き ・交替素早い
		(10分間抱卵) カスの鳴声やかましい(巣の裏側
	51 [出]	近く)
【3分間空巢】		
	54 [入]	頭は北向き ・12:14 鳴声 2回 (少し遠い)
		カス巢の近くでずっと騒いでいる
		(46分間抱卵) ・12:16~18 鳴声 4回
		・12:23~24 鳴声 2回 (巣の近く)
	12:40 [出]	
		・12:45~46 鳴声 2回
【8分間空巢】		カスずっと騒がしい
頭は南向き[入]	12:48	
(12分間抱卵)		・12:59 鳴声 1回
	[出]	13:00 [入] 頭は北向き
		(23分間抱卵)
	23 [出]	
【9分間空巢】		
	32 [入]	頭は南向き
		・13:44~46 鳴声 2回
	48	体を後ろにずらして
		巢の外に糞をした
		・13:50~51 鳴声 3回
		(36分間抱卵) ・14:04 鳴声 1回
	14:08 [出]	カスの鳴声しなくなった

《♂の行動》

《♀の行動》

《MEMO》

【2分間空巢】

頭は南向き【入】 10

(29分間抱卵)

【出】 39

15:00

巢外へ糞をした

08

巢外へまた糞をした

15

(36分間抱卵中)観察中止

【入】頭は北向き

・みが出て♀が入る迄 20秒

・14:48 鳴声 2回

・14:59~15:01 鳴声 3回

・15:03~05 鳴声 2回

6月8日(日) 晴れ⇒曇り 無風 20℃ 観察開始 AM8:33 観察終了 14:14

8:33

抱卵中 頭は南向き

・8:34 鳴声 2回

頭は南向き【入】 36

【出】

(18分間抱卵)

【出】 54

【入】頭は北向き

・この交替はまず先に♀が南向から来て巣のある枝の先にとまり間髪を入れずに♂が南へ飛び出した

・8:55 鳴声 2回

・8:58 鳴声 2回

・カスの鳴声無し

9:22

巢の中で少し身を起こし胸

の上あたりの毛づくろい

を5秒位してまた身を沈

めた常に頭を動かして上

下左右の気配を探っている

34

巢外へ糞をした

・9:46 鳴声 1回

48

クツギミが鳴き出した♀キョロキ

・9:48 鳴声 1回

と頭を動かして探ろうとして

・9:49 鳴声 1回

いる

(フィチヒチー フィチヒチーだ

けで 本体体は無し)

《♂の行動》		《♀の行動》	《MEMO》
		(56分抱卵)	【巣空間位S】
頭は北向き〔入〕	9:50	〔出〕北方向に飛び出し 巢の下で反転して 南へ去った	・この交代も素早かった カスが2回鳴いた(10:06)
(19分間抱卵)		〔入〕頭は南向き	・♂が出た直後鳴声1回
〔出〕	10:09		・10:35~36 鳴声4回(遠い)
		(31分間抱卵)	・10:37 鳴声2回
			・10:38 鳴声2回
頭南向き〔入〕	40	〔出〕南へ	・交代素早い
(24分間抱卵)			・気温19℃になった少し曇って きて風が出てきた)
南へ〔出〕	11:04	〔入〕頭は北向き	・交代は殆ど同時素早い
	30	カスが一声鋭く鳴いた ♀はビクッとして頭を動 かし探している	*抱卵中の♀は巢に身を沈めて ゆったりと構えているといっ た様子はみじんもない。
			周りの気配に敏感に反応し 常に警戒心を働かせて キョキョキしている
	52	初めて♀の喉あたり が膨らむように動く のが見えた	・11:50~51 鳴声3回 ・11:52~53 鳴声2回
		(49分間抱卵)	
頭は北向き〔入〕	53	〔出〕北へ飛び出し 巢の下で反転して 南へ去った	・交替は殆ど同時 *♂は早ほどにキョキョキしない
(17分間抱卵)			・12:07曇り空に変わった気温 18℃になった
〔出〕	12:10	〔入〕頭は南向き	・交替殆ど同時
		(33分間抱卵)	*交替の際も常に樹林の間を飛 び林縁の外側 明るい空間へ はまだ一度も出てこない
			・12:41 鳴き声2回



《♂の行動》

《♀の行動》

《MEMO》

頭は南向き〔入〕  
(24 分間抱卵)

43

〔出〕

〔出〕

南へ飛び出し巣  
の下で反転して  
北へ

13:07

〔入〕頭は北向き

31

巢外へ糞をした  
体を後方へずら  
し尾羽をぐいと  
下げて少し力む

(38 分間抱卵)

頭は南向き〔入〕  
(29 分間抱卵)

45

〔出〕

〔出〕

14:14

〔入〕頭は北向き

観察中止

- ・ 12:42 鳴き声 1 回
- ・ 12:42 続いてフィィヒィー ホイ
- と (ホイが 2 つだけ)
- ・ この交替もスムーズ
- ・ 今日とはとても息の合った交替が  
続いている
- \* 〇から♀への交替の際は合図らし  
き鳴き声は殆ど無い 多分♀が巢  
のすぐ近くの枝に現れそれを見て  
〇が飛び出す ♀が間髪を入れず  
巢に入る
- \* 今日卵を冷やしたくないの  
だろうか?
- \* カス今日は全然騒がない
- ・ 13:42~44 鳴き声 3 回
- ・ この交替もまず先に鳴き声があ  
り入れ替わりもスムーズだった
- \* どんよりと雲が厚くなってきた  
気温は 16℃まで下がってきた  
薄暗くなりスゴブの視界も悪い
- ・ この交替は♀が巢の前の枝に  
突然現れた〇はその瞬間飛び出  
し♀がさっと巢に入る

6月10日(火) うす曇り 無風 22℃ 観察開始 AM8:40 観察終了 12:03

8:40

抱卵中 頭南向き

・ 8:57 鳴声 1 回 (遠い)

(21 分間抱卵)

・ 9:01 鳴声 2 回 (観察開始 15)

頭南向き〔入〕  
(26 分間抱卵)

9:01

〔出〕

・ この交替は 20 秒位間があった  
・ 9:12 カスに声にキョキョキしている

〔出〕

27

〔入〕頭は北向き

・ 交替素早い  
・ 〇が出た直後鳴き声 2 回  
・ 9:51 鳴声 1 回 (遠い)

南に飛び出し反  
転して北へ飛び

《♂の行動》	《♀の行動》	《MEMO》
去った (10:00)		・ 9:52~53 鳴声 4 回 ・ 9:55 鳴声 2 回 ・ 9:57~59 鳴声 3 回 * 9:51~59 の間の鳴声は何を意味しているのだろうか ♂が自分が近くにいることを知らせているのか。 ・ 一度は私の居る沢を越えた反対側からも聞こえた。 ♂は巣の周囲（縄張り）を移動しているのだろうか、 でもまだ巣に入らない。 * ♀が鳴き交わしている確認がどうも取れない。 或いは見落としているのか。
		(68 分抱卵) * もう少し近い距離から♀の動きを見てみたい。 * ♂の縄張りの範囲は自分の鳴声の届く広さという ものも関係しているのだろうか。
	10:20 巢外に糞をした 35 [出]	・ 10:07 鳴声 2 回 ・ 10:34 鳴声 2 回 * 今井氏が来た
頭南向き [入] 45 (27 分間抱卵)		
	[出] 11:12 [入] 頭は北向き (24 分間抱卵)	・ 交替素早い ・ ♂の出した直後鳴声 1 回 ・ 11:15~16 鳴声 3 回 ・ 11:35 鳴声 1 回
頭は南向き [入] 36 (27 分間抱卵)		・ この交替も殆ど同時
	[出] 12:03 [入] 頭は北向き	・ 交替素早い ・ ♂の出した後鳴声 2 回

12:07 蛇が、巣に頭を突っ込んでいる所を発見。胴体は巣を支えている下からの枝の幹にぐるぐると巻き付けている。灰色がかかった白っぽい蛇。

体長は2m弱位。

♀は、狂乱状態で巣のまわり上下左右を激しく飛び回っている。

嘴でつつくとか、体当たりをするとか、そのような行動は見られない。

唯、為すすべ無しという感じ……何とも哀れ……

また、泣き叫ぶような声を出して蛇を威嚇するとか、みを呼ぶとかも無かった。

12:18 蛇は、卵を飲み込んだらしく胴体の2ヶ所でややふくらんだ所が見えた。

やがて巣を乗り越えて南へ延びている横枝を進んでいったが、1m位前進した所で頭をもたげ周囲を見まわした。多分、枝が切れているのに気付いたのだろう。

そこからUターンして引き返し、もう一度、巣を通り越して悠々と下の枝伝いに降りていった。

12:25 ♀は、居ても立ってもおれないという感じで飛び回り、林縁にある大きな樹の横枝にとまったり、すぐ離れたりにしている。明るい空間でサンコウチョウを見たのは、これが初めてだった。



蛇が去った後も巣の上にとまったり、覗きに行ったりはしないようだった。みの姿はまだ見えない。

12:32 ♀の動きを双眼鏡で追っていると突然オオルリのみが現れた。林縁にある、明るく見える大きな樹の横枝で、まだ興奮状態の♀をじっと見るように同じ横枝に2分位止まっていた。不思議な光景だった。

私は、その朝、沢に入る手前の川沿いの樅の木の下枝で鳴かずにじっと…留まっているオオルリのみをしばらく眺め続けていた。

とっさに、あのオオルリだと思った。

12:35 ♀の姿が見えなくなった。

鳴声が2回聞こえた。



### (3) まとめ

		6月7日	6月8日	6月10日
総観察時間		6時間35分 (395分)	5時間41分 (341分)	3時間23分 (203分)
抱卵回数	♂	4回	6回	3回
	♀	9回	6回	3回
総抱卵時間	♂	86分(26%)	131分(38%)	80分(41%)
	♀	251分(74%)	210分(62%)	113分(59%)
平均抱卵時間	♂	21分	22分	27分
	♀	28分	41分	38分
総空巣時間		55分(7回) (平均8分)	0	10分(1回)

- ① 最も問題になる点は、抱卵が何日から始まったのか分からないという点です。普通サンコウチョウは、産卵後12~14日で孵化するそうですが、6月7日がその何日目にあたるのか分からない。そのため今回の記録をサンコウチョウの抱卵期の中で正しく位置づけすることが出来ず、ある任意の3日間というだけの意味しかないので。
- ② 次に、とまどいを感じるのは6月7日のちぐはぐな♂♀の交替ぶりと、翌6月8日の実に息の合った、スムーズな交替ぶりの余りにも大きな違いについてです。たった1日で何故、これ程変化があるのか。これが良く見られるパターンなのか。もう少し長い日数、観察を続けることが出来れば、ヒントを得られたかも知れません。
- ③ 鳴声についてですが、私には、抱卵中は、まず鳴かないだろうという先入観がありました。巣の位置を外敵に報せるようなもので、そんなことはしない筈だと。ですから♀が抱卵中、鳴声があると、すべてみだと思っていました。又、♂が抱卵中は、一度も鳴声を耳にしません。  
しかし、2日目になって初めて、いや、ちょっと、おかしいぞと考えはじめました。と言うのは♀から♂に交替する際、その3~4分前から鳴声が増えることに気付いたからです。  
例えば、6月8日のAM10:40 ♀から♂への交替のことを考えてみますと、先ず10:35頃から鳴声が増え始めました。初めは、巣の方角からとは違う、少し遠い所からです。そして、10:38 巣の方角から聞こえ、

10:40♀が巣を飛び出し、間髪を入れず♂が巣に入りました。その素早い交替から♂は、すぐ間近かの枝に止まって一瞬待機していたかのかと想像しました。

或いは、巣の近くに飛んで来るのを♀が目で見ながらタイミングを計って飛び出したのかもしれないと。

いずれにしても、♂が何故その時間に巣に来たのかが問題なのです。♂は、前回抱卵をやめて巣を飛び出したのは10:09です。それから31分経過しています。♂の内部で交替しようという衝動が自発的に起こったのでしょうか。それで、鳴声でそれを知らせ巣へやって来た。……いやそれは少しおかしい、いくら鳴声が聞こえても巣に入らなかった事が6月7日は何度もあったのだから。

では、やはり♀が何らかの合図を出しているのではないかと思いました。それから、♀の様子を注意して見るようにしましたが、下から見上げる私の位置からでは、頭の上部と尾羽しか見えません。唯、一度だけ何かの拍子に見ました。鳴声もありました。でもそれ1回きりです。後は、一度も鳴いているらしい兆候を確認出来ませんでした。

- ④ ♂から♀への交替は、これはもう明らかなように思われます。まづ、♀が何の前触れもなく突然帰って来るのです。♂はそれを見て飛び出す。♀が素早く巣に入る。

その間、鳴声による合図のようなものは一切無いようです。

♂が飛び出した直後、鳴声が1~2回良く聞かれました。私は、それが抱卵から開放されて、やれやれといった♂の気持ちの表れのように思われました。

- ⑤ ♂の抱卵時期は、即、♀の行動時間（採餌？）なのです。

♂が平均21分~27分抱卵しているのは、その間、♀が巣外で行動しているからです。ですから、♂の時間を決めているのは♀であって、♂が自分の勝手な衝動によって巣を離れることは殆どありません。

又、♂は、抱卵中は、一度も鳴きませんでした。

- ⑥ 私には、抱卵行為をリードしているのは、♀だと思われてなりません。♀から♂への交替時、何度も聞かれる鳴声は、確認はしてませんが、多分、鳴き交わしをしているのだと思われます。♀から、ある合図の鳴声が出ると♂が来る。でも、唯、それだけでは6月7日の空巣7回の説明は無理な

ようです。

あの日は、きっと、私には未だ分からない何か、別の要因がからんでいるのでしょう。

- ⑦ む♀共に、抱卵の際には必ず、北向きか南向きに座りました。6月8日は、特に、♀が交替する度に向きを変えていました。しかし、3日間を通して見ますと、別に規則性は無いようにも思えます。

- ⑧ 巣は、杉の樹（幹の径約34 cm）にあり、地上約8~10 m位の所から斜め上方へ、伸びた枝の二又になった部分に作ってありました。

やや底が尖り気味のお椀型でした。林縁から、5 m位奥まった所にあり、北東南の3方向は、若葉のよく繁った各種の樹木に複雑に取り囲まれていて、杉の木にたどりついて巣を見つけるのは30分以上かかりました。

- ⑨ 地上10 m以上も上方にある巣を、何故、蛇（アオダイショウ？）は、発見し襲ったのでしょうか。私は、♀が抱卵中に、巣の外に糞をしていたのが原因ではないかと思えます。糞の臭いが蛇を呼び寄せたのではないかと思えます。

- ⑩ むの、ふたつに割れた長い尾羽は、抱卵中、巣から垂れ下がっていることは決してなく、常に水平に近いアーチ状に保たれていました。

時々、尾羽の先端を、逆に上へ反り返らせることもしてました。

風が吹き出すと、巣を支えている枝が揺れだし、巣全体と、長い尾羽が、ゆらゆらと動き始めます。

下から見上げていると、まるで天から吊り下げられた揺り籠のようでした。

- ⑪ 6月12日、急斜面を這い登って、巣の下で、2時間程いました。巣の回りは、しーんと静まり返っていました。

もしや、サンコウチョウの鳴声が、微かにでもしないかと、耳を澄ませていましたが無駄でした。



## カワセミの巣穴の観察

神谷 古牧

1997年4月から5月にかけて、谷地川で、カワセミの巣穴作りが観察できました。以下にその時の状況を簡単に記します。

**場 所：**八王子市石川町 828 番地先

**立 地：**谷地川から住宅一軒と道路を隔てた河川改修前の旧谷地川沿いの北西向きの高さ5mほどの崖。この崖の上は、今年の1月まで森になっていたが全て切り開かれて、宅地の造成工事が始まっている。旧谷地川は、排水路になっている部分を含めて、約10mの幅で、道路とは柵で仕切られ、雑草が生い茂っている。  
現在は、排水路沿いの擁壁の建設が行われている最中です。

**過去の状況：**この場所での営巣は未確認。ただし、当地の谷地川では今年の1月から3月の間、やや下流で護岸工事を行っていた間を除いて、毎日カワセミを観察できる。

**今春の状況：**（観察メモより）

4月16日	拙宅前でカワセミのペアがじゃれあっているのを確認する
20日	護岸工事中見られなかったカワセミが毎日観察できるようになる。ただし、ペアとの関係は不明。
29日	当地に4ヶ所の巣穴を発見。観察していると、そのうちの1ヶ所に入入りするところを数回確認。
5月1日	巣穴が4ヶ所増え合計8ヶ所となる。ただ当日出入りしていた穴は、前回と同じ巣穴であった。
4日	当会のNさんから、姿をあまり見かけなくなると連絡を受ける。
6日	巣穴の前に建設資材が積み上げられる。この頃と前後して、拙宅の脇を鳴きながら通り抜け、南側の森に消える姿を日に何度も見るようになる。
11日	巣穴の寸法、位置関係などを調べ、写真に撮る。離れて見ているときは関東ローム層だと思っていたが、川砂の体積している地層であり、大変掘りやすいものであった。巣穴をいくつも空けた理由として、石が内部にある事など想像していたが、そのような物は途中でやめたどの穴にもなくて不明である。

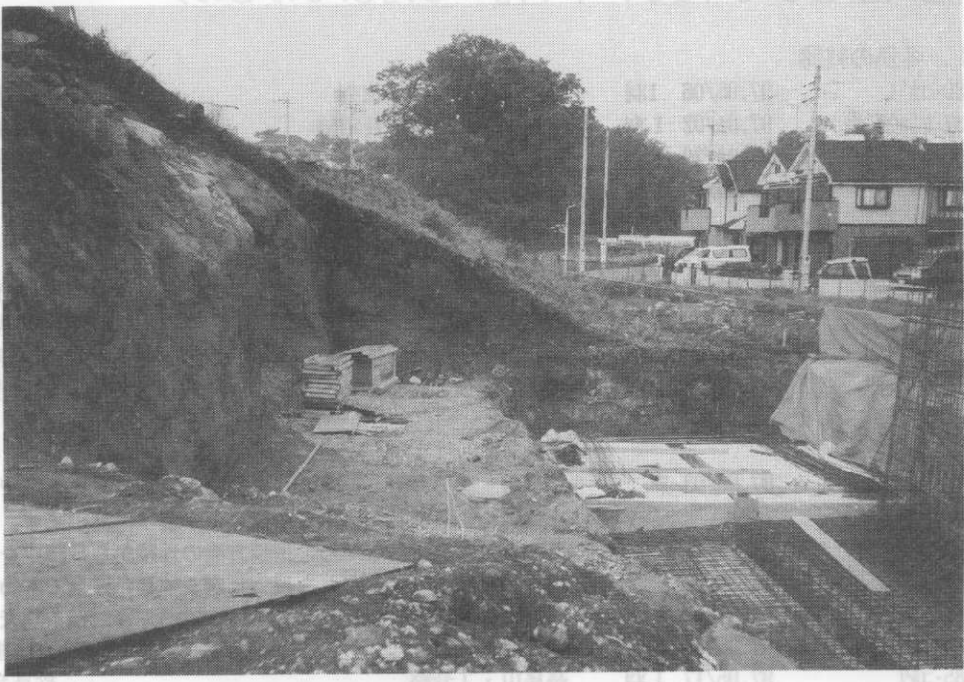
穴の位置関係

樂穴の形状等

番号	穴の位置		穴の径		深さ	形状略図
	高さ	①より左へ	縦	横		
①	2,400	0	70	50	140	
②	1,590	1,500	70	60	80	
③	1,440	2,650	90	70	560	
④	1,250	3,000	60	60	60	
⑤	1,010	1,600	130	60	70	
⑥	660	1,200	60	90	110	
⑦	480	1,150	40	50	130	
⑧	450	740	70	90	100	

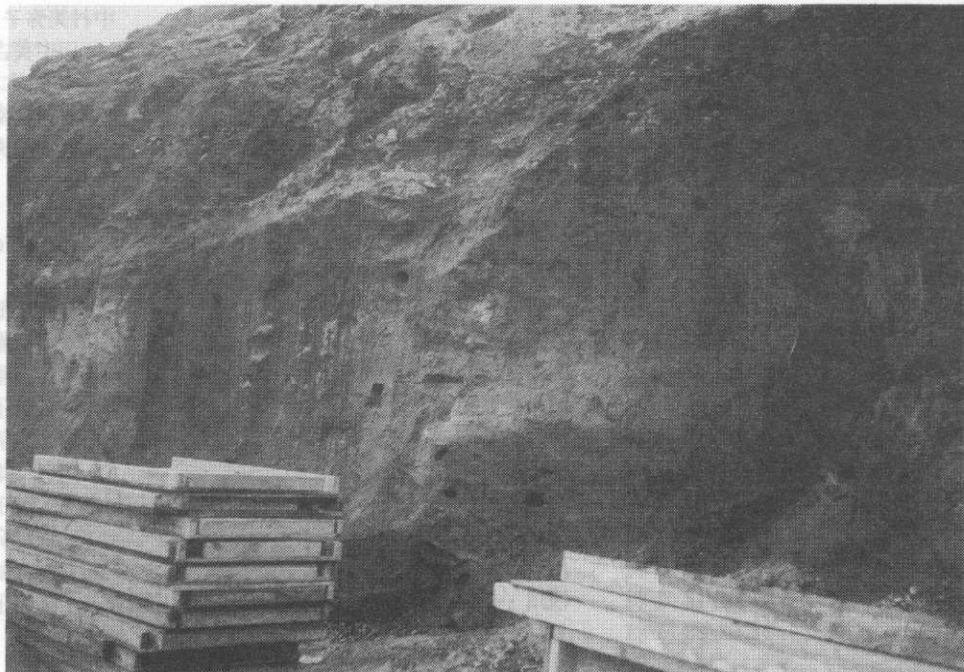
\*樂穴の位置関係は、右下写真の右上の樂穴を①とし、以下上から下へ番号をつけた。





左側の切土面に巣穴を掘った

山崎	87.04.17	1.14	87.04.17	1.14
川野	87.04.18	1.14	87.04.18	1.14
小宮	87.04.19	1.14	87.04.19	1.14
小宮	87.04.20	1.14	87.04.20	1.14
谷村	87.04.21	1.14	87.04.21	1.14



合計8個所の巣穴が見える

# 鳥 信 (主として1997年1月～6月までのもの)

## 1. 冬鳥の終認

089・コガモ	97.05/06	1羽	浅川・浅川大橋上流側	田中英吉
387・ツヨビノササ	97.04/02	1羽	浅川・大和田橋～長沼橋	今井達郎
405・ツグミ	97.04/29	1羽	下恩方	今井達郎
486・シメ	97.05/03	1羽	北浅川・河原宿大橋下流	今井達郎、渡辺仁

## 2. 夏鳥の初認

347・アホウドリ	97.03/17	1羽	浅川・萩原橋上空	清水茂
409・アホウドリ	97.04/08	1羽	高尾山・蛇滝コース	粕谷和夫
410・ウグイス	97.03/09	1羽	元八王子・霞ヶ丘住宅・さえずり	川上憲
416・オオソバドリ	97.04/30	1羽	浅川・曉橋上流50m	田中英吉

## 3. 通過

323・アホウドリ	97.06/03	声	北浅川・式分方町(朝5時40分頃、自宅の隣の栗畑で4回聞く、双眼鏡で2階から探したが姿は確認出来ず、その後犬の散歩しながら、川口方面の丘陵から5回声を聞く。最初テープかと耳を疑ったが、すごい声量で本物間違いないと思った。)	柚木鎮夫
385・コウモリ	97.05/01	1羽	和田峠下	古山隆
385・コウモリ	97.05/17	1羽	高尾山・1号路	探鳥会
388・ヒメドリ	97.04/06	1羽	浅川・新井橋下流川原の菜の花の上	門口一雄
399・クワガタ	97.04/29	♂2	小宮公園	古山隆
399・クワガタ	97.04/29	1羽	片倉城跡公園	小池一男
412・コノハシロ	97.04/27	1羽	多摩川・谷地川合流付近	神谷古牧
421・コノハシロ	97.04/30		高尾山ケーブル駅付近	中村美弥子
427・キバシ	97.04/30	1羽	小宮公園	田中英吉
427・キバシ	97.05/15	♂1	富士森公園・野球場東の桜	平井国二
427・キバシ	97.06/14	♂1	八王子市松木・蓮生寺公園	木村信幸
490・ユキトドリ	97.04/20	2羽	多摩川・浅川合流付近	柚木鎮夫

## 4. 希少種

今期はヤマシギ、フツボウウ、ヤツカシラ、レンジャク類、イビヨドリ、ニューフェイスメがで、マヒワ、ハニマシコ、ウソの出現が多かった。

056・ヤマシギ	97.05/10	1羽	下恩方・中島酒造の水田	今井達郎
056・ヤマシギ	97.05/27	4羽	八王子市高月町・水田	古山隆
058・チュウシギ	97.05/27	2羽	八王子市高月町・水田	古山隆
104・キンクロハシ	97.03/08	1羽	浅川・長沼橋下	山崎悠一・久美子
115・ミドリ	97.01/12	1羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子
150・ヤトドリ	97.04/29	1羽	明王溪谷・明王林道	門口一雄
150・ヤトドリ	97.05/01	1羽	今熊山周辺	河村道寛・洋子
150・ヤトドリ	97.05/17	1羽	高尾山・4号路	探鳥会
150・ヤトドリ	97.05/18	1羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫他
160・クハ	97.01/18	1羽	浅川・長沼橋下流側滝合小の対岸付近	山崎悠一・久美子
160・クハ	97.02/23	1羽	谷地川・石川町・自宅付近	神谷古牧

160-クイ	97.03/24	2羽	浅川・中央線鉄橋下流側左岸低湿地	湯原直彦・ひろみ
167-ハン	97.01/25	2羽	浅川・長沼橋上流側左岸用水取り入れ口付近	粕谷和夫
167-ハン	97.02/02	1羽	谷地川河口付近・若鳥	神谷古牧
167-ハン	97.02/15	1羽	浅川・ふれあい橋～新井橋	粕谷和夫他
167-ハン	97.03/01	1羽	浅川・日野市民プール前→4/6新井橋上流	1羽 門口一雄
167-ハン	97.03/24	1羽	浅川・中央線鉄橋下流側左岸の低湿地	湯原直彦・ひろみ
167-ハン	97.04/15	2羽	多摩川・谷地川合流付近瓢箪池	神谷古牧
160-クイ	97.05/03	1羽	北浅川・元木橋付近	今井達郎他
167-ハン	97.06/08	1羽	北浅川・中央高速道橋上流200m	清水茂
228-ヤマキ	97.01/05	1羽	川口丘陵天合峰	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一、井手龍世、山崎悠一・久美子
298-アハト	97.04/30	声	高尾山	中村美弥子
298-アハト	97.05/17	声	高尾山	探鳥会
298-アハト	97.05/25	声	八王子城跡奥	粕谷和夫
298-アハト	97.05/31	声	川口南丘陵・戸吹奥	粕谷和夫他
317-ヨウ	97.07/06	声	元八王子・霞ヶ丘住宅（自宅から）	川上志
321-ヤマシ	97.05/28	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	三好恒雄
328-フクホウウ	97.05/17	1羽	高尾山・1号路から見たケブカのある尾根	探鳥会
329-ヤマシ	97.02/06	1羽	小宮公園→03/01まで留まる	本島てるみ
329-ヤマシ	97.02/10	1羽	小宮公園	川上志
329-ヤマシ	97.02/11	1羽	小宮公園	粕谷和夫
329-ヤマシ	97.02/15	1羽	小宮公園	中村美弥子
336-アハト	97.03/09	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	月例探鳥会
237-オハト	97.02/01	1羽	高尾山・1号路タコ杉付近	粕谷和夫
337-オハト	97.03/03	1羽	高尾山山頂・ビジターセンター裏	粕谷和夫
337-オハト	97.03/11	1羽	高尾山山頂ビジターセンター裏	白川史子
344-ヒバリ	97.05/3	1羽	南陽台・造成地（さえずり）→5/4も	馬場百合亜
349-コシガハメ	97.05/03	約10羽	日野市・公団高幡台団地・造巢中	粕谷和夫他
349-コシガハメ	97.06/07	1羽	浅川・一番橋～多摩川合流	門口一雄
360-ヒンズイ	97.02/07	1羽	南陽台・自宅庭→前の造成地には1月～4月初旬 数羽～10数羽いつもいた	馬場百合亜
373-レンヤク類	97.02/02	100羽	元八王子・霞ヶ丘住宅～高尾台住宅（住宅内のピラカンサの実、テレビアンテナ等）、キレンジャク7割、ヒレンジャク3割→02/14まで留まる	川上志
373-レンヤク類	97.02/06	100±	八王子駅近くの民家	古山隆
376-ミソサギ	97.03/08	1羽	初沢川上流・高尾霊園内	横山由美子
376-ミソサギ	97.01/12	1羽	北浅川・東大沢橋～松竹橋→3/1・1羽	今井達郎他
379-カクガリ	97.01/04	1羽	1羽 高尾山・蛇滝前	粕谷和夫
379-カクガリ	97.01/26	1羽	高尾山	本島てるみ
379-カクガリ	97.02/14	2羽	高尾山・6号路入口の手前の草むら→3/14・1羽、 4/4・1羽	木村晴美他
393-イビヨリ	97.02/01	1羽	浅川・平山橋の橋脚上	山崎悠一・久美子
395-マシロ	97.05/05	1羽	高尾山山頂付近	丸山二三夫
396-トラガミ	97.02/16	1羽	小宮公園	粕谷和夫
396-トラガミ	97.02/16	1羽	小宮公園	古山隆
396-トラガミ	97.02/24	1羽	南浅川・ごん助裏の畑（虫を捕食）	川上志

396・トワカグミ	97.02/22	声	川口丘陵天合峰	粕谷和夫他
396・トワカグミ	97.04/07	1羽	平山城趾公園	馬場百合亜
396・トワカグミ	97.04/29	声	八王子市下柚木→5/6	馬場百合亜
396・トワカグミ	97.04/29	声	長沼公園	馬場百合亜
396・トワカグミ	97.05/11	声	醍醐川上流	馬場裕・百合亜
399・クロウカグミ	97.04/30	1羽	下柚木セナーハウス→5/6下柚木1羽	馬場百合亜
400・アカハ	97.02/06	1羽	南浅川・白山橋～両界橋→02/25,03/03	横山由美子
400・アカハ	97.02/23	1羽	小宮公園	支援探鳥会
400・アカハ	97.05/04	4羽	小宮公園	古山隆
400・アカハ	97.05/05	1羽	高尾山山頂付近	丸山二三夫
402・ウラハ	97.03/12	♀1	八王子市戸吹焼却場付近	清水茂
409・アヲシメ	97.04/19	1羽	八王子市宝生寺団地付近	柚木鎮夫・育子
416・オオソシキリ	97.05/03	1羽	北浅川・ゆうやけ橋付近	今井達郎他
422・センバ・イムクイ	97.04/30	1羽	下柚木セナーハウス→5/2堀之内1羽	馬場百合亜
424・キクイタギ	97.02/01	2羽	高尾山4号路	粕谷和夫
424・キクイタギ	97.02/14	4羽	高尾山・3号路→3/14・1羽	木村晴美
424・キクイタギ	97.03/03	5羽	高尾山・1号路	粕谷和夫
424・キクイタギ	97.04/26	2羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫他
424・キクイタギ	97.05/04	数羽	八王子城跡付近	粕谷和夫他
427・キヒタキ	97.04/28	声	長沼公園及び平山城趾公園→以降、下柚木及び堀之内でも→平山城趾公園では7月上旬でもさえずり継続中	馬場百合亜
430・オチドリ	97.04/28	1羽	平山緑地→以降、長沼公園及び下柚木セナーハウスでも	馬場百合亜
434・オノノチヨ	97.04/09	声	八王子市堀之内(オチドリという声)	馬場百合亜
434・オノノチヨ	97.05/08	1番	醍醐川下流・菅巣	尾又英雄
434・オノノチヨ	97.05/10	1羽	表高尾・案内川上流→5/26,6/21	柚木鎮夫・育子
434・オノノチヨ	97.05/18	2羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫他
434・オノノチヨ	97.05/31	2羽	下恩方・松竹の奥	今井達郎他
434・オノノチヨ	97.06/05	声	小津	三好恒雄
434・オノノチヨ	97.06/09	2羽	小仏峠下	中村啓二・美弥子
434・オノノチヨ	97.06/14	1羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫他
462・クロツ	97.03/20	1羽	北浅川・元八市民センター付近の川原	河村道寛・洋子
462・クロツ	96.03/22	1羽	谷地川河口付近→4/4同じ場所で再認	神谷古牧
462・クロツ	97.05/11	1羽	醍醐川上流部	馬場裕・百合亜
470・アトリ	97.01/15	5羽	谷地川・多摩川合流部	古山隆
472・マヒ	97.01/03	10羽	谷地川河口付近	粕谷和夫
472・マヒ	97.01/03	10羽	浅川・新井橋上流側左岸のオオハリ	粕谷和夫
472・マヒ	97.01/12	数羽	浅川・清川グラウンド付近	清水茂他
472・マヒ	97.01/12	9羽	浅川・鶴巻橋～大和田橋	田中英吉
472・マヒ	97.01/12	9羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一他
472・マヒ	97.01/12	2羽	川口川・川口橋～明治橋	鈴木章七他
472・マヒ	97.01/12	3羽	谷地川・河口付近	大川征治他
472・マヒ	97.02/01	15羽	高尾山・1号路入り口国民宿舎高尾山荘前の杉	粕谷和夫
472・マヒ	97.02/01	1羽	浅川・川口川合流部	古山隆
472・マヒ	97.02/22	2羽	片倉城跡公園	小池一男

472・マビ	97.04/12	2羽	浅川・長沼橋下流80m	山崎悠一・久美子
481・ハ・ニマシコ	96.12/22	♀2	谷地川・多摩川合流付近→12/30	中村美弥子
481・ハ・ニマシコ	97.01/03	♂1♀1	谷地川河口付近	粕谷和夫
481・ハ・ニマシコ	97.01/12	2羽	谷地川・河口付近	大川征治他
481・ハ・ニマシコ	97.02/01	3羽	浅川・川口川合流部	古山隆
481・ハ・ニマシコ	97.03/09	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	月例探鳥会
481・ハ・ニマシコ	97.03/19	♂1♀1	高尾山・日影林道	馬場百合亜
481・ハ・ニマシコ	97.03/26	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	三好恒雄
481・ハ・ニマシコ	97.03/31	2羽	高尾山・大平林道	川上恵
481・ハ・ニマシコ	97.04/17	1羽	日野台地・東光寺小学校裏・コナラの花を啄む神谷古牧	粕谷和夫
483・ウ	97.01/04	10羽	高尾山・蛇滝前の紫陽花の実	粕谷和夫
483・ウ	97.01/04	6羽	川口丘陵天合峰	粕谷和夫他
483・ウ	97.01/12	3羽	川口川・川口橋～明治橋	鈴木章七他
483・ウ	97.01/21	8羽	高尾山・大平林道	川上恵
483・ウ	97.01/26	11羽	高尾山自然博物館・桜の木	本島てるみ
483・ウ	97.02/01	10羽	高尾山麓小仏川沿の桜	粕谷和夫
483・ウ	97.02/01	6羽	高尾山・1号路入り口国民宿舎高尾山荘前の桜粕谷和夫	古山隆
483・ウ	97.02/02	3羽	滝山城跡公園	古山隆
483・ウ	97.02/04	10羽	元八王子高尾台住宅西公園・桜の芽を啄む→02/05.02/07 でも同住宅東公園の桜に8羽	川上恵
483・ウ	97.02/14	4羽	高尾山・6号路(紫陽花の枯れ枝)	木村晴美他
483・ウ	97.02/15	2羽	川口川・川口橋～明治橋	鈴木章七他
483・ウ	97.02/24	4羽	南浅川・白山橋～両界橋・♂3♀1→02/25	横山由美子
483・ウ	97.03/01	5羽	北浅川・ゆうやけ橋～河原宿橋	今井達郎他
483・ウ	97.03/03	5羽	高尾山山麓小仏川駒木野病院付近の梅の花の中粕谷和夫	横山由美子
483・ウ	97.03/30	4羽	初沢川・高尾霊園・♂3♀1	横山由美子
487・ニウカイメ	97.03/12	1羽	南浅川・両界橋～白山橋間、左岸川沿いのケヤキとイチ ヨウ、スズメと違うさえずりにきずく、くっきりとした 赤茶色の顔、黒斑の無い頬、黒い嘴、口の下の小さな 黒斑、白っぽい尾の裏側を双眼鏡で確認	横山由美子

## 5. 猛禽類

119・ハチマ	97.06/16	♂1	美山・二本松(モミの木のこずえ)	湯原直彦・ひろみ
120・トビ	97.03/22	1番	川口丘陵・天合峰・営巣抱卵中→4/26・巣立ち直前の 雛2羽	粕谷和夫他
123・オオカ	97.01/04	1羽	西浅川町・神明神社	粕谷和夫
123・オオカ	97.01/12	1羽	浅川・高幡橋上流	馬場裕他
123・オオカ	97.01/12	1羽	浅川・ふれあい橋～多摩川合流	阿江範彦
123・オオカ	97.01/12	1羽	谷地川・月見橋～左入橋	井手龍世・新田茂
123・オオカ	97.01/28	1羽	多摩川・滝山城跡公園下→2/25・1羽、3/26・1羽三好恒雄	馬場百合亜
123・オオカ	97.01/30	1羽	長沼公園	馬場百合亜
123・オオカ	97.02/01	1羽	高尾山・1号路上空	粕谷和夫
123・オオカ	97.02/01	食痕	谷地川・新旭橋付近(ドバトの食痕1カ所)	粕谷和夫
123・オオカ	97.02/02	1羽	谷地川河口(オオカがキジを追い、そのオオカをハイロチュ ウヒ1とカラス2が追う)	粕谷和夫
123・オオカ	97.02/02	食痕	宇津貫緑地・ドバトの食痕2カ所	粕谷和夫他

123・オオカ	97.02/22	1羽	長沼公園 馬場裕・百合亜	
123・オオカ	97.02/22	1羽	川口丘陵天合峰	粕谷和夫他
123・オオカ	97.03/09	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	月例探鳥会
123・オオカ	97.03/20	1羽	戸吹町・熊野神社上空	粕谷和夫他
123・オオカ	97.04/13	1羽	北浅川・松枝橋→小田野公園	月例探鳥会
123・オオカ	97.04/25	1羽	川口丘陵・天合峰	川戸恵一
123・オオカ	97.05/05	1羽	小津付近	三好恒雄
123・オオカ	97.05/24	1羽	高尾山・日影沢	小池一男
123・オオカ	97.05/26	1羽	表高尾・南浅川案内川上流	柚木鎮夫・育子
123・オオカ	97.05/31	1羽	下恩方松竹の奥	今井達郎他
123・オオカ	97.06/04	1羽	石川町・谷地川上空（双眼鏡で見るとネズミを両足で掴んでいる）	神谷古牧
123・オオカ	97.06/07	3羽	北浅川・松竹公園上空	今井達郎他
125・フミ	97.04/29	1羽	加住南丘陵	大川征治他
126・ハヤカ	97.01/12	1羽	浅川・高幡橋上流	馬場裕他
126・ハヤカ	97.05/11	1羽	裏高尾・小下沢林道	公開探鳥会
129・ノリ	96.11/14	1羽	南浅川・白山橋～両界橋→11/16,12/02,97.02/25	横山由美子
129・ノリ	97.01/05	1羽	川口丘陵天合峰	粕谷和夫他
129・ノリ	97.02/25	1羽	多摩川・滝山城跡公園下→3/26・1羽	三好恒雄
129・ノリ	97.03/09	2羽	多摩川・滝山城跡公園下	月例探鳥会
129・ノリ	97.03/14	1羽	高尾山・6号路	木村晴美他
129・ノリ	97.05/31	1羽	下恩方・松竹の奥	今井達郎他
130・オシカ	97.04/25	1羽	高尾山・日影林道（求愛鳴き）	馬場百合亜
130・オシカ	97.04/29	1羽	川口南丘陵・戸吹奥粕谷和夫他	
137・ハイロチュウ	97.01/12	2羽	谷地川河口付近→01/15,01/18.01/19	中村美弥子
137・ハイロチュウ	97.01/14	1羽	谷地川・多摩川合流部 ♀型（若か成鳥かは確認できず、谷地川左岸のアシ原の上をゆっくり旋回しては、時々、急降下を繰り返し餌を探しているようでした。夕暮れでも腰（上尾筒）羽くつきり白く、風切下面の縞模様も見えました。17時過ぎ、アシ原に降りた後、再び飛び上がりませんでしたので、罠としても利用しているかも知れません。）	古山隆
137・ハイロチュウ	97.02/01	1羽	谷地川河口付近・♀型	粕谷和夫
137・ハイロチュウ	97.02/02	1羽	多摩川・拝島堰右岸	古山隆
137・ハイロチュウ	97.02/03	1羽	谷地川河口付近	神谷古牧
137・ハイロチュウ	97.03/09	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	月例探鳥会
145・チヨゲンホウ	97.01/12	1羽	浅川・松枝橋～鶴巻橋	清水茂他
145・チヨゲンホウ	97.01/12	1羽	浅川・高幡橋上流	馬場裕他
145・チヨゲンホウ	97.01/28	1羽	浅川・鶴巻橋～大和田橋	榛沢務
145・チヨゲンホウ	97.01/28	1羽	浅川・鶴巻橋～大和田橋	榛沢務
145・チヨゲンホウ	97.02/01	1羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子
145・チヨゲンホウ	97.02/01	1羽	八王子市みなみのニュータウン	探鳥会
145・チヨゲンホウ	97.02/01	2羽	八王子市富士見町上空	粕谷和夫
145・チヨゲンホウ	97.02/18	1羽	城山川・城山橋～中央高速道	川上志
145・チヨゲンホウ	97.02/23	1羽	八王子市緑町霊園上空・山田川左岸	粕谷和夫

145・チュウケンボウ	97.03/30	1羽	八王子市明神町・明神パーキング上空	川上志
145・チュウケンボウ	97.05-03	1羽	浅川・ふれあい橋の上	山崎悠一・久美子
145・チュウケンボウ	97.05/08	1羽	南浅川・案内川大垂水峠方面	川上志他
145・チュウケンボウ	97.05/10	1羽	北浅川・陵北大橋～松枝橋	河村道寛・洋子
145・チュウケンボウ	97.05/11	1羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子
145・チュウケンボウ	97.05/25	家族	東京薬科大学体育館付近・親1雛2 (親が巢立ち雛に餌を渡す)	粕谷和夫
145・チュウケンボウ	97.06/11	家族	浅川・山田川合流付近 (親2子2)	探鳥会
314・アハズク	97.05/09	声	川口川・日枝神社	栗原正江
315・フクロウ	97.05/18	声	谷地川上流部	古山隆
315・フクロウ	97.05/27	声	北浅川・武分方町 (自宅から) →06/02も聞く	粕谷和夫・育子

## 6. シギ・チドリ類

176・コトドリ	97.03/30	数羽	八王子市南陽台・造成地	馬場百合亜
177・イカルドリ	97.04/02	数羽	八王子市南陽台・造成地	馬場百合亜
187・キョウシヨキ	97.05/08	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	古山隆
189・トウネン	97.05/01	7羽	多摩川・滝山城跡公園下	古山隆
196・ハシキ	97.01/12	7羽	浅川・長沼橋上流側	湯原直彦他
196・ハシキ	97.01/25	25羽	浅川・一番橋上流側300m	粕谷和夫
196・ハシキ	97.02/01	16羽	浅川・一番橋付近→4/4・50羽、5/5・108羽	門口一雄・裕子
196・ハシキ	97.04/12	105羽	浅川・一番橋上流側200m	山崎悠一・久美子
214・クサキ	97.02/01	1羽	浅川・日野市民プール前	門口一雄
214・クサキ	97.03/09	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	月例探鳥会
225・チュウシヤクシ	97.05/01	1羽	多摩川・滝山城跡公園下	古山隆

## 7. 託卵鳥

302・カッコウ	97.05/21	1羽	八王子市絹ヶ丘・自宅	山崎悠一・久美子
302・カッコウ	97.05/17	1羽	浅川と多摩川合流付近 (クリーンセンターの正面奥・対岸側の木の上、腹の横縞も確認できた。暫く鳴いていたがラジコン飛行機の出現で上流へ飛び去った) 阿江範彦	粕谷和夫
302・カッコウ	97.05/27	声	八王子市緑町霊園	粕谷和夫
303・フクロウ	97.04/25	1羽	高尾山・大垂水付近	馬場百合亜
303・フクロウ	97.04/28	声	小仏城山	中村美弥子
303・フクロウ	97.04/30	声	高尾山	中村美弥子
303・フクロウ	97.05/03	1羽	影信山から小仏峠の山道、20m位の距離で鳴いて飛び去る姿も確認	神谷古牧
303・フクロウ	97.05/23	1羽	高尾山・大平林道	川上志
304・ホトキス	97.05/15	1羽	八王子市絹ヶ丘・自宅	山崎悠一・久美子
304・ホトキス	97.05/16	1羽	八王子市絹ヶ丘・自宅	山崎悠一・久美子
304・ホトキス	97.05/17	声	八王子市川町・自宅	今井達郎
304・ホトキス	97.5中旬	声	北浅川・武分方町 (自宅から) →6月中旬まで	粕谷和夫・育子
304・ホトキス	97.05/26	声	多摩川・滝山城跡下滝ヶ原ランド付近	神谷古牧
304・ホトキス	97.05/26	声	下柚木→1週間位鳴く→長沼公園1羽・姿も	馬場百合亜

304・ホトキス	97.05/31	声	川口南丘陵・戸吹奥	粕谷和夫他
304・ホトキス	97.06/07	2羽	北浅川・大沢橋～陵北大橋	今井達郎他
304・ホトキス	97.06/07	1羽	川口川・片井戸橋付近	鈴木章七他
<b>8. 繁殖</b>				
052・コイサキ・コサキ	97.06/22	コエー	浅川・左岸中央線鉄橋付近竹林・昨年並みの規模	粕谷和夫
120・トビ	97.03/22	1番	川口丘陵・天合峰・営巣抱卵中→4/26巣立ち直前の雛2羽	粕谷和夫他
145・チョウゲンボウ	97.04/05	1番	八王子市横山町・甲州街道商店街のビル5階裏側の空気口→05/17/1羽巣立ち→05/19残りの2羽巣立ち→数日間、夕方巣に戻る→05/28周辺ビル上空を親鳥と飛翔、3羽無事に巣立つ	川上志
145・チョウゲンボウ	97.05/25	家族	東京薬科大学体育館付近・親1雛2(親が巣立ち雛に餌を渡す)	粕谷和夫
145・チョウゲンボウ	97.06/11	家族	浅川・山田川合流付近(親2子2)	探鳥会
296・キツバト	97.05/11	3羽	浅川・長沼橋～一番橋間、1羽に首の青筋のない個体(粕谷:多分幼鳥と思われる)	山崎悠一・久美子
326・カケシ	97.04/29	1番	谷地川・石川町の自宅付近(工事中の土手に幾つも巣穴を掘るが、資材が置かれたりして、いずれも途中放棄、詳細は別記)	神谷古牧
326・カケシ	97.05/27	家族	程久保川・河口の人工ワンド(親1子)	粕谷和夫
339・ユガウ	97.06/18	1番	八高線北八王子駅付近・八王子1中校庭の桜に巣・給餌中→06/22巣立った様子	大川征治
339・ユガウ	97.04/30	1番	小宮公園・弁天池そばの古木(巣から親鳥が顔を出す)	田中英古
339・ユガウ	97.05/25	親子	片倉城跡公園	小池一男
347・ツバメ	97.6	1番	元八王子霞ヶ丘住宅・自宅→07/06雛4羽巣立つ	川上志
349・ユツカガハメ	97.06/14	8巣	日野市高幡台団地	阿江範彦
349・ユツカガハメ	97.06末	コエー	日野市高幡台団地・先日見てきました。巣がとても良くできていて驚きました。5階から飛ぶ様を見てその大きさや雄大きさ感激しましたが、住んでいらっしゃる方は大変でしょうと思いました。	小塩菊子
349・ユツカガハメ	97.05/03	約10羽	日野市・公団高幡台団地・造巢中	粕谷和夫他
354・キツレイ	97.05/03	1番	北浅川・大沢橋～陵北大橋・餌運び	今井達郎他
354・キツレイ	97.05/11	家族	初沢川・高尾霊園(親1巣立ち雛2)	粕谷和夫他
354・キツレイ	97.05/17	1番	高尾山・ヶアノ上駅の駅舎に営巣・餌をくわえ頻繁に運ぶ	探鳥会
355・ハゲキレイ	97.05/25	1羽	湯殿川川・住吉橋付近・餌運び	小池一男
356・セグロキレイ	97.04/15	1番	多摩川・谷地川合流付近瓢箪池・羽をやや下向きに広げて求愛行動	神谷古牧
356・セグロキレイ	97.05/02	1羽	浅川・長沼橋～一番橋・餌運び	山崎悠一・久美子
356・セグロキレイ	97.05/10	親子	川口川・明治橋～大正橋・2家族	鈴木章七他
369・モズ	97.06/08	1羽	多摩川・浅川合流付近・巣材運び	柚木鑽夫
434・オノノチヨウ	97.05/08	1番	龍淵川下流・営巣	尾又英雄
435・イカ	97.05/18	古巣	川口丘陵・天合峰・今年使ったものと思われる巣を拾う	



440・マカガ	97.06/29	親子	片倉城跡公園・親1、子2	粕谷和夫他 小池一男
441・ツヅウガ	97.4	1番	元八王子霞ヶ丘住宅・自宅の巣箱→05/11・雛6羽全部巣立つ	川上志
441・ツヅウガ	97.05/25	親子	片倉城跡公園	小池一男
444・シロ	97.05/18	古巣	川口丘陵・天合峰・今年使ったと思われる巣を拾う	粕谷和夫他
493・ムカガ	97.05/03	1番	北浅川・大沢橋～陵北大橋・巣材運び	今井達郎他
493・ムカガ	97.05/12	1番	山桜(昨年アオゲラが利用した巣穴)・給餌中→05/26・4羽巣立ち	平井国二
493・ムカガ	97.05/15	1番	富士森公園・05/12の山桜から10m離れた別の山桜の樹洞・成鳥2羽の出入り→05/19給餌中→05/30親が巣立ちを促す行動→06/025羽巣立ち	平井国二
498・オカ	97.06/07	親子	浅川・長沼橋～一番橋・親2、子1	山崎悠一・久美子
503・ハシブトガラス	97.03/20	3番	北浅川・抱卵中(松枝公園南、元八市民センター付近、天使病院隣)→4/12・前2カ所で継続抱卵中	河村道寛・洋子
503・ハシブトガラス	97.03/21	1番	大横町・大横院境内(浅川・浅川橋付近)・ケヤキに営巣抱卵中	粕谷和夫
			→5/3元木橋～ゆうやけ橋の巣、5羽の雛が枝移り	今井達郎他
503・ハシブトガラス	97.03/31	1番	案内川・南浅川町ごん助裏の桐の木・営巣	川上志
503・ハシブトガラス	97.04/09	2番	北浅川・元木橋～ゆうやけ橋、ゆうやけ橋付近各1巣	
503・ハシブトガラス	97.4下旬	1番	石川町・谷地川沿いのコナカア・ハシブトガラスが近くに	
			来ると2羽で攻撃	神谷古牧
504・ハシブトガラス	97.05/03	1番	日野市潤徳小校庭・ヒマラヤスギに営巣抱卵中	粕谷和夫

## 9. 行動

088・カカモ	97.04/24	1羽	南浅川・白山橋～両界橋・ジャボンと大きな音をたてて潜り、完全に水に潜って泳ぎました。ほんの1～2秒直進でした	横山由美子
088・カカモ	97.04/27	2羽	程久保川河口付近・2羽が産卵行動中の鯉の中に入り、鯉にかみつかれそうになり飛び逃げる	粕谷和夫
488・スズメ	97.05/26	数十羽	浅川・八高線鉄橋～中央線鉄橋・ムクドリノ巣立ち雛をモビング	湯原直彦
504・ハシブトガラス	97.04/08	8羽	富士森公園・生きたドバトを襲う(朝、桜並木の道を散歩中、満開の桜の木の上で7～8羽のハシブトガラスが鳥と思われるものを奪い合っていて、突然私の前にそれが落ちてきた。よく見るとドバトで両翼と頭と胴体の一部が残ったままで嘴で突き散らし、血腥い状態だった。ドバトの死骸を観察した後落とした場所に置き、少し離れた場所で見ていると暫くして木の上にいるハシブトガラスの内、2羽が舞い降りて、その内の1羽が死骸を喰えて数羽と林の中へ飛び去った。ハシブトガラスがドバトを襲う瞬間は目撃出来なかったが、生々しい死骸の状態から猫等の他の動物に襲われたものを喰えてきたもの	

## 10. その他

カシチョウ	97.01/26	3羽	長沼公園	山崎悠一・久美子
カシチョウ	97.03/08	3羽	長沼公園 (エガ、カハラ、ヤマカハラ、シノエガと混群)	丸山二三夫
カシチョウ	97.03/14	6羽	高尾山・3号路 (サル山の裏) →4/29数羽	木村晴美他
カシチョウ	97.04/10	10羽	八王子市絹ヶ丘・自宅→04/11	山崎悠一・久美子
カシチョウ	97.06/25	1羽	長沼公園	馬場百合亜
ガビチョウ	97.01/05	声	川口丘陵大合峰	粕谷和夫他
ガビチョウ	97.01/12	声	北浅川・東大沢橋～松竹橋→3/1・声、5/6・2羽、6/7・声	今井達郎他
ガビチョウ	97.01/21	2羽	高尾山・大平林道→2/24・3羽、4/25・1羽	川上恵
ガビチョウ	97.03/14	声	高尾山・6号路→4/4声、5/9声	木村晴美他
ガビチョウ	97.03/22	数羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫他
ガビチョウ	97.03/29	3羽	北浅川・陵北大橋下流側左岸釣り堀付近	白川司・史子
ガビチョウ	97.04/08	声	小仏川・高尾山山麓	粕谷和夫
ガビチョウ	97.04/12	2羽	北浅川・陵北大橋付近→5/10・1羽、6/21・3羽	河村道寛・洋子
ガビチョウ	97.04/26	2羽	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫他
ガビチョウ	97.05/03	2羽	北浅川・大沢橋～陵北大橋	今井達郎他
ガビチョウ	97.05/04	声	八王子城跡付近	粕谷和夫他
ガビチョウ	97.05/04	声	小仏川・大下バス停付近	粕谷和夫
ガビチョウ	97.05/11	声	裏高尾・小下沢林道	公開探鳥会
ガビチョウ	97.05/17	声	高尾山・4号路釣り橋付近	探鳥会
ガビチョウ	97.05/18	声	川口丘陵・天合峰・蒲谷鶴彦氏が録音した	粕谷和夫他
ガビチョウ	97.05/28	1羽	多摩川・滝山城跡公園下→6/24・1羽	三好恒雄
ガビチョウ	97.05/31	5羽	川口南丘陵・戸吹奥	粕谷和夫他
ガビチョウ	97.06/07	声	北浅川・大沢橋～陵北大橋	今井達郎他
ガビチョウ	97.06/07	声	高尾山・4号路釣り橋付近	粕谷和夫
ガビチョウ	97.06/11	声	初沢川・高尾霊園	粕谷和夫他
ガビチョウ	97.06/14	声	川口丘陵・天合峰	粕谷和夫他
イナ	97.04/05	1頭	川口川・大正橋～高尾橋	鈴木章七他
イナ	97.06/08	1頭	多摩川・浅川合流付近	柚木鎮夫
イナ	97.01/12	1頭	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一他
ガシカシ	97.05/13	声	川口川・高尾橋付近	柚木鎮夫・育子
ガシカシ	97.05/13	声	北浅川・陵北大橋下流の木の橋付近	柚木鎮夫・育子
ガシカシ	97.04/09	声	北浅川・川原宿橋下流100m	今井達郎他
ガシカシ	97.05/03	声	北浅川・深沢橋付近	今井達郎他
コササギ	97.03/14	1頭	日野市日野自動車構内・プールの水をツバメのように飲む	神谷古牧
コササギ	97.03/30	1頭	浅川右岸長沼橋上流・京王重機、市場付近	丸山二三夫
クサビ	97.01/29	1頭	浅川・曉橋上流側右岸道路・事故死体	古山隆
クサビ	97.01/04	1頭	高尾山・蛇滝コース	粕谷和夫
クサビ	97.05/03	1頭	北浅川・東大沢橋下流100m付右岸の樹上	今井達郎



## 1. チョウはチョウでも、ちょうのお話。

最近知ったんですが、信州の松本平周辺は、知る人ぞ知る日本でも有数の蝶の生息地なんだそうです。こちらに来て一年目の夏、やたら蝶が目につきました。二年目の夏に良く観察するとそれぞれ種類が違う事に気がつきました。蝶に対する興味が芽生えた年だったのかも知れません。否、それ以前に伏し線と言うべき事柄がありました。

95年夏、故田淵行男追悼登山で常念岳に登山したおり、羽の縁が薄いピンクの可愛い高山蝶に出会い、それがミヤマモンキチョウと教えられました。田淵行男は御存じの方も多いたと思いますが、山岳写真（特に雪形）と蝶の研究で知られた人で、「一山百楽」と言って何百回も常念岳に登ったそうです。私は、蝶よりもただ常念岳に登りたい一心で参加しただけだったのですが、石の上でジっとしていたその可憐なミヤマモンキチョウを見て心を動かされてしまったようです。

そして同年秋、あの白樺峠でのワシタカの渡り調査に参加した時に見た蝶も忘れられません。サシバ、ハチクマなどの渡りと一緒に峠を越えるアサギマダラの姿。さっそうと渡るワシタカに比べ、ふわふわと何と頼りないことか。会報カワセミNo.16号で、針ノ木峠でのアサギマダラの渡りを粕谷会長が目撃した話が掲載されていましたが、まったく同感で、私も感動した一人でありました。

翌96年の夏、私の家の周辺で飛び回っていた蝶を調べたところ、アサギマダラホシミスジ、コムミスジ、フタスジチョウ、イチモンジチョウ、アゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハ、エルタテハ、ジャノメチョウ、クジャクチョウ、ベニシジミなどでありました。いずれも比較的大きめの識別のしやすい蝶ばかりです。他に小さい蝶も飛んで来ましたが識別までは至りませんでした。捕獲網で捕まえれば容易い事なのかも知れませんが、今のところ私は自由な蝶の観察が好きです。近ければその場で、遠ければ双眼鏡で観察できれば良いと思っています。何だったのか分からない時もありますが、そのうち識別のチャンスがやってくると考えています。

平成八年八月八日に、888記念として爺ガ岳に日帰り登山をしました。その下山の途中、私の左手に止まってじっと動かず逃げもせず、しばらく同行した蝶がおりました。特徴を覚えておいて、のちに図鑑で調べたら高山蝶のベニヒカゲと解りました。そういう事もありますので気楽に観察しようと考えています。

## 2. 幻想の中で。

此所は白馬の森の中。一步入れば、鬱蒼とした樹木。原始の森は霧を抱き、まるで絵本の世界。眼の前のアカショウビンは、幻想のごとく妖しく紅い。

## 庭に来る野鳥

今井達郎

我が家では餌台にクルミを置き、柿の木に牛脂の入った箆を下げ、篠竹の先にミカンをつけた給餌竿（栗原式の模倣）を設けています。

ここを訪れる野鳥の常連はメジロ、シジュウカラ、スズメにヒヨドリです。

餌との関係を見ると、ミカンにはメジロとヒヨドリが、クルミにはシジュウカラ、メジロ、スズメが、牛脂には4種のすべてが来ます。

それぞれの強弱を見ると、メジロ<シジュウカラ<スズメ<ヒヨドリの順位の様です。

牛脂の箆では、メジロは2羽一緒に仲良く、シジュウカラは1羽ずつ交代で食べています。

最近シロハラとルリビタキの♀が姿を見せました。（H9. 1. 27）



### 解りますか？ 都道府県の鳥

1963年に制定された「鳥類保護及び狩猟に関する法律」により、各都道府県の鳥が定められています。

以下の鳥は、どこの都道府県の鳥でしょう。

- (1) ト キ      (2) ユリカモメ      (3) コウノトリ  
(4) キビタキ      (5) オオルリ      (6) ホオジロ

(ヒント) 栃木・千葉・東京・新潟・福島・兵庫

答えはP67

## 九州探鳥会の記録

阿江範彦

日時：平成9年2月8日から11日

行動：羽田発7時50分発の飛行機で福岡まで行き、初日は福岡今津周辺で探鳥、宿泊。二日目は和白で地元の探鳥会に合流。午後はJR鹿児島本線で八代まで行き、球磨川河口で探鳥。八代に戻りその日のうちにJR出水からレンタカーで鶴の飛来地近くの民宿「鶴見亭」泊。三、四日は周辺で探鳥。

鹿児島空港でレンタカーを戻し17時50分発の飛行機で帰京。

成果：4日間で見た野鳥の種類は96種。この中には、今年の1月に始めて日本に来たというマキバタヒバリや現在日本に1羽しか確認されていないシベリヤワシ、オオズクロカモメ、ソデクロズルにも会えました。

また、3000羽のアトリの大群や8000羽のツルは壮観でした。

### 確認種と場所

- ①今津・和白・球磨川・高江・出水で確認（9種）  
オオジュリン カワラヒワ ジョウビタキ タヒバリ ツグミ  
ハクセキレイ ヒバリ ヒヨドリ ホオアカ
- ②今津・和白・球磨川・出水で確認（5種）  
アオサギ カワウ スズメ セッカ ミサゴ
- ③今津・和白・高江・出水で確認（8種）  
アオジ キジバト コサギ ハシブトガラス ハシボソガラス  
ホオジロ ムクドリ モズ
- ④今津・高江・出水で確認（5種）  
チュウヒ ツリスガラ トビ ハヤブサ ミヤマガラス
- ⑤今津・和白・出水で確認（7種）  
ウグイス カイツブリ カルガモ コガモ タシギ ヒドリガモ  
マガモ
- ⑥今津・和白・球磨川で確認（3種）  
カンムリカイツブリ セグロカモメ ユリカモメ
- ⑦球磨川・高江で確認（1種）  
アトリ
- ⑧高江・出水で確認（2種）      ⑨今津・和白で確認（3種）  
カワセミ チョウゲンボウ      ウミアイサ オナガガモ ホオジロガモ



鹿児島の旅は初めてである。と言うより九州の土を踏んだのは、この探鳥が初めてであった。若い頃、私は旅が好きで方々へ出かけたものだったが、何故か九州には縁がなかった。国東半島への旅の計画をした事を覚えているが出かけていないので中止したのであろう。その理由も、もう忘れてしまった。「八王子カワセミ会」の九州探鳥旅行の計画があったから、九州の土が踏めたわけである。非常に楽しい探鳥旅行であった。三日三晩も酒を飲んだのは生まれて始めてであったし、長い間、憧れの鳥たちにも出会えた。その記述は他の会員の方にお任せするとして、皆さんとお別れした後、鹿児島に向かったのでその話を一部ご紹介する事にしよう。

西鹿児島から日豊本線に乗り、右手に桜島を眺めつつ六つ目の錦江（きんこうと読む）駅に向かう。時間にして三十分ぐらいであろうか。西鹿児島から見る桜島は峰が幾つも見えて山脈のごとくであるが、この辺りに来るとほぼ円錐形になってくる。この日も噴煙を上げていた。桜島は、時たま灰を撒き散らす迷惑な山のイメージが強いが、この地方の人達にとっては故郷の山なんだろうなと思う。途中の竜ヶ水で何年か前、土砂崩れで孤立し、大騒ぎになった事を思い出した。

錦江駅の西に別府川、東に網掛川が流れていて、この両河川に挟まれた突端が加治木町須崎である。大規模污水处理施設など、開発の話の多い地域と文献に記されていたが、湾岸道路に囲まれて広いアシ原が現存していた。トラックが出入りし、工事をしていたので、いずれ消えてしまうのかも知れない。ちなみに鹿児島空港は、ここから北東へ10キロの所にある。

私が、錦江駅に着いたのは午後三時半過ぎであった。とりあえず別府川に向かって国道を歩く。この日は風が強かった。午前中に探鳥した万の瀬川河口では風速15メートルの表示があった。信州の寒さは深々とするが、風の寒さもまた身に凍みる。防波堤で風を除けながらの鳥見であった。

別府川は、干潮で水の流れも細く、湾の先まで干潟となっていた。カモたちが羽を休め、サギたちが佇んでいる。見慣れた風景だが、違うのはツクシガモが居る事だ。アシ原に目を移すと、ホオジロやツグミ、ジョウビタキ、アオジ、バン近くの溜め池では、タシギ、オオダイサギ、コサギ、コガモ、カルガモ、ハクセキレイ、上空では、トビ、堤防をすれすれに飛び回っているのは、ツバメ、湾上では、セグロカモメ、オオミズナギドリ、そして、カツオドリがいた。



ツバメは最初、自分の目を疑った。鹿児島が、いくら暖かいと云っても二月の半ば、渡って来るには、まだ早い。素早い動きのツバメを双眼鏡で何度も何度も追いかけた。何回見てもやっぱりツバメである。思案していると、そんな姿を見ていたのであろう、通りがかった小父さんが話しかけてきて、答はすぐ出た。

「何、見てるんだい」

「これ、ツバメですよネ」

「あん、あれかい、ありゃツバメだ」

「もう、渡っているんですか？。随分、早いですね」

「いいや、この辺じゃ、冬でもツバメは、いる」

「……」

そういえばそんなことが書いてあったっけ、すっかり忘れていた。ツバメには違いなかったが、越冬ツバメであった。「越冬つばめ」は森昌子などとはつまらない連想をしたが、やっぱり鹿児島は暖かい。

カツオドリは、豪快であった。白黒のコントラストを翻し、海に突っ込む。何度も何度も立ち向かうその姿は、まるで海と闘っているようだ。鋭角の頑丈そうなくちばしと大きな目が印象的であった。しばらくの間、眺めていたが、この時ばかりは、風の強さも、寒さも、時も忘れて見とれてしまった。気づいてみればもう日も傾いて、夕暮れに染まる桜島が目の前にあった。立ち去り難い思いを残しつつ、帰途に向かった。

期待したサンカノゴイやツリスガラには出会えず、コミミズク、トラフズクも探せなかったが、カツオドリの豪快なダイビングを見た。もうそれだけで十分な須崎での探鳥であった。(1997年 2月記)



富士鷹なすび著「役に立たない図鑑」より

## 軽井沢探鳥会

(青木繁昌)

3/22-3/23の軽井沢探鳥会は、宿泊組と日帰り組の2本立てで行われた。

宿泊組は中軽井沢駅で駒ヶ根の平沢さんと合流10名の探鳥会をスタートする。

星野温泉入り口でアカゲラを確認さい先のよさを感じる。「軽井沢野鳥の森」中西悟堂像前で記念撮影后、クリの森、カラマツの森を特徴あるゴジュウカラのさえずりを聞きながら、又、カラ類を見ながら観察小屋にゆく。ここではイカルの群、アトリの雄の鮮やかな色に感嘆する。ホタルブクロ広場、アズマ屋を経てミソサザエの沢ではミソサザエの美声を堪能、姿を目視でバッチリ確認する。4時頃宿に着き門口リーダーと平沢さん、柚木夫人は明日の朝探場所であるオオモズ・ハイロチュウヒ情報地の調査にゆく。

夕食後は平沢さん寄贈の吟醸酒を飲みながら福島さんを中心とした戦後歴史のお勉強会？があった。私としては野鳥談議を期待していたのだが、しかし楽しい一夜でした。

3/23 6時出発目的地(下発地)に3回のピストン輸送をする、2便で到着すると既にノスリがスコープに入っていた。早朝のため肌刺す風で手先の冷たさにふるえていたとき、柚木夫人のフクロウ発見の声500mから40m位に移動しながら長い時間観察できた。朝食の時間が迫ったため1便に田中さん、丸山さん、青木が乗車し宿に向かう。その直後にオオモズが出現する。朝食後平沢さんの好意で3名は再度朝探地にいったが、再びオオモズを発見することは出来なかった。10時半頃軽井沢野鳥の森で先発6人に合流、入口の川床に餌を採っているカヤクグリを長い時間スコープで鮮明に確認する。目・クチバシの可愛さが印象的であった。今日の目的は昨日得たオオマシコ情報によってアズマ屋-鶴留間に行く、現場には既にカメラマンが先着していた、オオマシコは15分間隔で2回確認できた。特に2回目には成長雄1・雄若鳥1・雌4計6羽、同時にアトリ・ヤマガラ・ゴジュウカラ・ヒガラをスコープ内に鮮明に捉えたときはゾクゾクした。

昼食時日帰り組と野鳥の森入口で合流する。このとき大関さんより甘酒がふるまわれ、季節に合った飲み物おいしゅうございました。昼食後、宿泊組、日帰り組の情報をもとにオオマシコ・ハギマシコの群を求めてそれぞれの目的地に向かう、結果は宿泊組が空振りでした。

2時40分頃再度野鳥の森入口に合流、今朝オオモズを見た下発地に行くが、既に陽光はなく森は霞がかかり気温も今朝より低そう、更に雪も降ってきた中42の

目で懸命に探したが遂にオオモズに逢えず残念でした。

中軽井沢駅上りホームで列車の到着を待っているとき、下りホーム左後方のやどりにヒレンジャクが10羽飛来し、全員が確認することができた。予想外のことでよい気分での帰途についた。

確認した野鳥 (太字: ベスト5)

フクロウ・オオモズ・カヤクグリ・オオマシコ・ヒレンジャク・カワラヒワ・トビ・アカゲラ・カシラダカ・ホオジロ・シジュウカラ・コガラ・ヒガラ・ゴジュウカラ・ヤマガラ・エナガ・アトリ・イカル・コゲラ・ミソサザエ・カワガラス・ウグイス・キセキレイ・セグロセキレイ・ムクドリ・キジバト・ヒヨドリ・ツグミ・カケス・シメ・ハシボソカラス・ハシブトカラス・カルガモ・ノスリ・オナガ・キジ・モズ・ヒバリ・ウソ・スズメ 計 40種

参加者

門口夫妻、柚木夫妻・田中・平沢・福島・丸山・小沢・青木  
日帰り組 13名



## 戸隠探鳥会に参加して

白川 史子

5月24日総勢22名の中に初心者の方も参加させて頂き、豪華な中型貸し切りバスで、予定どおり早朝6時過ぎに出発しました。

運転手さんのガイドを聴き、クイズを楽しみ、会話もはずみ、正午前に目的地の戸隠森林植物園に到着しました。

ゴジュウカラをはじめカラ類の飛び交うなか、コサメビタキの可愛い目が印象に残っています。サンショウクイも姿を見せてくれました。

クロツグミの黄色いくちばし、白いお腹に黒い斑点もはっきり見え、鋭い声で鳴いていました。キビタキも、至近距離で観ることができ。フィールドスコープで見せて頂いた色の美しさは、自然界の不思議さを感じました。雨の中にもかかわらず32種の野鳥に出会え、明日晴れることを祈りました。

夕食は、ロッジの方の心づくしのご馳走。採りたての山菜の天ぷらを頂きビールの美味しさは格別でした。

翌朝6時、雨も上がり、ロッジの裏庭ではオオジシギ2羽が、すでに旋回をしていました。その鳴き声と大きな尾音は、展示飛行を見ているような迫力があり、圧倒されました。

朝食後、再び森林公園へ向かいました。大勢の探鳥グループや見学の人達で道を譲ったり、譲られたりして「間違っって他のグループについていけないように…」との注意がある程でした。

太陽に映えてニリンソウの白、ラショウモンカズラの紫、リュウキンカの黄が一段と輝き、超珍草のサンリンソウも教わりました。水芭蕉やカタクリはすでに終わっていましたが、これから迎える花の季節の前奏のようでした。

カッコウの声を聞き、ホトトギスをフィールドスコープに入れて頂き、キバシリをじっくり観察しながら進みました。コムクドリのみ♀、アカハラの中から腹の橙赤色、今まで見たことのないアカゲラの鮮やかな朱色の頭と下腹部、コルリの一生懸命なさえずり等々、43種もの鳥達の歓迎を受けました。最後に、木漏れ陽の中で見たオオルリの美しさは、フィナーレを飾るに充分でした。

ロッジでの昼食は、咽ごしも爽やかにお腹にしみわたる良く冷えたビールを飲み、楽しみの一つにしていた美味しい戸隠そばに舌鼓を打ちました。

午後2時、ロッジのご夫妻の見送りを受け帰路につきました。途中、ラジオで曙の優勝を聞き、車内はどよめきました。

何時も感じていることですが、小鳥の地鳴きと囀り、冬羽と夏羽、♂と♀の違い等識別するためのノウハウは、奥が深いことです。知らないこと判らないことばかりで、鳥音痴ではないかと不安になりますが、少しずつ覚えて楽しみを増やしたいと思っています。

役員や幹事の皆様方をはじめ、いつもご指導下さりフィールドスコープを覗かせて下さる方々、安全運転の運転手さん、ほんとうにありがとうございました。心からお礼申し上げます。



#### 解りますか？ 都道府県の鳥

トキ（新潟） コリカモメ（東京） コウノトリ（兵庫）  
キビタキ（福島） オオルリ（栃木） ホオジロ（千葉）でした。

また、上記以外の都道府県の鳥は以下のとおりです。

タンチョウ（北海道） ハクチョウ（青森） キジ（岩手） ガン（宮城）  
ヤマドリ（秋田・群馬） オシドリ（山形） ヒバリ（茨城・熊本）  
シラコバト（埼玉） カモメ（神奈川） ライチョウ（富山・長野・岐阜）  
イヌワシ（石川） ツグミ（福井） ウグイス（山梨・福岡）  
サンコウチョウ（静岡） コノハズク（愛知） シロチドリ（三重）  
カイツブリ（滋賀） オオミズナギドリ（京都） モズ（大阪）  
コマドリ（奈良・愛媛） メジロ（和歌山・大分）  
オシドリ（鳥取・長崎） オオハクチョウ（島根）  
ホトトギス（岡山・香川） アビ（広島） ナベズル（山口）  
シラサギ（徳島） ヤイロチョウ（高知） カササギ（佐賀）  
コシジロヤマドリ（宮崎） ルリカケス（鹿児島） ノグチゲラ（沖縄）

(阿江範彦)

## 戸隠探鳥会に参加して

倉本 修

平成9年5月24日(土)午後2時過ぎ。場所は、戸隠森林植物園の中。奥社参道の随神門から天命稻荷の方へ続く湿地の上の細い栈道。雨は小降りになっていたが全員雨具の上下に身を包んで、黙々と歩いていく。雨滴は、双眼鏡や望遠鏡を容赦なくずぶ濡れにしてゆく。周囲はうっそうと茂る樅や白樺などの樹林にとりかこまれて薄暗く視界も悪い。

そこに突然「サンショウクイ」が現れたのである。距離は15m前後。横枝にとまっていて、殆ど目の前で枝移りをしながら、しっかり見てくれと言わんばかりに動いてくれた。

一行は棒立ちになり感嘆の声を洩らしながらくい入るように見続けた。もう、雨も風もびしょ濡れの双眼鏡も関係ない。バードウォッチャーの恍惚の間である。

2~3分も続いたろうか、やがてこの日一番の役者は独得の鳴き声を残して飛び去った。

ところが何ということ、…私はその場面に居なかったのである。私が目にしたのは嘲笑うかのように飛び去る一瞬の後ろ姿と鳴き声だけ。そして興奮さめやまぬ一行のいきいきした顔の表情と一人だけ乗り遅れた口惜しそうな自分の表情。

では、その時、私は何をしていたのか…歌っている「クロジ」にひたすら見惚れていたのである。あの「クロジ」は目の前7~8m位の所にいた。葉をまだつけていない3m位の木の横枝にとまり、全身を見せて歌っていた。生まれて初めての「クロジ」との出会いだった。今、思い出してもあの数分間だけは、雨も降り止み光りさえ差し込んでいたかのように「クロジ」の姿が鮮明に浮かび上がってくる。

初めて行く戸隠…日本有数の探鳥地…期待に胸ふくらむ日が近づくにつれて、週間天気予報は最悪の状態に変化していった。森林植物園入口に午前11時頃着いた時には、本降りになっていた。

私は、途中バスの中で現地に到着して雨降りだったら、探鳥中止になるのだろうかと内心やきもきしていた。ところが三好幹事は「今日はいいにくの天気になってしまった。」と簡単に言っただけで、バスの中で昼食を終えると全員

当然のような顔をして雨具を着込み、双眼鏡や望遠鏡に各自工夫をこらしたカバーをかぶせて平気な顔をして歩き出した。なる程、これが当たり前なのだ。私は妙な所で感心した。

「アオジ」が歌っている。低い木の梢で全身を晒して。その姿を目にした時の新鮮な驚き。少しきしむ様な声を混じえながらゆったりと澄んだ声を響かせている。生気がみなぎっている。初めて聞く「アオジ」の歌だ。

冬、浅川大橋下流にいつもいた「アオジ」のみは人の気配を嫌い短い地鳴きをしながら、すぐ草かげに身を隠すようにしていた。あの「アオジ」は今何処に居るのだろう。きっと、自分の巣立った山か高原の林に帰り、張りのある声で歌っているのだろう。戸隠の「アオジ」のように。

でも、今年の冬、浅川大橋の下で「アオジ」に会っても私は、話し掛けることが出来る「夏の間、お前が何をしていたのか、俺は知ってるよ」と。

越水ロッジは、いかにも鳥好きの人達が集まる所といった雰囲気のある宿だった。「カワセミ会」が来るとアルコール類の売り上げがいきにご増えるそうだけれど、私は去年の11月終わりの入会以来、初めて会員の方々と一緒になって飲み、食べ、お喋りしをした。同じ趣味を持った人達の集まりがこれ程、心やすまる楽しいものだとは、ついぞ知らなかった。入会して良かったとつくづく思った。

夜の3時頃ふと目を覚ますと、雨の音に混じって「ホトトギス」が鳴いていた。森の暗闇の中で雨に打たれながら何度も何度も繰り返し鳴く「ホトトギス」闇の世界に向かってまるで何かを訴えかけるかのように一途に鳴くその単調な声を聞いているとどういふ訳か、阪神大震災の暗い追憶がよみがえって来た。私は、息をとめ身じろぎもせず聞き入った。

翌朝は曇ってはいたが所々で雲の切れ間も見えはじめていた。私は、5時頃双眼鏡だけを持って、ロッジを出た。早朝探鳥の始まる6時までの約1時間、一人で付近を歩くつもりだった。裏手の草むらを横切り、キャンプ場へ近づくとCDで何度も聞いたことのある「コルリ」のさえずりが遠くから聞こえて来た。「コルリ」はこの戸隠で出会いたいと密かに願っていた鳥のひとつだったので声のする方向にどんどん引き寄せられていった。

声量からしてこの林に茂みに居るといふ所まで行き着き探しにかかったがどうしても見つけることが出来なかった。やがて集合時間のことが気になりだし断念してキャンプ場の広場の所まで帰ってくると「オオジシギ」が居たのであ

る。距離は15m前後。昨日からの雨でぐっしょり濡れている草むらを右に左にと動きながら採餌の真っ最中だった。あまりに近いので双眼鏡を覗いたまま身動き一つ出来なかった。やがて何処かの探鳥会の人達が、後方5~6m位の所を通りかかった。棒のように突っ立っている私に気づきその見ている目標を確認したのだろう。

「アッ、オオジシギだ」と誰かが言い、ぴたっと動きが止まりシーンと静かになった。私の5月25日はこの様にしてはじまった。

朝食の後、9時20分頃ロッジの前に集合した時には薄日も差すすがすがしい朝になっていた。

森に入るとすぐ「キバシリ」が現れ樹の幹をグルグル回りながら登っていった。朝の光の中で双眼鏡でもくっきりと全身が見え鮮やかな印象を残してくれた。

11時半頃、鏡池でしばらく休憩した後、いよいよロッジに帰るため舗装された林道を歩きはじめた。道の右側は丘陵になり左側が鏡池へつながる沢への下り斜面になっていた。縦のような針葉樹の茂る林だったと思う。「コルリ」の遠いさえずりが聞こえて来たのはその左手の林だった。一行の歩く速度は急にピッチがあがった。顔を左に向けたまま神経を耳に集中し音量の高まりを計りながら足を早めた。私は朝見つけることが出来なかっただけに今度こそは出会いたいと緊張した。音量が一段と大きくなり、もうまじかに居ることがはっきり判る地点で全員足を留め探しはじめた。しーんとした中で誰かが「アッ いたっ」と声をあげた。少しざわめきがありまわりで感嘆の声が漏れ出した頃、私も双眼鏡の中に「コルリ」の全身を捕らえていた。距離は20m弱。横枝に水平に近い姿勢でとまり小さい体全部を震わせるようにして歌っていた。力が満ちあふれていた。遂に出会うことができた。しばらくは、唯見惚れていた。双眼鏡から目を離したらその瞬間、消えてしまうのではないかという不安から動けなかった。上面のルリ色と下面の白。スリムな姿勢、何という美しさだろう。陶醉の瞬間が過ぎて行く。

フィールドスコープの焦点を合わせ拡大された姿を見て驚いた。一本足で立っているのだ。横から見ているので、初めは足が重なって見えているのかと思ったがそうではなかった。

片足を羽毛の中に折りたたみ、一本足で身を震わせて歌っていた。すっかり警戒心を解き自分の歌に酔っているようであった。

嘴を少し開いて3声程前奏を入れ、そこから勢いをつけて声を張り上げる。そ



の瞬間尾羽の先までがピクッと喉と胸が膨らみ全身を力むように震わす。全長 14cm、翼開長 22cm、体重 15 g (500 円硬貨 2 枚分) の小さい体から精気みなぎるエネルギーが迸り出る。それは、私の鼓膜を通して脳の聴覚の回路に入り、感情を一気に昂揚させる。「コルリ」と私は、湧き起こる気持ちの昂ぶりの中で結ばれる。もし、私に「コルリ」と同じ鳴管筋肉があれば一緒になって歌い返したい。

周りを見ても誰一人不機嫌な顔をして横を向いている者など居ない。皆な、目はいきいきと輝き声も高ぶり、心から楽しそうだ。

私は、この瞬間こそがバードウォッチングの原点だと思った。

帰りのバスの中でうつらうつらしながら考えた。初日の雨、翌日の好日和。もしかしたらこれも三好幹事が、気象庁と手を組んで仕組んだ絶妙の日程だったのかと…そして眠り込んだ。

得がたい2日間を共に過ごさせて頂いた皆さん、有り難うございました。

2日間で出会った野鳥達 (鳴き声も含めて)

コガラ ヒガラ エナガ ヤマガラ シジュウカラ  
ゴジュウカラ キビタキ コサメビタキ アオジ クロジ  
カケス カイツブリ アオサギ カルガモ キジバト  
アオゲラ アカゲラ コゲラ サンショウクイ  
コルリ クロツグミ アカハラ ウグイス カワラヒワ  
ニューナイスズメ キセキレイ メジロ ハシブトガラス  
アマツバメ ヤブサメ モズ カッコウ ホトトギス  
オオジシギ コムクドリ キジ イカル ハシボスガラス  
センダイムシクイ ノスリ キバシリ ハイタカ ヒヨドリ  
オオルリ ミソザザイ ツツドリ マミジロ エドビタキ  
計48種

## 浅川の空き缶拾い&探鳥

門ロー雄

4月13日の「花見&空き缶拾い」と6月1日の環境週間イベント「探鳥&空き缶拾い」には会員の方が大勢参加し、たくさんのゴミを収集しました。

いつもの探鳥用具の他にゴミ袋、ゴミ用ハサミ、軍手と両手一杯のいでたちで、浅川の堤防や河原の空き缶等の不燃ゴミを拾いました。

これに際し、多摩川センターからゴミ袋、軍手、濡れティッシュをいただき、また、集めた空き缶などの処分は、八王子市戸吹清掃事務所、八王子市環境保全課に回収していただきました。ありがとうございました。

今後も八王子カワセミ会は、浅川の野鳥が安心して住める環境を作るために努力していきたいと思います。

### ゴミ収集状況等

4月13日 松枝橋～小田野公園 参加者 32名 集めた袋 43袋

6月1日 暁橋→北野清掃工場←滝合橋 1144名 52袋

合計 2回3コース 76名 95袋

参加された会員の皆様ご苦労さまでした。

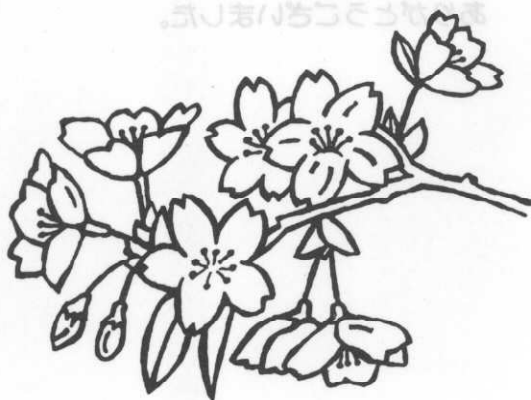




4月13日の空き缶拾い探鳥会のあと、小田野公園のヤマザクラの土壤改良を行いました。

このヤマザクラは、平成6年4月17日に当会結成10周年を記念して植樹したものです。

土壤改良の方法は、化学肥料の使用はさけ、腐葉土を根の周辺に埋め戻す方法としました。途中腐葉土が足りなくなり購入に行く場面もありました。（追記：阿江）



## 「野鳥の声入門」に出席して

夏目 満子

蒲谷先生のお話は淡々とした語り口であったが、中身の濃い、私にとっては非常に強烈なメッセージを与えてくれるものでした。

鳥を見たり、美しい声を聞きながら野外を歩くことが楽しいといったレベルで探鳥会に参加していた私にとっては、小鳥の発声器官についての知識や、小鳥たちそれぞれの鳴き方の特徴などのお話は、とても興味深く楽しいものでした。

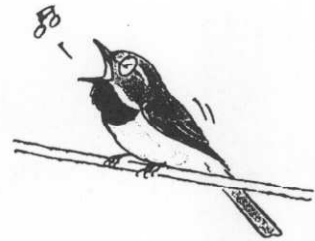
しかし、一番心打たれたのは、先生の鳥に対する態度でした。鳥たちと同じ目線、と言うより鳥たちと同じ世界に入って、観察を50年間も続けられたこと。鳥に対する深い愛情と辛抱強さ。しかも、鋭い観察に裏付けされてこそ聞けるお話。ミソサザイの子守唄や、シジュウカラのカップルの「おやすみなさい」など、優しい豊かな詩情あふれるお話でした。

今日の社会では、人間が自然界をコントロール出来るかの如き放漫な暴言や愚劣な開発がまかり通っています。人間は、地球と云う一つ大きな生態系の一部でしかないということ。鳥も人間も同じ生き物であることを先生のお話を聞きながらつくづく感じました。又、私たちには、貴重な生態系を守って行く義務があることも新たに感じたことでした。

今日のお話の中で、一つとても嬉しかったことがあります。それは、鳥の中にも音痴がいてカラオケに行っても歌えない鳥がいるということです。私も歌が下手でカラオケに連れて行かれると、いつも困惑しております。歌えないキツツキの仲間たちがとても身近で親しいものを感じられるようになりました。

最後に、蒲谷先生とこの企画の準備をされた会員の方々。

ありがとうございました。



## 「野鳥の声入門」

講師 蒲谷鶴彦 先生

ガビチョウの声の収録のため、八王子にいらっしゃった蒲谷先生の講演会が6月13日台町市民センターで行われました。急な企画にもかかわらず69名の参加があり、楽しいひとときを過ごすことができました。

残念ながら参加できなかった方のために内容を報告します。

(一部省略、小見出しは事務局) 事務局 門口

### — 録音を始めた頃 —

私は、鳥の姿を見るのも、もちろん好きです、でも姿を見るよりも声を聴くのがもっと好きでした。

昭和11年、野鳥の会の機関誌「野鳥」に、アメリカのカーネル大学が鳥の生態映画と鳥の声の録音をするために大型自動車を2台スタジオに改造して、それで何か月もかけてアメリカ大陸の鳥の生態映画と録音をしたと言う紹介記事が出ていた。それを見ますと大きな集音機を構えて鳥の声を録音している様子が出ていて、こういうふうには鳥の声を録音するのかと思いました。録音してあれば、何時でも好きな時好きな鳥の声を聴ける。もちろん戦争前ですからいつでも録音しておくことは出来ませんでした。その頃はフィルムに音を入れるという映画のトーキーと同じ方法で録音していました。戦争が始まり録音どころではなくなりました。

昭和26年アメリカでテープレコーダーという録音機が出来たことを知り何とかして録音が出来ないかと考えました。当時はワイヤー式という録音機で日本にも輸入されました。小さい録音機でしたが針金が絡まって動かなくなる事があった。円盤に音を刻むアセテート盤に針で溝を作ってLPのレコードのようなもので、玉音盤と同じ方式で、片面3分間録音出来ました。メジロを録音してみたが、メジロが3分間鳴かなくて録音できませんでした。大きく重い録音機でした。

そのうち、テープレコーダが出来て30分位録音できるようになった。録音して消して、また録音出来るという当時では素晴らしいものでした。

アンプを組立て録音機を作った。メカニズムは16mmの映画会社にたのん

で作ったが、30kg近い重さの録音機で自分の体重に近いものだった。大きな機械を奥多摩の御岳山に担ぎ上げ、軽井沢の別荘地でリヤカーに積んで山道を歩いた。100Vの電源が必要でコードを延ばして録音する原始的な録音方法であった。日本でも携帯用の録音機をソニーの前身の東京通信工業がつくった。昭和29年には100Vの電源コードから解放されて、海岸でも船のうえからも、島でも録音できた。

昭和28年ラジオの文化放送で「鳥の声」を放送したいという話があり、今までの録音した中から20くらいのもを持って文化放送に行った。技術局長、教養部長の前で素人がとったものが使えるかテストを受けた。入社試験を受けているような感じでカッコー、ホトトギス、キビタキ、オオルリの説明しながらテープをかけた。幸いに合格し昭和28年5月から「朝の小鳥」という番組を担当するようになった。紹介いただいたように、今まで1万3千何百回続いている。日曜日の朝5時10分から5分間という短い番組ですが、今だに続いている。

#### — 野鳥の囀りについて —

鳥の声ですが皆さんよくご存じのように繁殖期の頃から鳥は囀り始めます。繁殖期でないときには地鳴きという合図の声を発してあります。地鳴きというのは、鳥の合図の声で一年中だしてあります。ウグイスですと冬の間チャッチャという、舌打ちのような地鳴きをしています。3月頃山の繁殖地に帰る頃ホーホケチョという囀りを始めます。だいたい鳥はオスの方が繁殖地に先に帰って来まして、繁殖に都合の良い場所を、ここは俺の領地だと言うことで囀りを始めます。方々にオスがやってきて囀るとテリトリが出来ます。テリトリを守る場合にもオスが防衛できる範囲は決まっています。オスがかけずり回って守ると言うことは一羽のオスでは大変難しいことですので、囀ると、隣のオスに聞こえるので、相手との間に境界線ができる。遅れてやってきたメスは、繁殖では重要な役目を持っているから、巣を作るのに都合の良い場所、水を飲むのに便利なところ、人間ならばガス、水道、交通等マイホームを作るのに都合の良いところに、テリトリを持つオスとペアを作る。繁殖に都合の悪いところにテリトリを持つオスのところにはメスがやってこない。そうするとそのオスは、この年には繁殖できないことになる。

囀りというのは人間に美しい声を聞かせるために囀るのではなく、彼等の生活にとって大変重要な武器にも匹敵するような役目をしているのが囀りで

ございます。オスは一生懸命メスの気に入るような美しい囀り、それで、一つの歌を持っているオスより、替え歌をたくさん持っているレパートリーが多いオスのほうがメスの気に入る、という観察記録もあります。オスは一生懸命自分の囀りを個性的な、そして音楽的なものにする努力を絶えず続けているようでございます。そういう苦心が籠っている囀り、私たちが聞いてもきれいだと思うのは彼等の苦心が歌に現れているのではないかと思います。

### — 鳥の発声器官 —

私たちの発声器官は喉のところにある声帯で声を出している。鳥の場合は気管支のところに鳴管という鳴く器官がございませう。これは軟骨の輪が幾つもくっついていて、それに弁があり、その中に膜が張ってある。膜を振動させて音を出す仕組みになっている。鳥の声は吸っても吐いても声が出せるわけです。呼吸で鳴けると言う事は私たちにはまねができない。人間は吐く息で声を出しているのだから、息をつかなければ声が出せない。鳥は呼吸で鳴くのでヒバリのように絶え間なく鳴き続けることができるのです。

器官を共鳴管としまして、体に似合わず大きな声を出せる。ツルなどはもともと首の長い鳥ですが、この器官が胸骨の所まで回って、楽器のトランペットのような構造になっているので大きな声が出せる。「ツルの一声」といいますが、一声だけ鳴くのではなく、大きな良く響く声を出せる。その声を聞くと他の鳥が威厳に満ちた声だと感心するというか、恐れ入るといえるのか。そういうことが「ツルの一声」といわれる原因だと思ひます。大変大きな声を出せる。

鳥の発生器官でもう一つ重要なのは、気のうという空気を溜める袋が5対あります。それが肺に入っていくして、肺の空気ポンプのような役目をして、普段の状態よりも必要なときは沢山の空気を取り入れて、酸素を能率良く吸収できる機能になっています。ヒマラヤのように8千Mの上空の大変空気の薄い、酸素も少ないところでも、アネハツルなどテレビで見られるように飛んで行ける。飛ぶということは大変エネルギーのいることですが、鳥は酸素ポンベを使わなくとも飛んで行ける。そういうのが、気のうの役目となっている。気のうの空気を、必要ならば鳴き声にも使える、予備の空気タンクを持っている、そういう発声器官を鳥は持っている。そういうことを考えますと、あらゆる生物の中でも鳥は最も優れた発声器官の持つ主だと思ひます。

— 鳥の生のテープを聞きながら —

5月中旬から7月にかけて高原が鳥の声で大変賑やかになってきます。

(カッコー、ウグイス、ムクドリ、キツツキのテープ)

ウグイスの谷渡りです。谷渡りと言っても、谷を渡っているときの声ではなく、ケチョケチョ…と長く続く声が谷を渡っているような感じから谷渡りと言います。警戒音を発しているのです。ウグイスの巣にホトトギス等が近づくときと良く谷渡りの声を発します。地鳴はササ鳴きとも言われる。笹藪の中で良く鳴くことからササ鳴きと言われている。

ムクドリも時々囀ることがあります。短い期間しか鳴かないのであまり聞かれない。

ほとんどの鳥は、特に野や山の小鳥は美しい声で囀るが、全部の野鳥が美しい声で囀るわけではない。中にはオンチな鳥もいてとてもカラオケなど出来ない鳥もいる。その一つがキツツキの仲間アカゲラ、アオゲラ、オオアカゲラ、コゲラは繁殖期になっても美しい声で囀らない。キツツキという名前のように木を突っ突くのはお手の物ですから、繁殖期になりますと木の幹をくちばしで連続的にたたいて、機関銃のようなドドド…と言う音を出す。これをドラミング、ドラゴンのような音ということからドラミングと呼んでいます。アカゲラのドラミングです。2秒間に30回位木を突っ突いています。春先になると良く響きます。(後でドラミングの声紋をご覧ください)

鳥は歌うばかりでなくドラミングをしたり、コウノトリのようにクラックリングというくちばしを合わせて音を出す鳥もおります。残念なことに日本では自然に繁殖しているコウノトリはいなくなりました。鳥の中には嘴で木を突っ突くキツツキの仲間とか、嘴をたたき合わせて音を出すコウノトリとか、また、尾羽根を使って音を出すという変わった鳥もいます。オオジシギという鳥です。シギの仲間は余り日本では繁殖していませんが、オオジシギは日本で繁殖している数少ないシギで、冬になると南半球のオーストラリアまで渡っていく大変長距離の渡りをする鳥です。繁殖期になりますと自分の縄張りの上をズビヤークズビヤークと鳴きながら飛び回り、時には急降下する。尾羽根を広げて尾羽根にあたる風でズビヤークズビヤークという物凄い音を出す。雷のような音をだすのでカミナリシギとも呼ばれている。こういう動作をディスプレイフライトと呼んでいます。

鳥の中には他の鳥の物まねをする鳥もいます。今日聞きましたガビチョウもいろいろな鳥をまねして鳴きます。クロツグミもウグイスのような声を出



す。その代表としてモズがおります。モズは大変鳴きまねの上手な鳥で、漢字で書くと百の舌と書いてモズと読みますが、おそらく二枚舌ならず百の舌というの意味で「百舌」と書いてモズと読ませていると思います。

（オオヨシキリのテープ）オオヨシキリは夏鳥で春5月頃日本に来て、秋になりますと南の方に飛んでいく鳥で、ギョギョシーギョギョシーと鳴くので、仰仰子と俳句では読んでいる。（モズのオオヨシキリの鳴きまねのテープ）真冬にはいないはずのオオヨシキリが鳴いていたので、良く見たら鳴いているのはモズであった。

（カッコウの声）カッコウなども、カッコー、カッコーとのどかに鳴いているが、雌が近くにやってきましたり、他のカッコウが近くにやってくるとドモルことがある（ガガガー）。

（コサギの声）白サギといえば大変きれいな鳥で、日本画にも良く描かれている鳥です。コサギの声は、いかにも「うがい」をしているようなガラガラという声を出します。

鳥の声もいろいろで耳を澄まして聞いていると、おもしろい声を出します。美しい声で鳴いている鳥もいるし、うまく鳴けない鳥は嘴を使ったり尻尾を使ったりしていろいろな音を出す。そういうのに耳を傾けることも鳥を観察する上で必要だと思います。バードウォッチングという言葉がありますが、どうしても見るほうが主になりますが、バードリスリング、鳥の声に耳を傾けることも是非お勧めしたいと思います。

（スライドを使って、50年前の録音の様子、先生の現在のスタジオ、ウグイス、カッコウ、ヒバリ、カケス、コマドリ…などの声、ケラ類のドラミングの声紋を映写・解説）

## 鳥の生活

ごく簡単にとりの声について話しましたが、いろいろ録音を長い間やっていると、鳥の生活も少しずつわかってきます。特に、鳥の声にも喜怒哀楽があるということもよく感じます。

例えばアカゲラというキツツキなども、普段はケ、ケ、ケ…と鳴いておりますが、ケケケケケ…といかにも心配そうに鳴いていたら、そういうときは巣の近くにヘビが来ていたり、あるいは人間が近付き過ぎていたりすると、いかにも心配そうな声で鳴きます。

オナガもそうです。カラス科ですのでと声は良くないが、普段はそんなに切迫した感じはしないが、危険が迫ると悲鳴といった感じで鳴いております。

梅雨空のときのように曇った雨の日が続いた後、今日のような梅雨の晴れ間などには、待ち焦がれていたように鳥たちも嬉しそうに鳴き出す、そういう感じもあります。

シジュウカラなども夜寝るときに巣の近くの木の横枝に、オスとメスが止まってコチョコチコチコチと囁き合って、メスが巣に入ってタマゴや雛を温める、オスは木に止まって巣を見守る。私は、お休みなさいの挨拶といっています。

ミソサザイの巣で経験したことです。富士の5合目位で凄い嵐で吹き飛ばされそうになり、避難小屋に入りました。小屋の隅から微かな声が聞こえました。良く見るとミソサザイの雛が何羽かいました。向こうの方が先住者ですから、私は隅のほうでじっと見ていました。親鳥がエサを持ってきて雛にあたえる。なかなか巣から出ない。巣の中から（巣の外では）聞くことができないような小さな声で親鳥が鳴いている。それまでジージー鳴いていたのがだんだん静かになり、雛が鳴きやんだらエサを採るにいく。おそらく私はミソサザイの子守歌ではないかと思います。雛が喧しく鳴き叫んでいるときに巣を留守にすると、外敵からの危険がある。雛を寝かせ付けてから親はエサを取るにいったと思う。

そういうなかなかわかりにくい彼等の生活も、良く観察しているといろいろ分かってきて、人間と余り変わらない感情を持った可愛い生物だなと、つくづく思うようになった。そういう彼等の生活を守っていきたいと思う。

#### — 音による里山を —

最近、諫早湾の干拓地の水門閉めきりだとか、愛知の万博が決まって、豊かな森がどうなるのかとか、都会近くの里山が荒らされるとか、嫌な思いがいつもしているわけです。私が録音を始めた頃は、いわゆる新浜という浦安から行徳にかけての海岸に塩田があって、東京湾の水を汲んで食塩をつくられていた。今の東京湾の水で食塩が出来るのだろうか。そのころは、シギやチドリが簡単に録音できたのが、今では同じ所に行っても湾岸道路の音だけで、残念だと思います。今日ご案内いただいた川口丘陵ですか、あのあたりも素晴らしい里山で、八王子の皆さんの自慢できる里山だと私は思います。オオタカがいたり、サンコウチョウがいたり、外来種ですけどガビチョウがいたり、そういう自然は是非皆さんの手で守っていただきたいと思います。

ガビチョウもここが住みいいと思ってあそこに住んでいるでしょうから。

川口丘陵に限らずあの辺りには大変素晴らしい里山があります。私もまた何回か伺わせていただいて「音による里山」を、という粕谷さんのご希望もありますし、里山の春夏秋冬などが音で収録できたらと思います。これからも度々お邪魔すると思いますが、よろしくお願いします。(休憩)

### —— 野鳥の声の記録を残そう ——

夜の鳥を録音しているうちに段々明るくなって昼間の鳥が鳴き始める。やはり鳥は朝早くが一番良く鳴きます。川口丘陵のガビチョウも朝の方がよく鳴くと粕谷さんがおっしゃっていましたがその通りだと思いました。私は田無に住んでいて八王子の現地に着いたのが10時半ごろで、ガビチョウもそろそろ鳴きやむ時に川口に着きました。朝早く録音しなければだめだと思つづく思いました。それでも2度録音のチャンスがありました。

こちらのカワセミ会の方々も定点観測をなさっているそうですが、そういう時に毎回同じところで鳥を観察するときに、録音機を5分なり10分なり回したままで結構ですから録音していただくと、鳥の声の様子が良く記録できると思います。ラジカセでいいと思います。というのは、私はあちこちで録音をしていますと、季節によって鳥の声が変わるのはもちろんですが、年代によってずい分鳥の声が違ってきます。例えば、中軽井沢に野鳥の森があります、国が作った野鳥の森の第1号です。そこに40年以上前から毎年のように出掛けていますが、当時はもう1秒として鳥の声が絶え間がなかったのですが、20年くらい前から段々鳥の声が少なくなってきた。鳥の声が疎らになり、鳥の種類が減ってきた。最近では、録音を聴いていて何の鳥が鳴いているか分かるくらい、声が寂しくなってきた。辺りの環境はそう変わらないです。ですから、写真で記録できないことが音で記録できると思います。定点観測するときに録音機を15分でもいいテープを回しっぱなしにして録音しておく、何年か経つと昔はこういう鳥がいたが、今は、いなくなったとか、その時はいなかった鳥が入ってきたとか、記録になると思います。是非お試しになさってください。

鳥の録音をしている人より写真を写されている方が多いと思います。確かに鳥の生態写真の記録というのは大事です。鳥を愛する人が鳥の生態写真を写す、鳥の気持ちになって彼等のプライバシーを損なわないように注意して生態写真を写される。それは余り影響ないですが、ただ、鳥を被写体、モデ

ルだと思って写すカメラマンが増えている。大事な鳥はだれにも発表しないことが良くあります。声の方は写真を写される方に比べてやっている方が少ないこともあるが影響は少ない。スライドで鳥の姿を写すのはおもしろいが、声でも結構おもしろい記録になるとおもいますから、是非やってみて下さい。それには、携帯用の小型の録音機で結構です。ただ、内臓マイクですと雑音が増えますから、外部マイクを録音機に差し込んでコードを2・3M伸ばして録音されれば記録としては十分役に立つと思います。私があちこち出掛けて録音しても1年のうち何時間もないわけです。地元の方でしたらもっと機会が多く録音できるし、いろんな気が付かなかったことも録音できると思います。

— 会場の質問より —

Q、お話しの中でモズは大変鳴きまねがうまい鳥で、真冬にオオヨシキリの鳴き声を出していたとのことですが、少なくとも前の年の夏に覚えた鳴きまねを半年も経ってから、すぐ近くにお手本がなくても1羽のモズが何種類もの鳴きまねができるのか伺います。

A、お手本になるオオヨシキリが鳴きやむのは7月末で、土用に入るとほとんど鳴かなくなる。半年たってもまだオオヨシキリの声を覚えているとは記憶力のいいモズだと思います。ただ、よく鳥が他の鳥の鳴きまねをしているのか、それとも、その鳴き声を自分の歌にしてしまって、鳴きまねでなく自分の声で、自分のレパートリーのひとつだと思います。モズは小さな猛禽というように他の鳥を襲うこともあります。他の鳥の鳴きまねをしておびき寄せて、近くにきたときに捕まえるという人もいます。私はモズが鳴きまねをしているのを見ておりますと、下心があって鳴きまねをしているとは思えない。おれはこんなに歌が唄えるんだ、という感じでモズが他の鳥の鳴きまねをしているように思います。彼にしては、鳴きまねではなく、オオヨシキリの声にしても、ウグイスのホーホケキョもやるし谷渡りもやる、いろんな声も鳴きまねではなく自分の声のひとつではないでしょうか。

Q 録音をやりたいが風の音が入ってしまう。どうすればよいか。

A それは難しい。マイクロホンは振動板が動いて音になっているのですが、風はすごいエネルギーで振動板を動かしますから、いわゆるヒューという

音でなくゴボゴボという音になってしまう。それを防ぐためにマイクロホンに風防をかぶせる。野外ではスポンジやストッキング、靴下などをマイクロホンにかぶせるとずいぶん違う。そのときの風の強さによって加減している。集音機も風に弱いので私はパンティーストッキングをかぶせる。1～3枚かぶせてもそれ程音には影響ないし、多少減衰するが風の音よりはいいと思います。

Q 鳥にも方言がありますか。

A 鳥の方言というのはなかなか難しく、人間が関西弁とか東北弁とかいうように、はっきり分れる場合もありますがそうでない場合もある。方言というのを、地方による鳴き声の違いと考えたとき、本州のウグイスはホーホケキョと鳴きますが、小笠原のウグイス、アシナガウグイスという亜種になりますが、キーコンというとてもウグイスとは思えない声を出します。そういう場合に、明らかに鳴き声が違うから方言だな、地方によって鳴き声が違うから地方差、方言だなと思います。が、同じ所においても全部同じ声で鳴くとは限らない。ホウジロなども同じ地域においても全部同じ声でない。隣同士が全部同じだったら、メスも家のダンナはどれか分からなくなる。同じところにおいても個性があって鳴き声が違う。個体差といいます。一羽一羽の声の違いと地域全体の声の違いは、なかなかはっきり分からない。ホオジロも北海道から九州まで、あちこちで録音を取って並べてみますとずいぶん鳴き声の違いが違います。これがホオジロの囀りかなと思うくらい違いますが、その地域はその声だけかなと思うとそうでもない。個体差の方が差が大きい場合もある。しかし、大きく分ければ、大きい地域での差はある。例えば、本州のアカハラと北海道のアカハラでは囀りが違いますから、方言ともいえるかも知れません。

Q 鳥の鳴き声の本やCDを紹介して下さい。

A 鳥の鳴き声の本もいろいろ出ていますが、鳴き声のCDですとNHKが関係しているのか、私が作ったものかとなるとと思います。種類からいえば私が作った小学館の「野鳥大鑑 鳴き声333」というのが現在一番種類は多いと思います。野鳥の会の機関誌「野鳥」にCDの案内が毎号出ていますが、あれはNHKで鳥だけでなく自然のカエルとか、セミとか獣とかの鳴き声が含まれています。それはそれで貴重だと思います。最近ではC

D ROMパソコンを使って行うものですが、野鳥に関するものが5・6種類あります。CD ROMは面白いが、識別に役立つかどうか問題です。あれを作る目的が、お遊び的要素がだいぶ含まれている。パソコンに疲れたときやってみるということだと思います。それ以外で、カエルは是非勧めたいと思います。山と溪谷社が出したカエルの合唱は、日本にいる38種類のうち36種類のカエルの声が入っています。私はカエルの姿はじっくり見る気がしないが、鳴き声は面白いと思います。虫も山溪から出ています。

Q 鳥の録音をしていて苦労したこと、鳥が鳴かなかったことなどお聞かせください。

A サギの仲間が夜鳴く鳥のサンカノゴイを録音したときですが、北海道の一番北の浜頓別の湖で鳴いているとの知らせで、飛行機と列車を乗り継いで行ったが、5日待っても鳴かない。友人は「昨日まで鳴いていたが」と言われるが、鳴かない、あきらめて帰った。翌年京都の友人から琵琶湖の湖畔でサンカノゴイが鳴いているとの知らせで駆け付け、堤防の上にテントを張って待っていたらすぐ鳴いた。

鳥はなかなか思うように行かないから、鳴くまで待とうという家康的な方法で、今年駄目なら来年と言うくらいの気持ちでやっている。いろんな人に、こういう鳥が鳴いたら知らせて下さいとお願いしているが、教えてくれた方も東京から遠くへ来たのになんとか録音させてやりたいと思っているし、また、いくら鳴いているからと呼んでくれても、私がいったときに鳴くわけでないし。そういう点で、私も私を呼んでくれた人にすごく申し訳ないし、相手もせっかく録音出来ると言ったのに鳴かなかったら、責任を感じてしまわれる。鳥と言うのはそうなんだよね。こっちの思うように行かないし、思わないときにすごく良い音が取れるときもある。のんびり構えて鳥が鳴いてくれたら録音する。

チャンスはなるべく多く、取れても取れなくても行かなければ絶対取れないから。50年もやっているから、鳴かないからといってがっかりして帰ってくるということもない。相手は鳥だから鳥まかせです。

Q サンコウチョウの鳴き方でホイホイホイの回数の使い分けとメスが鳴く時はどういう時か。

A サンコウチョウのホイホイホイは、3回、2回、1回するとき、また、ホ

イをつけないときもある。どういう意味があるか分かり兼ねる。ウグイスも、ホーホケキョ、ヒーホケキョ、ホホホケキョなどいろいろ鳴くが、ホホホケキョという低い込み入った声の時は、メスに対する警戒の意味もあるという観察記録もある。サンコウチョウもホイホイと鳴く回数がメスに対してなんかの合図の意味があるのかもしれない。良く観察してほしい。

サンコウチョウはメスもオスに似た声で囀るが、その時はメスが危険を感じたときにオスに知らせるために囀るのではないか。オオルリのメスもオスと同じように囀ることもありますが、そういう場合は、人間が巣に近づいたときとか、へびが近づいたときとか、異状があったときにメスも鳴いてオスに知らせるといふ。サンコウチョウはオスが巣の回りで鳴いても巣の中のメスは応えない。ただ、メスが巣から出て巣から離れたところで鳴くことがある。オスメス交替で抱卵しますから、交替の合図でメスも鳴くことがあるのではないかと思う。

ありがとうございました。



## 自然復元用水路・新井用水ふれあい水辺 粕谷和夫

日野市では「水辺に生態系を」を目標にコンクリートで固めてしまった用水路を伝統工法で復元し、連続したピオトープとして水辺に棲む生き物の生態系に配慮した整備を行っています。「新井用水ふれあい水辺」は日野市上田にあり、日野市水路清流課の親水事業として平成5年度と6年度の2カ年にわたり浅川の旧取水から下流へ150mの区間を「ふれあい水辺」として再整備したものです。既に行った向島用水親水路や平山用水ふれあい水辺工事は、水路幅が広いコンクリート護岸を取り壊し土水路に戻し、一部流れを蛇行させることが出来ましたが、新井用水は水路幅が狭く、僅かな水路幅を利用して生態系に配慮した復元工事の工夫がされました。具体的には石積み護岸を残しながら、その前面に雑木の粗朶を束ねたものを杭に縛り付けて積み上げる方式を取りました。そして石積み護岸と粗朶束の間に出来た隙間に土を入れて柳を挿したり、水草を植えたりして、水際を緑で覆うようにしました（以上、日野市役所水路清流課発行「清流ニュースNo.32」から引用）。

身近な所に自然が復元されつつある感じがします。私の予感ではここにもやがてカワセミがやって来ると確信しています。そこで、この150mの区間にどのくらいの野鳥が戻って来るか調査すると大変興味深い結果が得られるのではないかと思います。そこで、この近くで会員の小塩菊子様に、復元された新井用水に来る野鳥の調査を依頼しました。

調査結果は次表の通りであり、復元された用水路部分とその両側の周辺に分けて調査しました。今のところ用水路部分ではスズメしか認められませんが、やがては多くの野鳥が戻って来ることを期待します。3月に東屋ができ、植樹も終了し工事は完成しました。小塩様は3月にこの住人から昔はここにカワセミがいたという話を聞くことが出来ました。自然復元工事が終り、自然が回復してくればカワセミは戻って来るはずで。なお、6月には鯉が10匹出現し、7月には20匹に増え、更に7月にはアメンボ2匹、ハゲロトンボ2匹、モンシロチョウ3匹、キアゲハ1匹を観察しました。

新井用水(150mの区間)に来る野鳥・1997年

調査月日 天候 (前後) 調査時刻 調査報告者	4月12日 晴 8:50/7:30 小塩		5月5日 晴 8:44/7:20 小塩		8月8日 晴 8:30/7:30 小塩		7月14日 晴 9:00/10:00 小塩	
	用水路	周辺	用水路	周辺	用水路	周辺	用水路	周辺
296 キンバト				2		1		
347 ツハメ		2		2		2		1
354 キヤレイ						1		
355 ハウセキレイ								
356 セウロセキレイ				1				
387 ヒヨドリ				2		1		2
387 ショウビトキ								
405 ツグミ		1						
481 アオジ				1				
471 カラヒバ								
488 スズメ	2		2	3	2	2	1	3
488 ムクドリ				2		1		
503 バホソガラス				1				
出現総羽数	2	3	2	12	2	8	1	6
種類数	1	2	1	8	1	6	1	3



## 対馬探鳥記

馬場 裕

対馬は国境の島だ。杵岐と同じく長崎県に属するが、最寄の福岡県からは直線距離で約130km、九州の最北部を占め、韓国を50km先に望む日本海の南端に位置する。古来より大陸の経済・文化伝承の中継地でもあった。多くの史跡・遺構や記念碑が散在し、日本語にハングルの混じる案内標識も目立つ。海空の航行のための、オメガ局、テッカ塔、ビーコン基地など電波施設が各地に見られ、海岸では防空レーダーアンテナが沖を向いている。美津島（みつしま）町の万関（まんぜき）橋、その他で南北が繋がった全島の面積約710km<sup>2</sup>の9割弱は山林で、その大部分が江戸時代からの杉・桧の植林であり、自然林はここでも僅少という。

イチョウやソテツの巨木など、大陸由来の生態系が営まれるこの島に定着した、うみてらし（ヒトツバタゴの俗称、一名なんじゃもんじゃ）や玄海つつじ、コウライキジ、ツシマジカなど天然記念物になっている動植物も多い。有名なツシマヤマネコを地元では長年に渡って給餌・観察してきたそうだが、今は100頭前後に減ったと聞いた。法律で希少種に指定し、保護に努めても絶滅は時間の問題らしい。やくま祭やアリラン祭など歴史的な伝統行事が盛んだそうだが、マスコミも滅多に来ず、ゴルフ場もないため、観光客は釣り人かダイバーがほとんど。が、ここ数年バードウォッチャーが増えている由。全6カ町に半農半漁の4万5千人が暮らし、シイタケ、しらも、ヒジキや「いりやき」など豊かな山海の産物・料理が美味である。

「アタリ年なら、3日で120種位の野鳥に遇えるかも・・・」と、ご案内いただく野鳥ガイド、増田智久氏（九州大学：助教授）の第一声に期待をふくらませて、対馬空港から貸切バスで上県（かみあがた）町佐護（さご）地区の、通称「古墳」に向かう。車窓からトビやカラスにも気を払いつつ、到着間近に佐護川沿いにある「ヤマショウビンおじさんの店」に立ち寄る。ジュースなどを買いながら鳥信を得るためだ。一杯機嫌？の店主は、「数日前から嘴の真っ赤なやつが来ているよ」と笑う。しかも3羽以上だという。やにわにバスの一行がざわめき出した。

喉を潤す間もなく「古墳」に到着。小高い丘には展望台が建てられていて、附近に水場やトイレもある。丘のベンチから見下ろすとずっと遠くまで畑が続いている。かなたではアマサギやチュウサギなどの群れ、手前には湿地か水路を蔽っているらしい叢の中からアオアシシギの鳴き声が聞こえた。休憩後、佐護の中心地区に移り、BWも佳境に入る。畑田の連なるあちこちにブッシュがあり、キマユホオジロ、ムネアカタヒバリ、ミヤマガラス他を観察した。シギチと何羽か夏羽の混じるオグロシギ6、7羽の一群も8、90m先の水田にじっくり。こんな遠方からでさえ我々を警戒するのか、腰高なフォックストロットでの移動は何ともユーモラスだ。

1時間余り歩き回った復路、佐護川に近いつづれ道で、ついにヤマショウビンと出くわした。そろそろと歩く僕たちの頭上を遡上し、川岸に接した畑田の奥、畦際の電柱に止まるや、くたびれかけていた一行はパニックに陥った。あの舳倉島以来、ちょうど2年ぶりの出会いとなるが、今回の方がずっと条件に恵まれている。かなり傾いた午後の日射しに映える大きな鳥が、嘴で羽繕いをしたり、ときおり電線に行き来するのを飽かずに見た。じわじわと場所を移りながら、人のスコープを次々と覗かせてもらう。ふと気づくと30分程も経ち、さすがに皆の興奮は赤・青・白の軌跡を残した鳥とともに川筋に消えていった。至福の時は終わりぬ。またしても5月4日は僕にとって「ヤマショウビンの日」となったのであった。

翌日は早暁から「一軒家」に向かう。コウノトリ、シマゴマ、イワミセキレイなど珍鳥が出るというポイントだ。畑田から続く山全体が演習林になっていて、植生や野鳥調査が行なわれているそう。森では、ウグイス・ムシクイ類の声、トラツグミ、イカル、サンショウクイなどを見聞きした。畑田の手前、バスを停めた道と藪林を隔てて西側は海岸で、対馬海峡が眼前に霞む。枯枝のミサゴに見守られながら、ヒレンジャク、ミヤマホオジロ、コホオアカ、シベリアアオジ、シマノジコなどを堪能した。亜種のシベリアアオジは冬場に自宅周辺でも確認していたが、シマノジコは僕にとって初見、しかも独立種である。顔から喉のあたりが明るい茶色で、ほとんど夏羽になりかかっている個体だが、移行途中の雄かと説明された。おそらく雌もいたのだろうが、ホオジロ類の集中するといわれる対馬でも、その確認は難しいと実感した。

屋前に「古墳」に戻る途中、夏羽のアトリ、ウズラシギ、ソリハシギ他、そしてまたもやヤマショウビンと再会した。佐護川そばの樹木の横枝に、派手な姿がまぶしい。もう、パニックは起きなかった。この日、夕方にも再訪した「一軒家」の畑田では、マミジロツメナガセキレイ、シベリアツメナガセキイ他を見た。どちらも亜種であるが後者は初見。白い眉斑の大きさが決め手なのだが、2種が交互に観察できたので、区別がついたともいえる。

最終日も朝6時から「一軒家」周辺で探鳥。例のホオジロ類が沢山いる畑田の奥を、番と思われるコウライキジが歩いていた。中学生の頃、庭の禽舎で飼っていたし、後年、BWに出かけた北海道でも声を聞いてはいたが、自然の中で観察したのは初めて。スコープで見ている間、何故かほのぼのとした気分になった。

何度目かに森に入り、山道で待つこと1時間余り、おまけのようにキマユムシクイを初見した。メジロによく似たフィーイチッという声を何回か耳にしたので、サブガイドの古谷氏と増田先生が二手に別れて山の斜面を探索してくれたのだ。諦めかけたころ、斜面上方からムシクイとおぼしき小さな1羽が杉枝に飛来し、一瞬の後、谷に下っていった。急ぎ旅なのでお相手はできないよ、また会おうね、と言っていたのだろうかと思つた。

前述以外の出現鳥

( ) 内は僕の未確認鳥 合計〔(73) / 83種・亜種〕  
カイツブリ、(ウミウ)、(ゴイサギ)、(ササゴイ)、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヒドリガモ、ホオジロガモ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ハヤブサ、(コジュケイ)、バン、コチドリ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、(チュウシャクシギ)、タシギ、(チュウジシギ)、キジバト、アマツバメ、カワセミ、コゲラ、ツバメ、(コシアカツバメ)、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ピンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、アカハラ、ツグミ、(ヤブサメ)、オオヨシキリ、センダイムシクイ、(キビタキ)、オオルリ、コサメビタキ、サンコウチョウ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ノジコ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、(カケス)、ハシボソガラス、ハシブトガラス。 番外：ドバト。

今回の対馬を含めて、ここ数年礼文島から西表島まで、ほぼ日本の南北両端までも出かけてBWしてきた。そして日本海側の孤島は渡り鳥にとって命の島であることが分かってきた。また全ての生物に共通で、野鳥に限ったことではないのだが、

1. 多くの種にとっては、人間の都合である国境などは無関係であること。
2. 世界約9千種の内、国内では約6百種が記録されているにすぎないこと。
3. 生態や分類（進化）などは学問に応じて流動し、まだ不明な点が多いこと。
4. 人間の、特に近來の経済活動が致命的な悪影響をもたらしていること。
5. 人間と同等の価値を持つ生命として、また文化・芸術上かけがえのない存続すること。

などを体験と様々な人・書物・マスコミ・電子情報・その他から得てきた。そこで、最近考え始めていることや反省すべきことも述べて、本記の締めくくりとしたい。それは、BWはなるべく少人数で行き、フィールドでは写真はできるだけ撮らず、決してタバコを吸わず、私語を控え、リーダーの先には立たず、また短時間の鑑賞に徹することが緊要だということである。次に、カワセミ会新年総会での年間観察記録の発表を今後はやめたいと思う。今年あたりから鳥学会の発表では、従来より解釈がマチマチだった内容、例えばヒタキ科の分類が見直される。さらに、リュウキュウコノハズクやオオトラツグミなどは亜種から種になる見通しだ。これらによって、タクソンサイクルや希少種の再検討など一学問分野にとどまらず、環境アセスメントや自然保護運動など社会的、行政的にも緊急な難題が浮上してくる筈である。

勿論そうしたことはさておくとして、明確な理由を聞かぬが、島嶼も多く南北に長い国であるにせよ、記録にあたっては国内での観察に限ったり、亜種を無視したリスト作成にどれほどの意味があるだろう。自己の預金残高やワードローブをひけらかすのと同様ではないか。BWは鳥のあるがままに接し、その命と背後にある生態系に思いを馳せるのが本趣だと思う。いわゆる珍鳥を求めるのは人情だが、鳥のしぐさや彼等との一期一会をこそ楽しみたいと考えている。

## エバーグレイズ探鳥旅行 (藤本ヤスコ)

北アメリカの南東部フロリダ半島にあるエバーグレイズ国立公園は「草原の川」と呼ばれる。有名な避寒地マイアミの西部に位置する広大な湿原はカナダ北部やアメリカ東部からエバーグレイズに、そこからさらに南のバハマ諸島や南アメリカへ渡る鳥にとって、越冬地や休憩地として重要な位置にある。そのため冬は野鳥の種類が多く、大型の水鳥も間近に観察できる。

ディズニーワールドのあるオーランドの南一帯からオーキョービー湖を水源として、深さ数センチ程の浅い川はゆるやかに下降しながら、幅が150キロにおよぶ広大な湿地帯となって南の海まで続く。

野生生物の宝庫であったフロリダも、急激な開発や乱獲で自然が破壊されていた。湿地帯の保護を呼びかけた少数の人々が、1930年代から政府に保護を働きかけ、ようやく国立公園に指定されたのは1947年である。

近年、そのエバーグレイズ湿地帯が干上がりつつあり、泥土はやせてきている。マイアミを始めとするフロリダ南部の都市や、沿岸のリゾート地で大量に水が消費され、また汚される水によって多くの生態系に影響が出ている。国立公園のパンフレットにも、絶滅種や希少種には赤丸がつけてある。

エバーグレイズ国立公園はメイン・ヴィジターセンターから一本道で、61キロ南の端に宿泊コテージとキャンプ地がある。その途中にそれぞれ名前のついたトレイル地があり、木道がかけてあるポイントもあって、観光客もゆつくりまわれるようになっている。

目前に広がる広漠な平原は92年のハリケーン・アンドルーの爪あとである枯れたり折れたりしたままの白っぽい木々が目立つ。

2月の中旬であるが、車や建物の外に出ると熱気が押し寄せる。亜熱帯気候の冬は乾期で川は水が少なくなり、おおきな水たまりとなって、魚や小動物が集中する。そこへワニや鳥が集まる。

いちばん大きなアンヒンガトレイルでは、入ってすぐの池にアメリカヘビウがいて、白いたてじまの翼を広げているものや、大きな魚をとらえて飲み込んでいるのもいる。魚はブルーギルだろうか。雌は羽色が異なり首のバフ色が美しい。

歩いていくとつぎつぎに水鳥が目の前にいて双眼鏡もいらないほどである。乱獲により一時は絶滅寸前までに減ったユキコサギ、アメリカ大陸にすむサギのなかではいちばん大きいオオアオサギ、微妙な色合いのヒメアカクロサギ、シロトキ、大型のコウノトリのアメリカトキコウ、木立ちの根元にアメリカササゴイ、湿地にシラガゴイと、図鑑と見比べるのに忙しい。灰青色のアメリカヤマセミもよく池に飛び込んでいる。鳥が見えかくれするヨシに似たソーグラスの中に、日本のユリのようなスワンプリリーが白い花をつけて、暑い日差しに涼やか。

夕方着いたコテージの前のヤシの木には、頭が赤いシマセゲラが動き回っている。コテージの前に広がる海岸に出ると、波打ち際にカブトガニの集団がいて、そのすぐそばにハジロオオシギがいる。

早朝探鳥は宿から歩いてすぐのエコポンドに行く。蚊の猛烈な来襲を受ける。生物保護は蚊も同様である。旅行の前に捜し回って買ってきた携帯用蚊取り線香は、売店で金鳥にそっくりの中国製が売られていた。白人はTシャツに短パンの軽装だが蚊に刺されないのだろうか。

グッドモーニングの声をかけあって夜明けを待っていると、水面にミカヅキシマアジやバンがいるのが見えてくる。くちばしの上よりも下のほうが長いクロハサミアジサシも飛んでくる。ミサゴががっちりした足指を突き出して捕食態勢に入る。明けそめた空をアメリカシロペリカンが隊列を作って旋回してゆく。森の向こうをベニヘラサギが緋色の翼を輝かせて海の方へ飛んでいった。

フロリダ湾は海も浅くてマングローブの小島が無数にある。干潮で干潟ができ、カッシュクペリカンやアメリカオオアジサシ等が羽を休めている。栈橋の杭にはワライカモメが並んでかしましく、時々上空をハクトウワシが飛ぶ。

午後遅くもう一度エコポンドに行き湖の裏側にまわる。林が開けた所の枯れ木の間をエンビタイランチョウが飛び交っている。スコープで覗くとサンゴ色の胸に長い尾羽をヒラヒラさせた姿はさながら天女の羽衣のようで魅せられる。

旅の後半は西海岸に移って、有名なサニベル島ではゲンカンドリ、オオカモメ、淡水と塩水が微妙に入り交じって様々の鳥が、オージュボン協会のコークスクリュエーサンクチュアリではシヨウジョウコウカンチョウ、エボシクマゲラ、メキシコ湾の海岸ではミヤコドリ、多くのシギ、チドリ、ドルフィンまで出て珍しい鳥や生物に会う日が続くのですがそれは又つぎの機会に。

太田七穂



## カワセミ18号の訂正

本年2月に発行しました「かわせみ」18号に一部誤りがありましたので下記のとおり訂正し、お詫びいたします。

訂正箇所 4ページ17行

訂正前 会費について、入会金を納めた年度の年会費は納入しなくてもよいことになりました。

訂正後 八王子カワセミ会に入会する方は、入会金(1,000円)と年会費(1,000円)を納入することになりました。

暫定的に会則第5条但し書で、入会時の負担を軽減してきましたが、その後、継続会員と新会員の間に負担に均衡を欠く現象がでてきたので、訂正したものです。

新しく会員になる方は、入会金(入会の時のみ)と年会費の計2,000円が必要となります。

### 機関紙『カワセミ』投稿のご案内

機関紙『カワセミ』は、皆様からの投稿により紙面を構成しています。内容は、各種調査の結果や探鳥会の感想文などが中心となっていますが、野鳥に関することを幅広く収集する方針ですので、積極的な投稿をお待ちしています。原稿はワープロ化したものをお願いしていますが、手書きでも結構です。原稿作成に当たり、以下のような執筆要領を作成しましたので、可能な範囲で適用して下さい。

また、パソコン通信で送って頂いても結構です。

- (1) サイズは、B5、原則縦使い横書き一列。
- (2) 両サイドの余白は、20mm以上、上下余白は、25mm以上。
- (3) 文字サイズ、行間は、下記を標準としますが、上記の枠内に納まること。
  - ・文字サイズ：10.5ポイント
  - ・文字間：3.8mm(枠内に37文字)
  - ・行間：6.0mm(枠内に33行タイトル含む)
- (4) 紙面を見やすくするためにカット等を活用して下さい。
- (5) 原稿(写真も含む)はお返ししません。返却が必要な場合は追記して下さい。
- (6) 冊子に使えるカット等ありましたら提供方お願いします。

かわせみ編集局 (NIFTY ID:CZB14024)

(編集メモ)

気象庁 6 月発表の三ヶ月予報で、7 月の気温を「平年並み」か「平年より低い」と予想した。これは、エルニーニョ現象の発生と北半球の偏西風の蛇行によるらしい。エルニーニョ現象は、2年から7年おきに発生し、世界各地で干ばつや豪雨などの異常気象をもたらすとされる。日本でも過去、梅雨が長引いて冷夏になったり、暖冬になったりする傾向があった。

しかし、今年の日本は、ちがった。東京では、6月9日頃の梅雨入り以来の1ヶ月間で最高気温が平年以下になったのは6日間だけで、7月5日には7月としては史上最高の37.7度を記録した。エルニーニョ現象時の定説が裏切られた。自然界のしくみはそう単純ではないということか。

熱帯産インコが東京で繁殖している。この鳥は、インドやアフリカなどが原産のワカケホンセンインコで、飼育されていたものが逃げ出し、目黒、大田区などをねぐらに悠々自適の生活をおくっている。東京でも熱帯産の鳥が生活できるようになったのは、都市部の気温が上昇するヒートアイランド現象が影響しているのか。もともと日本にいた鳥たちへの影響が心配される。

6月にコシアカツバメの営巣調査をした。6棟12個所の集合住宅の階段室で6個の営巣と12個の壊された巣を確認した。営巣している所では、階段に羽毛や糞などが散乱しており、そこに住んでおられる方には、やっかいなものらしく巣がこわされていた。一個所、巣の下にダンボールで糞除けを設置し、階段に糞が落ちないようにしている所があった。

野鳥を見ている分には、自然の保護とか共生とかでたのしく済ませることができが、共存するには、価値観の相違や個人の考えにまだまだ差があるようです。(N/ae)

カワセミ

1997年8月発行 第19号

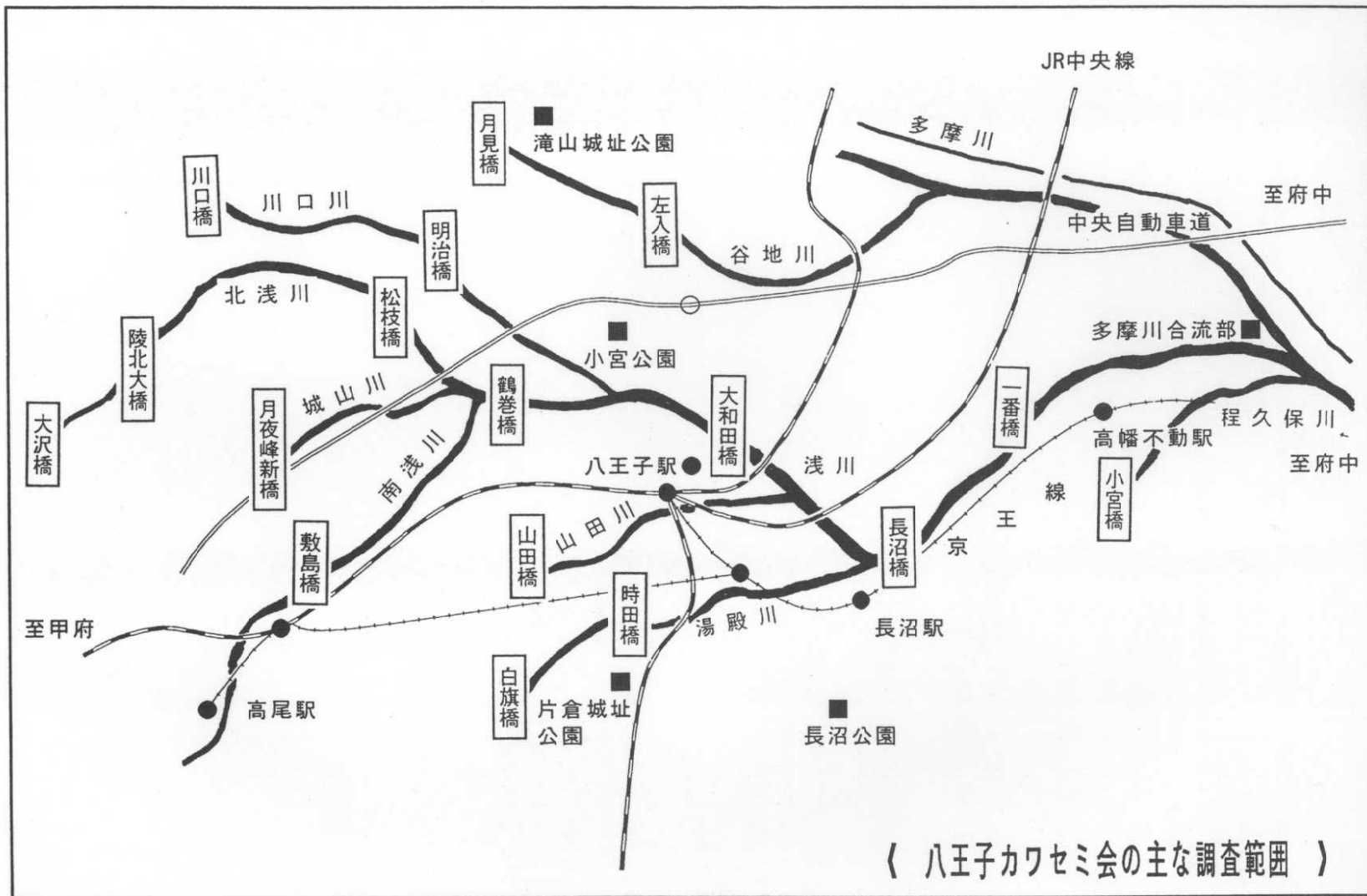
発行 八王子カワセミ会

発行人 粕谷 和夫

編集人 阿江 範彦

連絡先 日野市三沢 2-6-42





〈 八王子カワセミ会の主な調査範囲 〉





**Hachiōji  
Kawasemikai**